

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

## 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

- (1) F-Ⅲ断層, F-Ⅳ断層及びF-V断層
- (2) F<sub>K</sub>-1断層
- (3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲
- (4) F-I断層
- (5) F-II断層
- (6) F-VI断層
- (7) K-5撓曲
- (8) F-①断層及びF-②断層

## 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

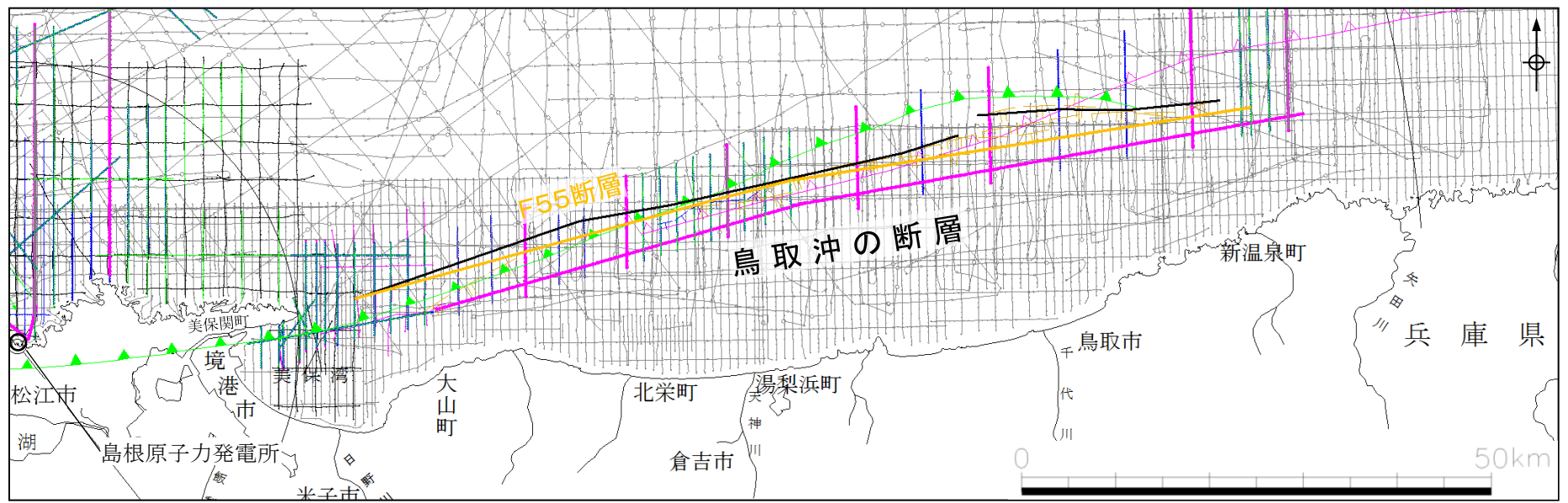
- (1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層
- (2) 大田沖断層
- (3) F57断層
- (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びFKO断層
- (5) 隠岐北西方の断層
- (6) 見島付近の断層
- (7) 見島北方沖の断層
- (8) 地蔵崎北東沖の断層

## 4. 敷地前面海域の地質層序

## 5. 敷地周辺海域の地質層序

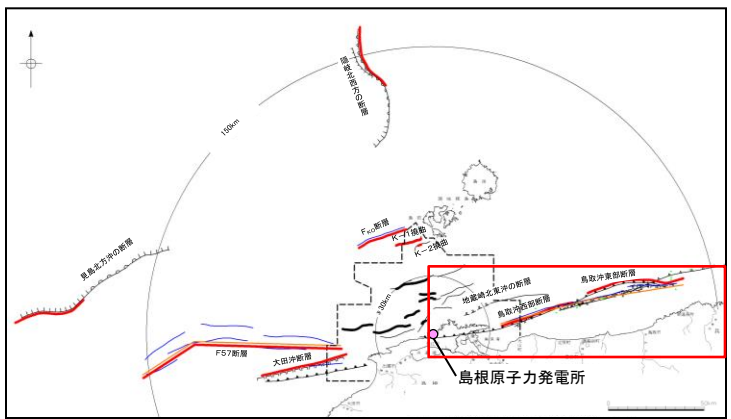
- (1) 鳥取沖
- (2) 大田沖
- (3) その他海域

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (1)鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層 鳥取沖における調査の概要



凡 例

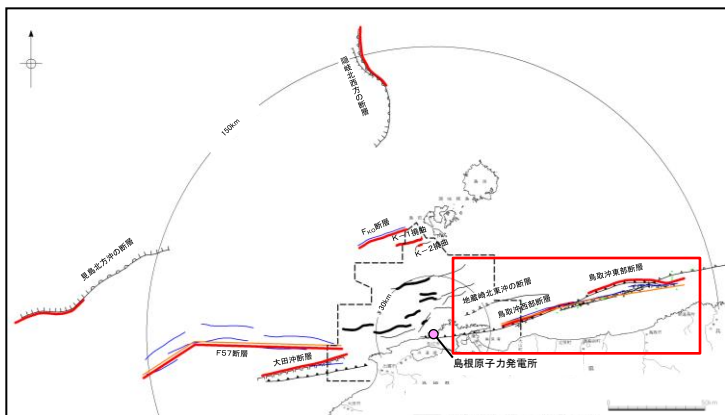
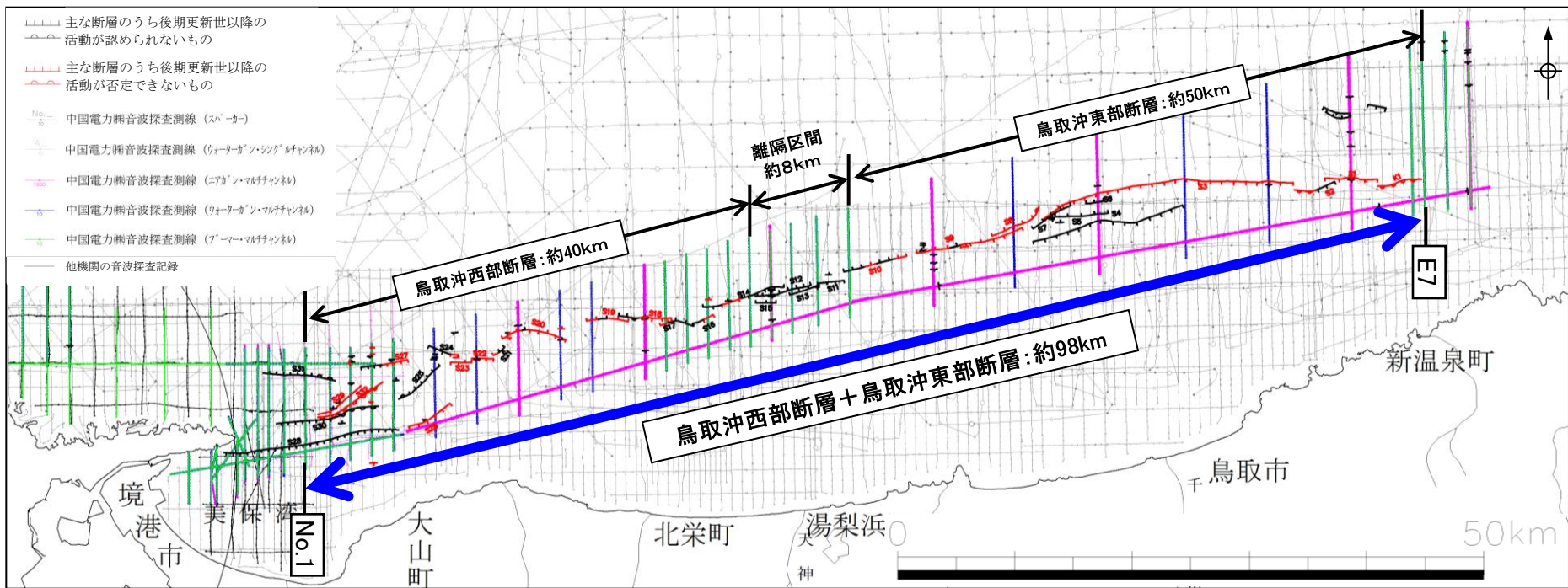
- ▲▲▲▲ 地質調査所「日本地質構造図, 日本地質アトラス (第2版)」1/300万による新第三紀の逆断層 (三角形は断層面の傾斜方向を示す)
- 地質調査所「広域海底地質図」1/100万による断層, 伏在断層及び推定断層
- ▲▲▲▲ 地質調査所「海底地質図」1/20万による断層, 伏在断層及び推定断層
- ▲▲▲▲ 海上保安庁水路部「海底地質構造図」1/5万による伏在断層
- ▲▲▲▲ 徳山ほか(2001)「日本周辺海域中新世最末期以降の構造発達史」による逆断層 (三角形は断層面の傾斜方向を示す)
- 国土交通省・内閣府・文部科学省 (2014) 「日本海における大規模地震に関する調査検討会」による活断層
- 最大規模の津波想定のための断層のグルーピング
- 中国電力株式会社音波探査測線 (スパート)
- 中国電力株式会社音波探査測線 (クォーター・シンク・チャンネル)
- 中国電力株式会社音波探査測線 (コア・シンク・チャンネル)
- 中国電力株式会社音波探査測線 (クォーター・シンク・チャンネル)
- 中国電力株式会社音波探査測線 (ブローマ・チャンネル)
- 他機関の音波探査記録



・脇田ほか(1992)等で兵庫県新温泉町沖から島根県松江市美保関町南方を通り島根半島東部の陸域に示された「鳥取沖の断層」について, 当社, 海上保安庁水路部(1991)等の音波探査記録に基づいて, 分布性状, 活動性等を検討した。

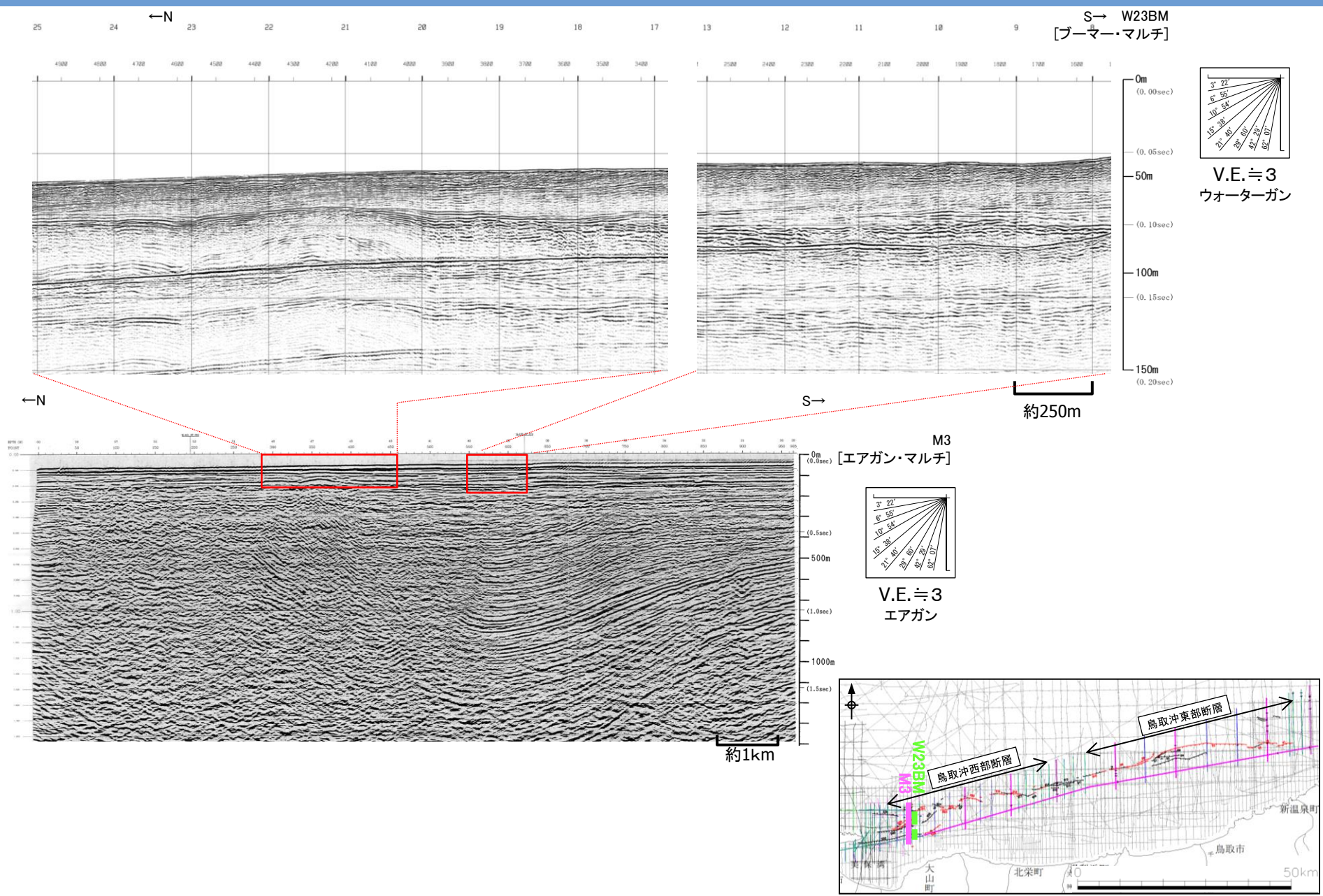
・また, 国土交通省・内閣府・文部科学省(2014)では, 「F55断層」として約95kmが同時に破壊するとしてグルーピングされている。

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (1)鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層の評価

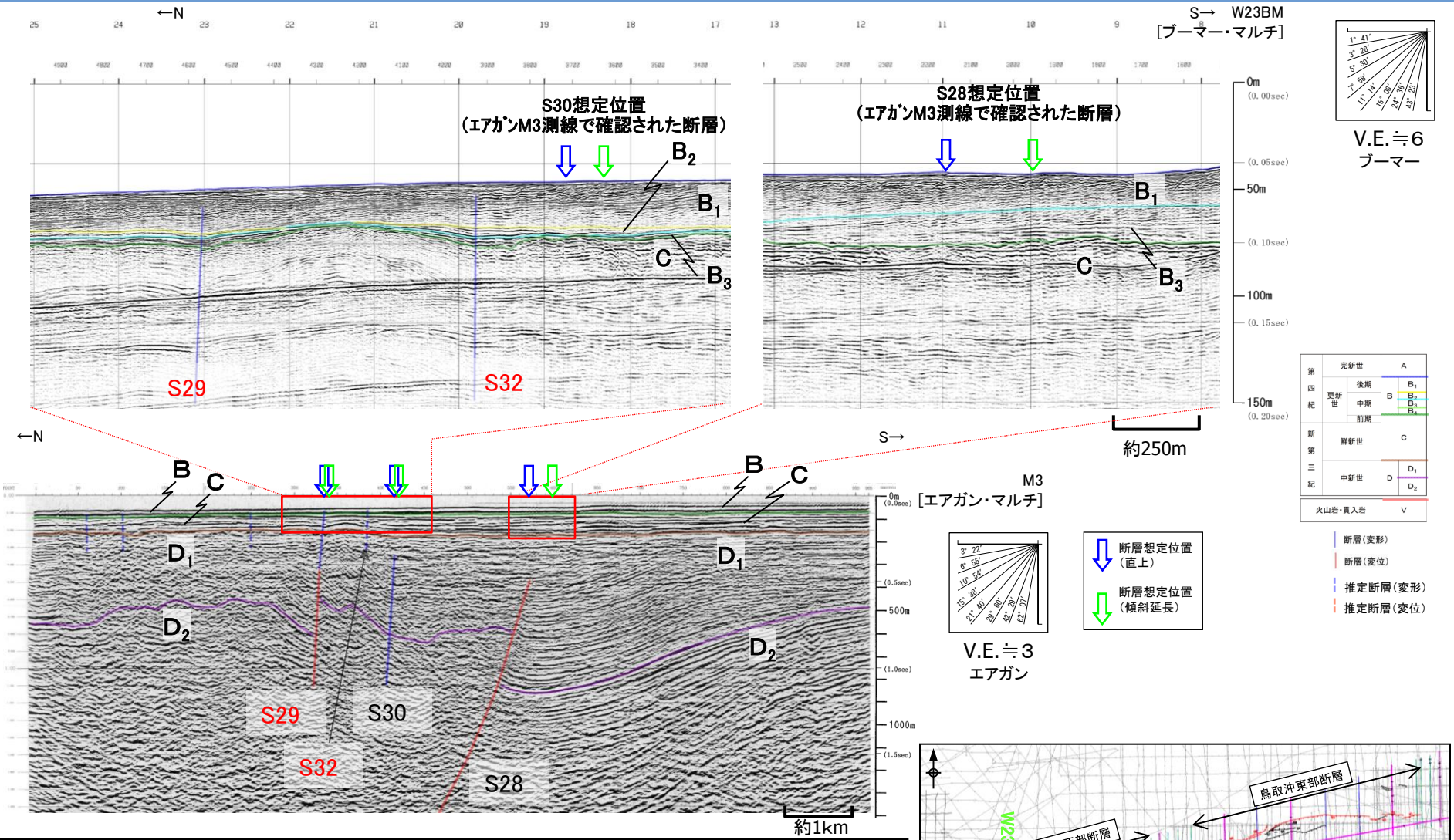


- ・「鳥取沖の断層」は、東北東－西南西走向の複数の断層から成る断層であり、西部に位置する断層及び撓曲を一括して「鳥取沖西部断層」、東部に位置する断層及び撓曲を一括して「鳥取沖東部断層」と呼称する。
- ・鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層については、その間に上部更新統に変位や変形が及んでいない区間が狭在し、連動の可能性は低いと考えられるが、国土交通省・内閣府・文部科学省(2014)により、鳥取沖西部断層と鳥取沖東部断層が同時に破壊するとしてグルーピングされていることを踏まえて連動を考慮し、西端を鳥取沖西部断層の西端となるNo.1測線、東端を鳥取沖東部断層の東端となるE7測線とする、最大約98kmを評価長さとする。

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (1)鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層 鳥取沖西部断層の代表測線(音波探査記録)

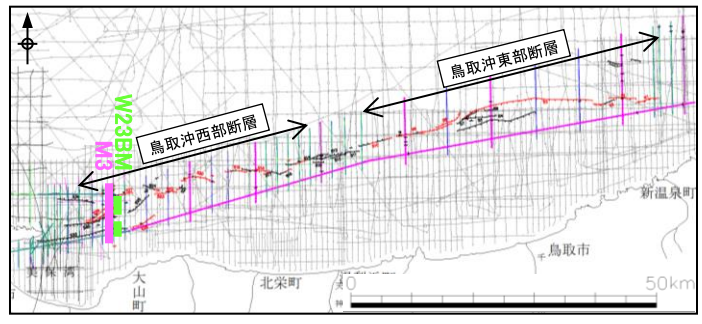


### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (1)鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層 鳥取沖西部断層の代表測線(音波探査解析図)

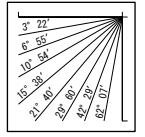
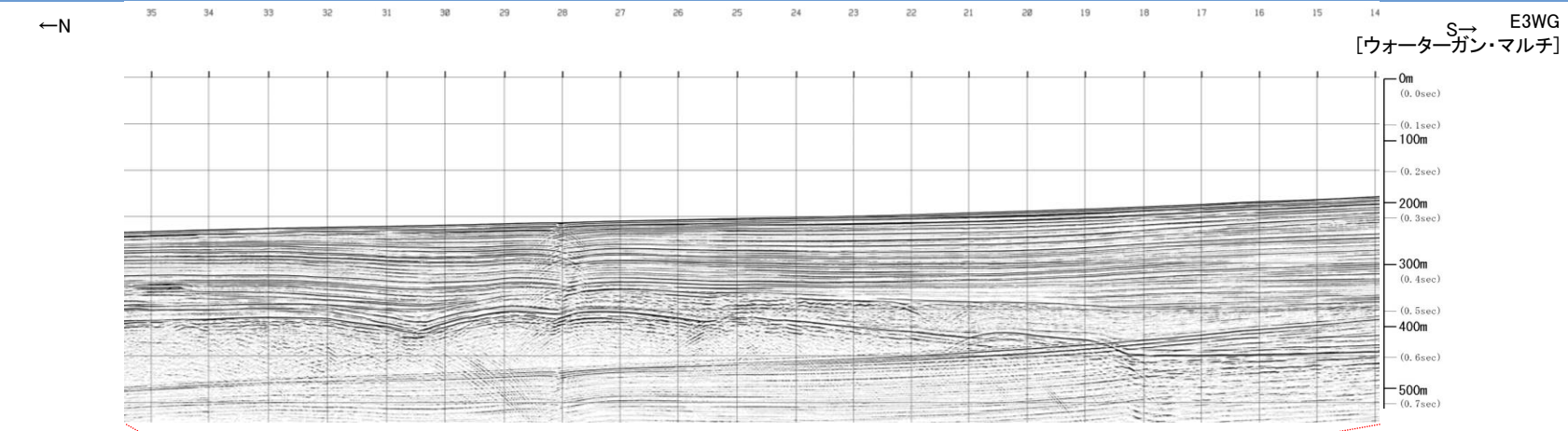


・S28断層は主にD<sub>2</sub>層の高まりの南縁を限っていることから、鳥取沖西部断層の主断層と考えられる。これに対し、そのほかの断層はD<sub>2</sub>層の高まりの中に位置していることから、副次的な断層と考えられる。

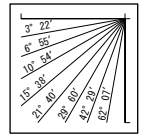
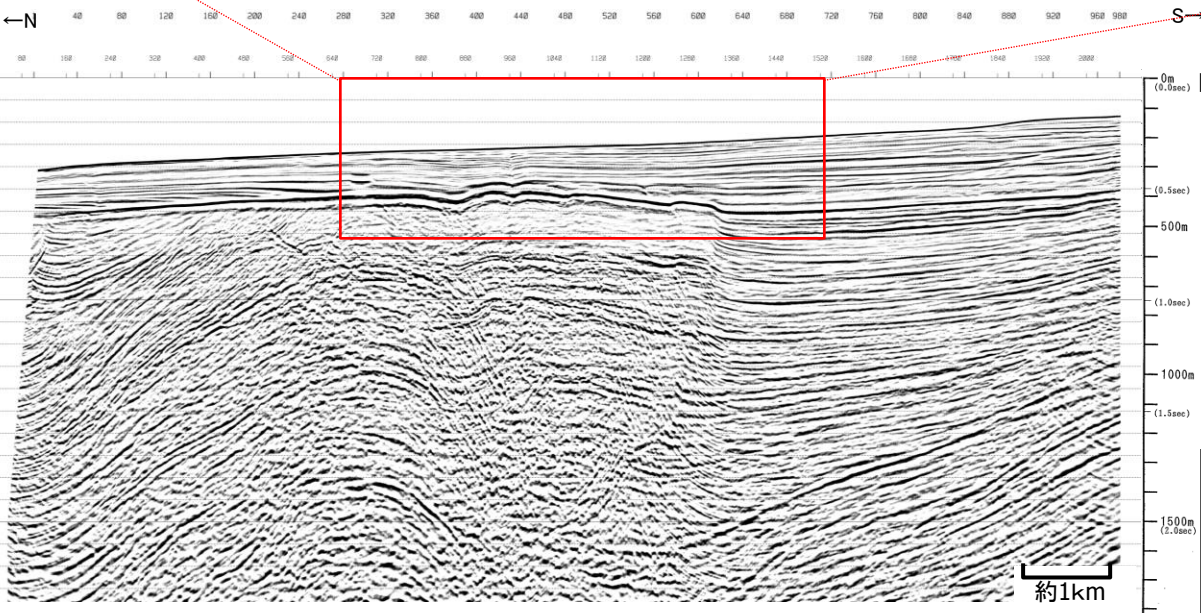
・S29断層及びS32撓曲は、B<sub>1</sub>層に変位を与えているため、後期更新世以降の活動を考慮するものとした。



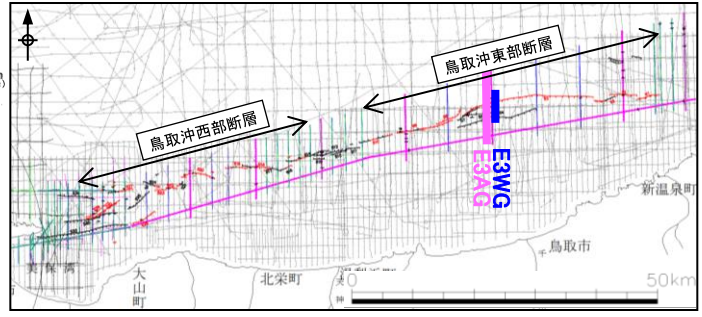
### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (1)鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層 鳥取沖東部断層の代表測線(音波探査記録)



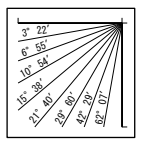
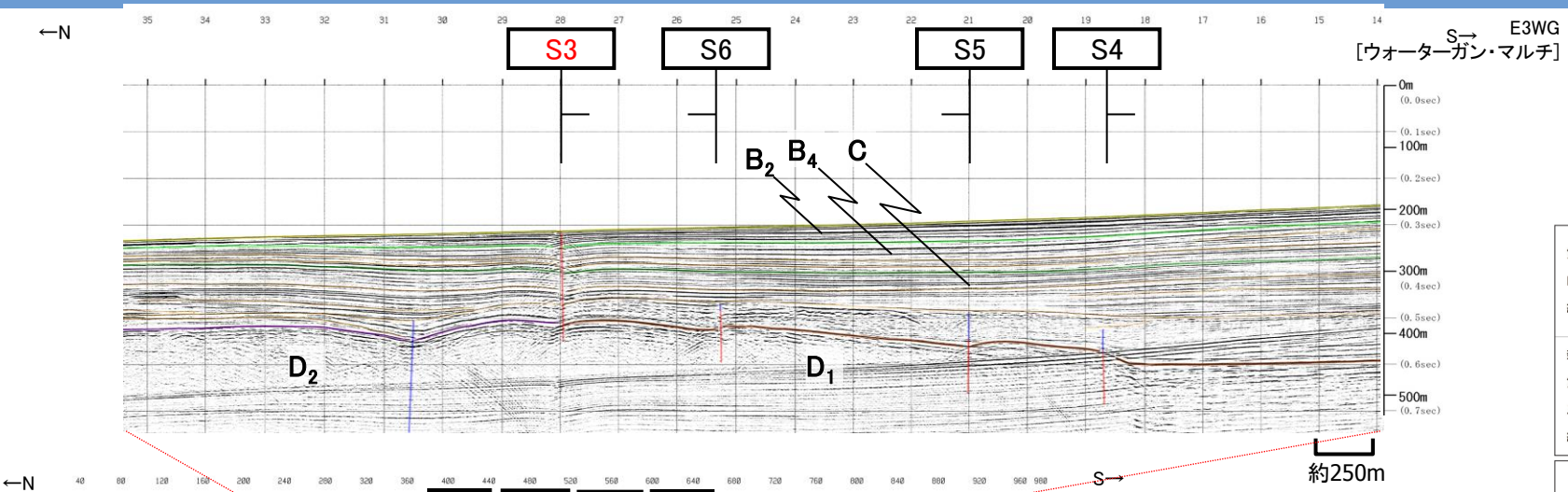
V.E. ≒ 3  
ウォーターガン



V.E. ≒ 3  
エアガン



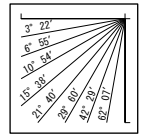
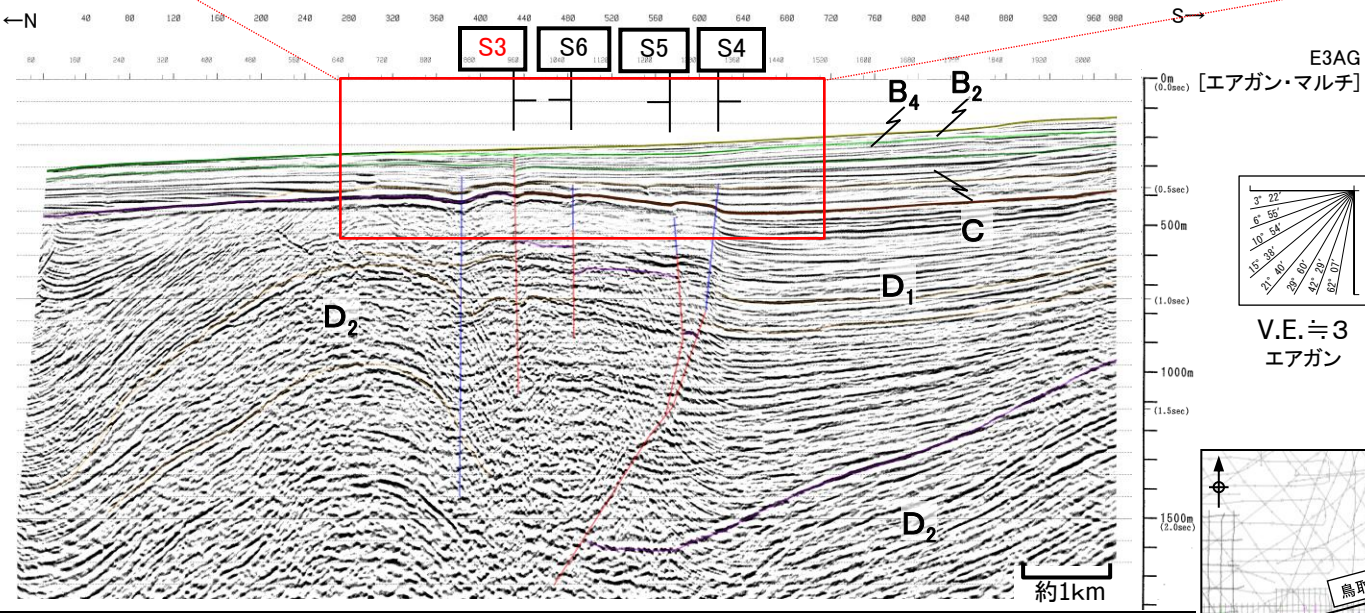
### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層 鳥取沖東部断層の代表測線(音波探査解析図)



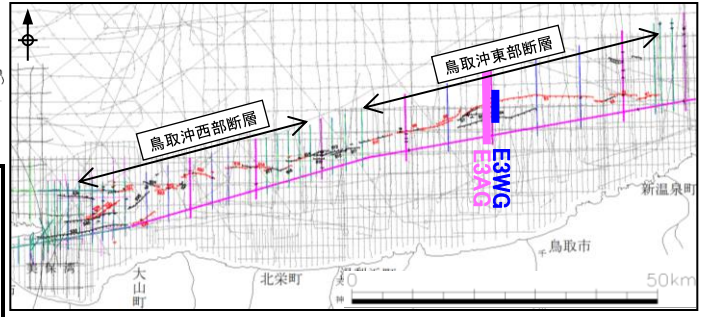
V.E. ≒ 3  
ウォーターガン

第四紀	完新世	A
	後期更新世	B <sub>1</sub>
第三紀	中期更新世	B
	前期更新世	B <sub>2</sub> B <sub>3</sub> B <sub>4</sub>
新第三紀	鮮新世	C
	中新世	D
		D <sub>1</sub> D <sub>2</sub>
	火山岩・貫入岩	V

断層(変形)  
断層(変位)

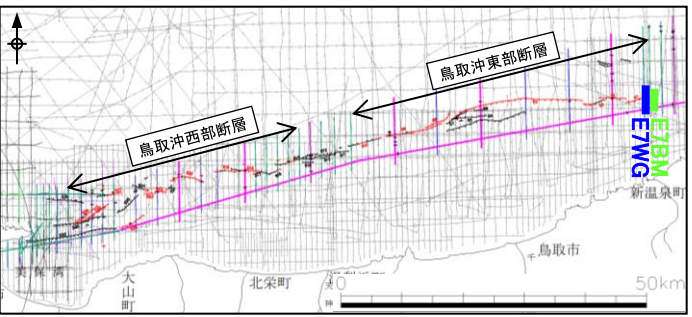
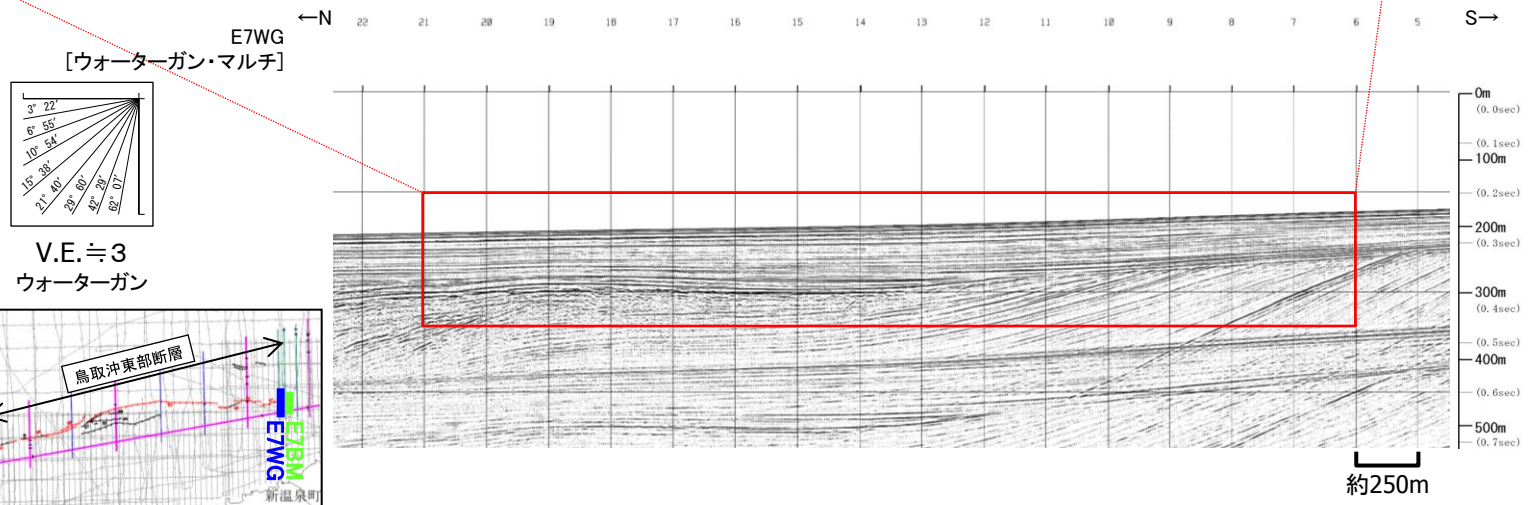
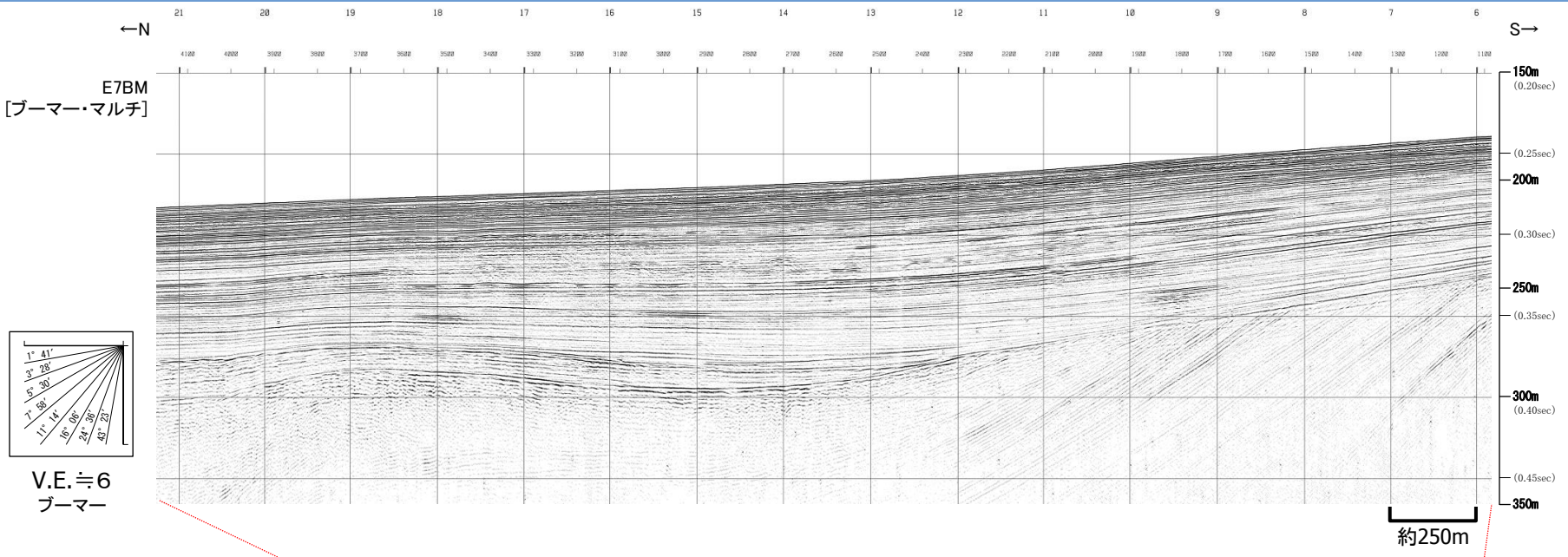


V.E. ≒ 3  
エアガン



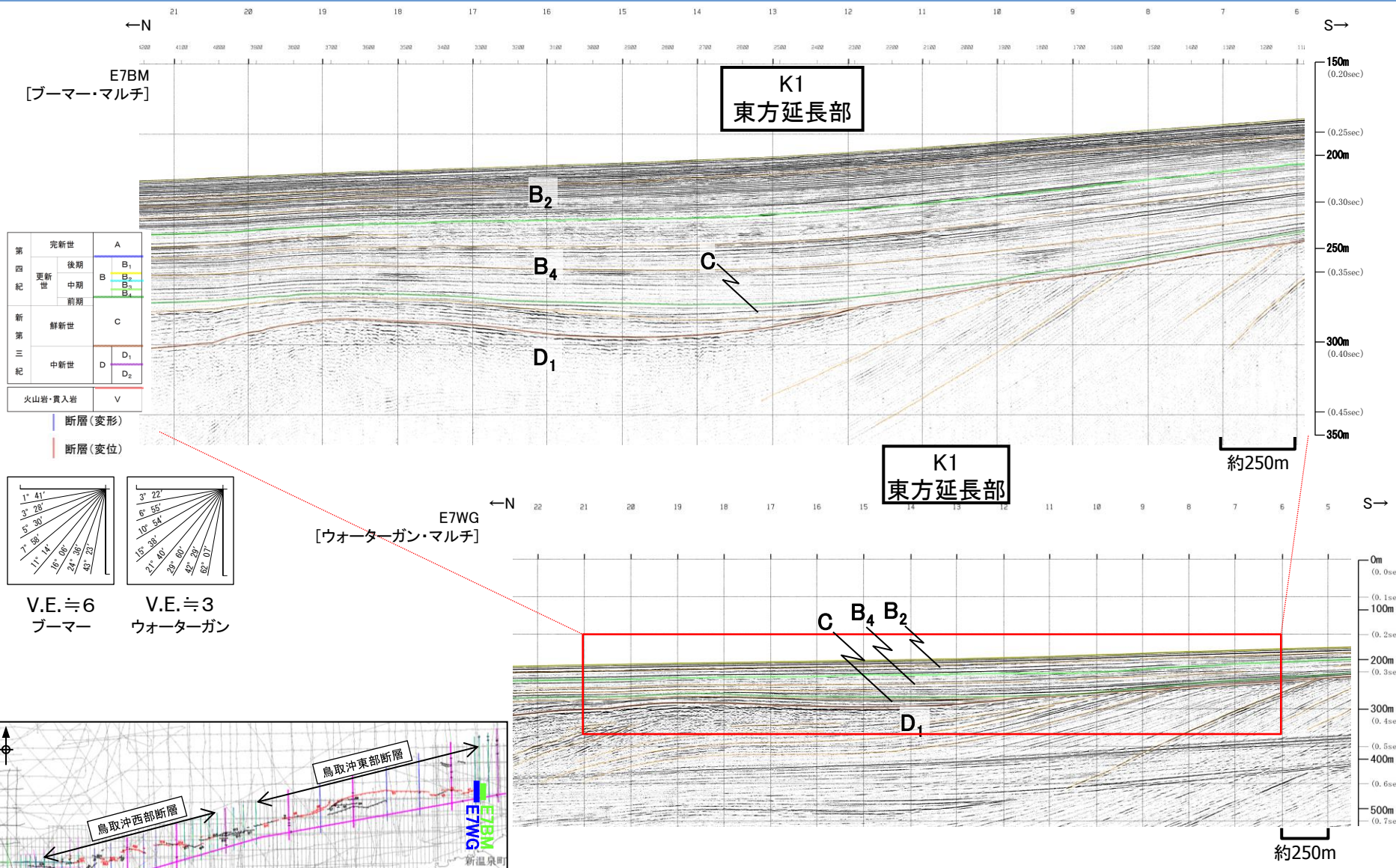
- S4断層及びS5断層は主にD<sub>2</sub>層の高まりの南縁を限っていることから、鳥取沖東部断層の主断層と考えられる。これに対し、そのほかの断層はD<sub>2</sub>層の高まりの中に位置していることから、副次的な断層と考えられる。
- S3断層は、B<sub>2</sub>層まで変位が認められ、その上位のB<sub>1</sub>層が欠如することから、後期更新世以降の活動を考慮するものとした。

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (1)鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層の東端(音波探査記録)



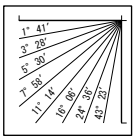
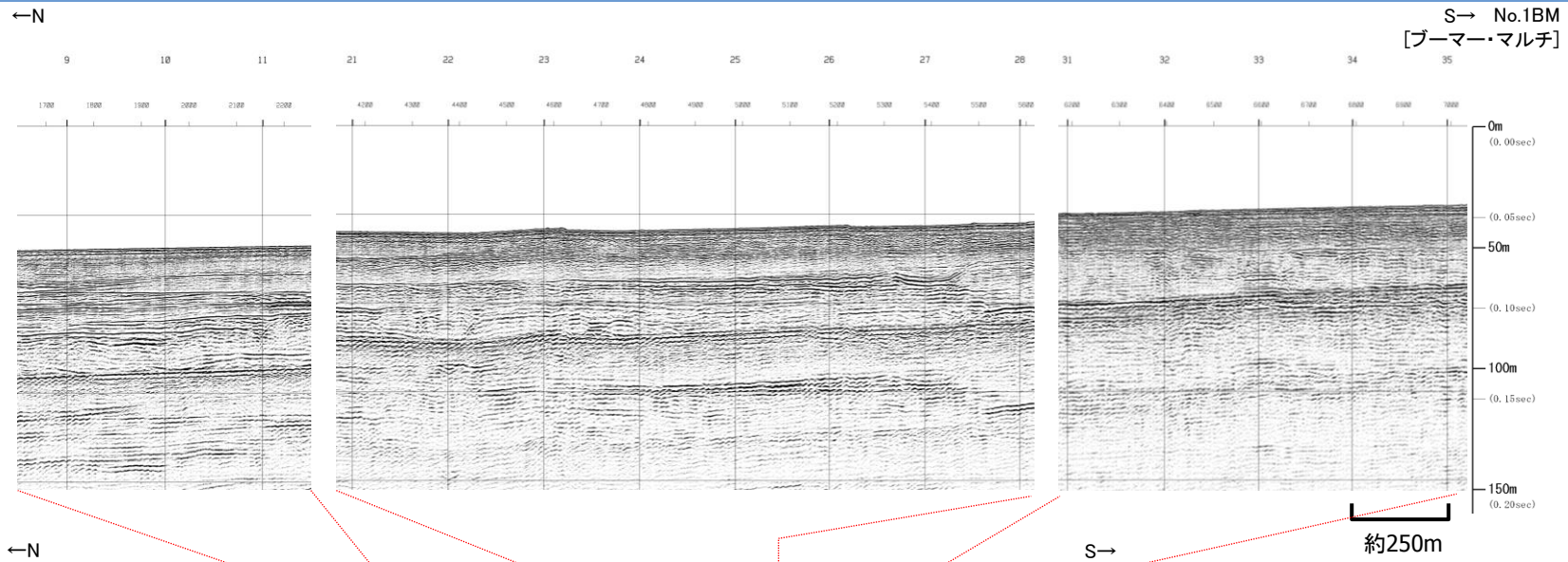


3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (1)鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層  
鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層の東端(音波探査解析図)

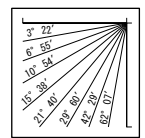
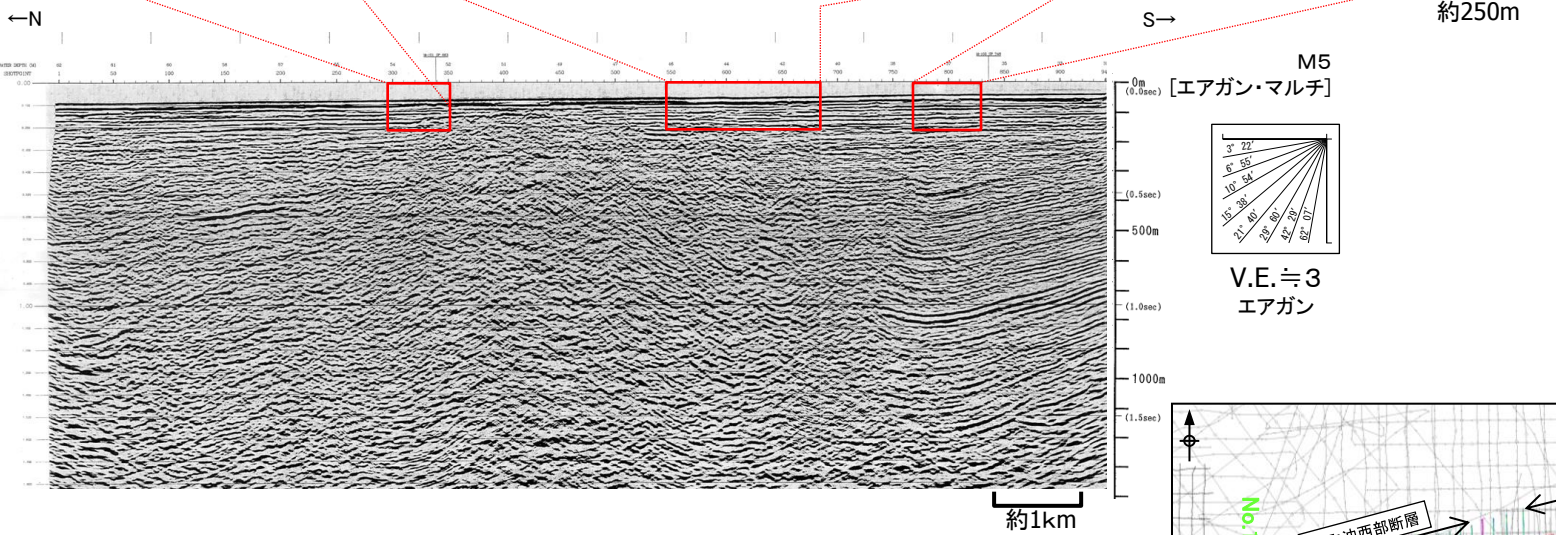


・鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層の東端にあたるK1撓曲東方延長部において、C層以上に断層活動を示唆する変位や変形は認められない。

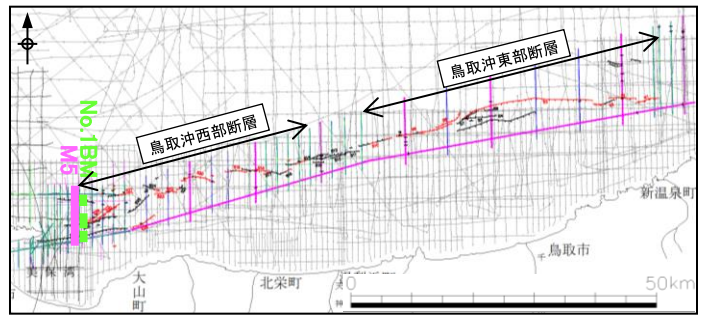
3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (1)鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層  
鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層の西端(音波探査記録)



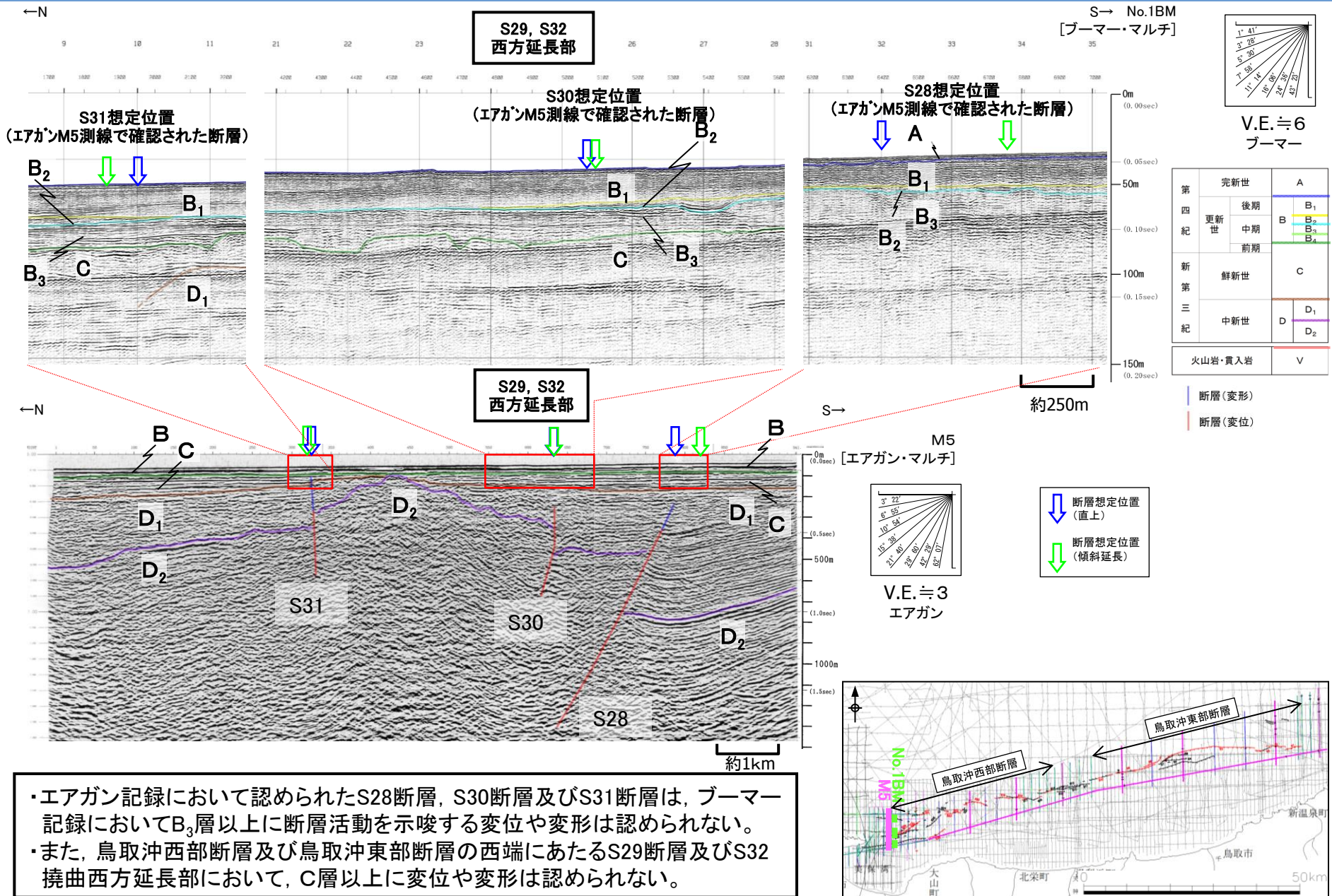
V.E. ≒ 6  
ブーマー



V.E. ≒ 3  
エアガン



3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (1)鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層  
鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層の西端(音波探査解析図)



余白

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

## 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

- (1) F-Ⅲ断層, F-Ⅳ断層及びF-V断層
- (2) F<sub>K</sub>-1断層
- (3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲
- (4) F-I断層
- (5) F-II断層
- (6) F-VI断層
- (7) K-5撓曲
- (8) F-①断層及びF-②断層

## 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

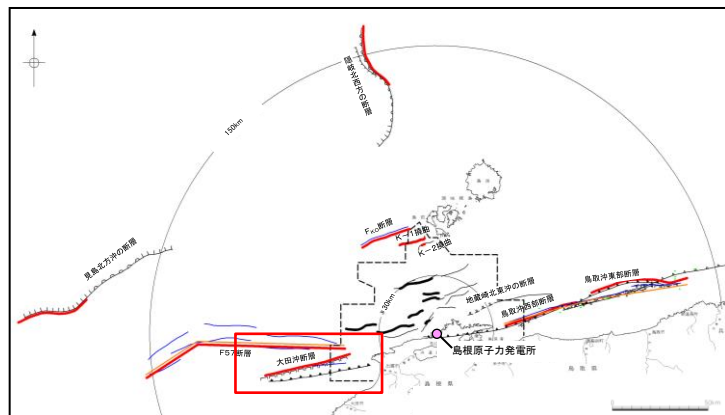
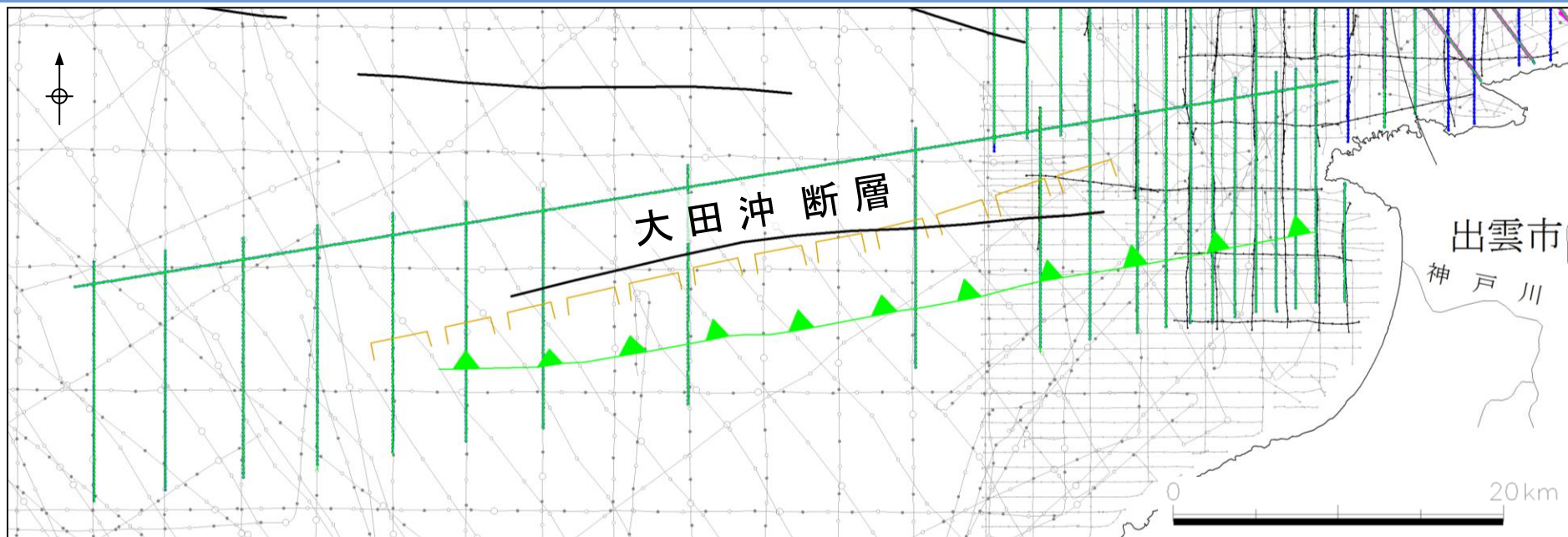
- (1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層
- (2) 大田沖断層
- (3) F57断層
- (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層
- (5) 隠岐北西方の断層
- (6) 見島付近の断層
- (7) 見島北方沖の断層
- (8) 地蔵崎北東沖の断層

## 4. 敷地前面海域の地質層序

## 5. 敷地周辺海域の地質層序

- (1) 鳥取沖
- (2) 大田沖
- (3) その他海域

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (2)大田沖断層 大田沖における調査の概要



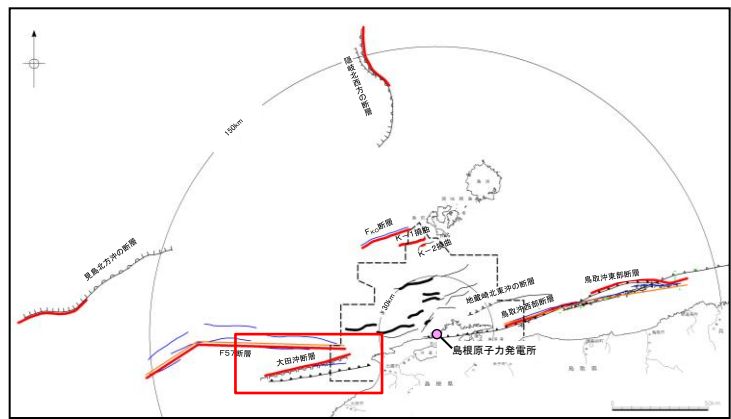
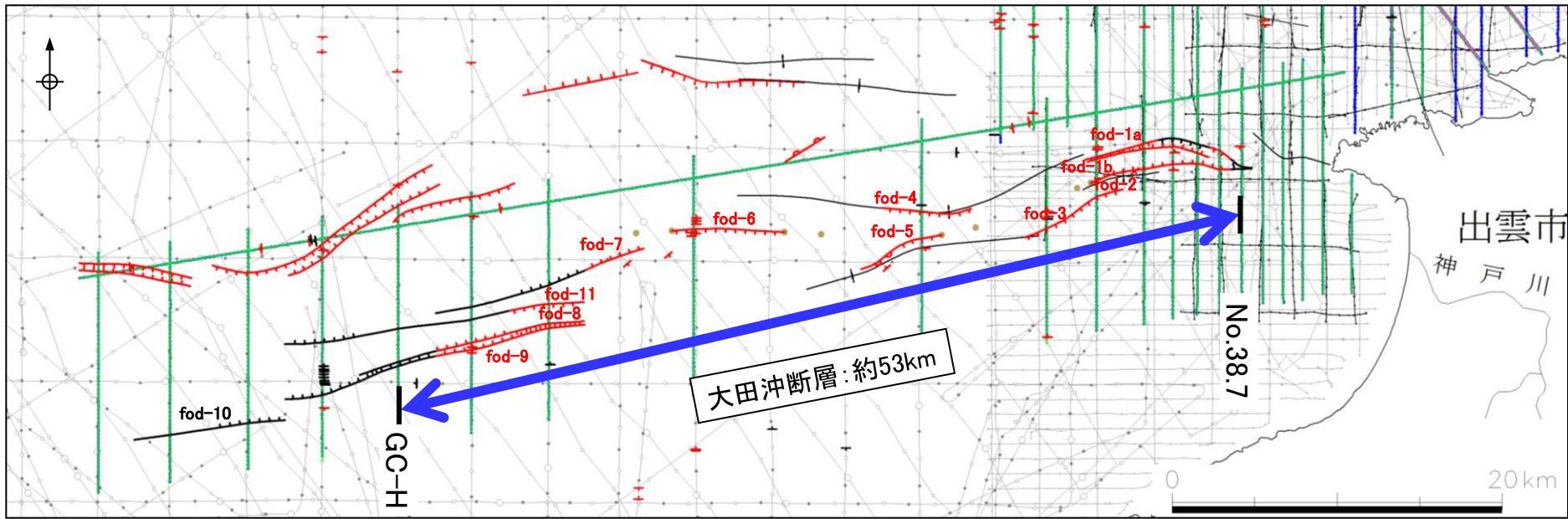
#### 凡 例

- ▲▲▲ 地質調査所「日本地質構造図, 日本地質アトラス (第2版)」1/300万による新第三紀の逆断層 (三角形は断層面の傾斜方向を示す)
- └└└ 地質調査所「広域海底地質図」1/100万による断層, 伏在断層及び推定断層
- 国土交通省・内閣府・文部科学省 (2014) 「日本海における大規模地震に関する調査検討会」による活断層
- 中国電力株式会社音波探査測線 (スベーカー)
- 中国電力株式会社音波探査測線 (クォーターガン・マルチチャンネル)
- 中国電力株式会社音波探査測線 (ブーム・マルチチャンネル)
- 他機関の音波探査記録

・脇田ほか(1992)等で島根県中部沿岸の大陸棚に示された「大田沖断層」について, 当社, 地質調査所等の音波探査記録に基づいて, 分布性状, 活動性等を検討した。

3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (2)大田沖断層

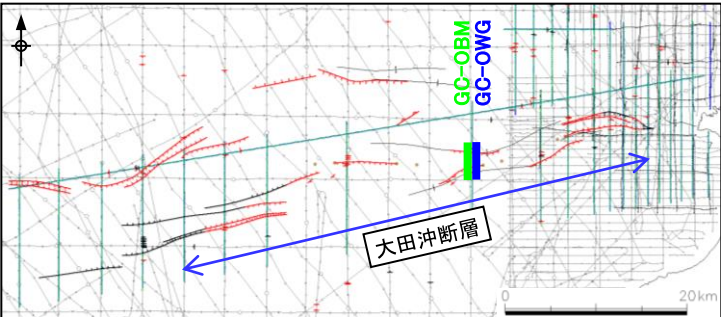
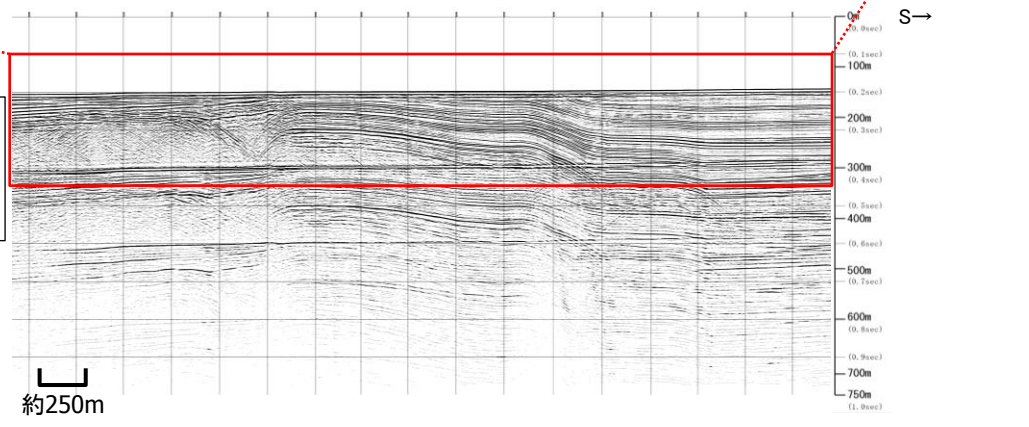
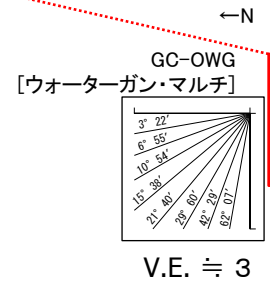
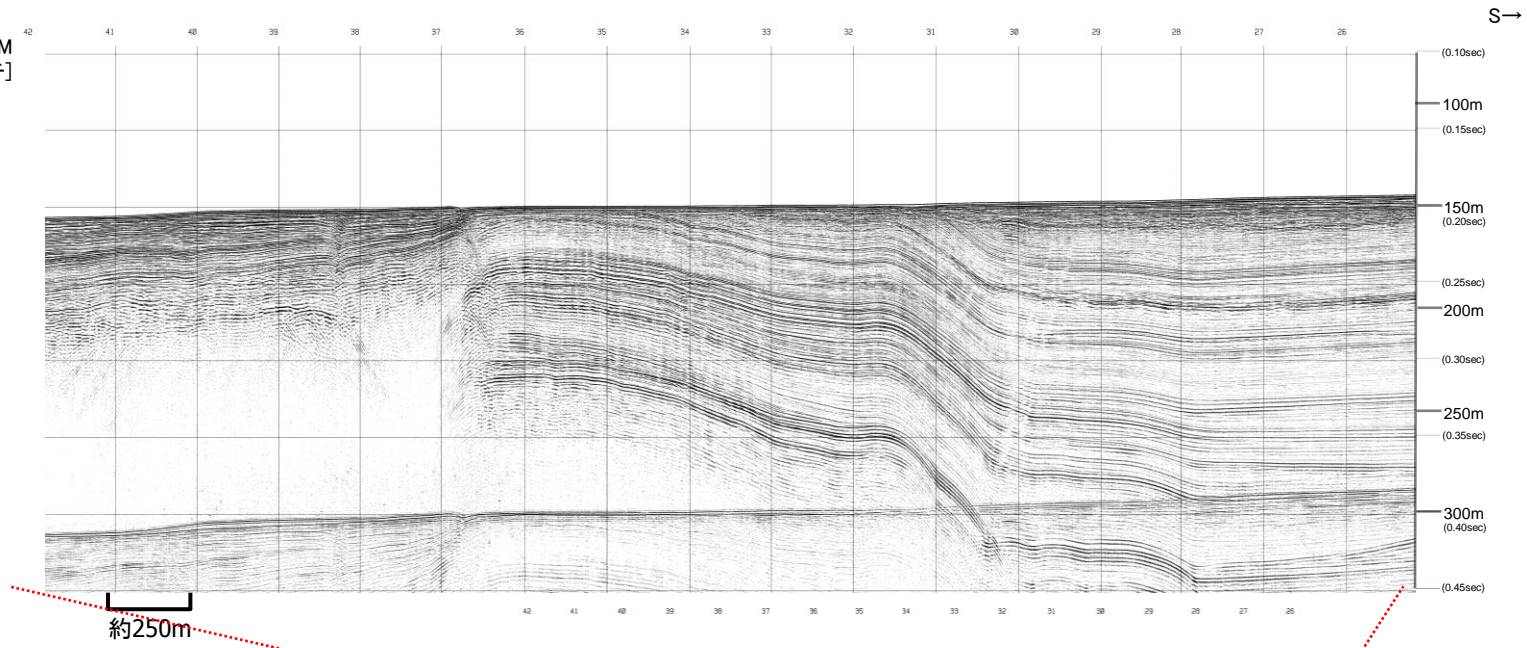
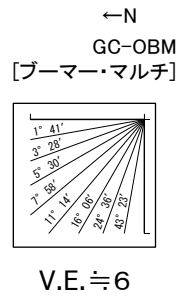
大田沖断層の評価



- 主な断層のうち後期更新世以降の活動が認められないもの
- 主な断層のうち後期更新世以降の活動が否定できないもの
- 中国電力構音波探査測線 (スパーク)
- 中国電力構音波探査測線 (ウォーターガン・マルチチャンネル)
- 中国電力構音波探査測線 (ブーマー・マルチチャンネル)
- 他機関の音波探査記録

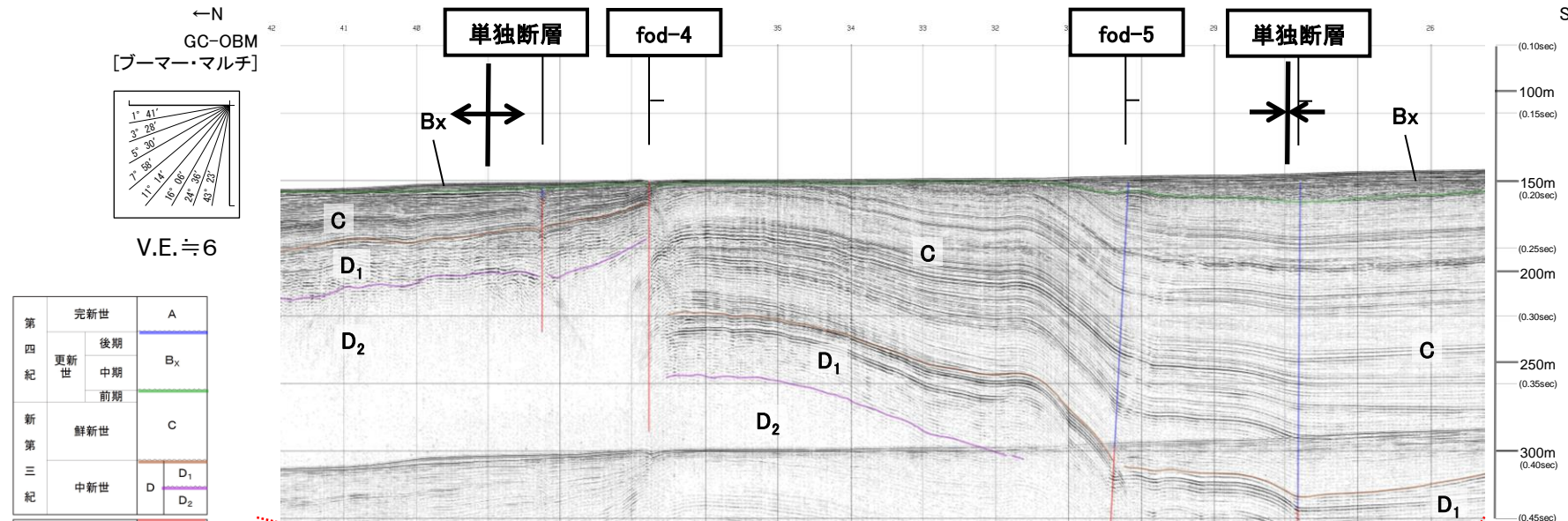
・「大田沖断層」については、文献に示されている断層の位置に、断層及び撓曲が認められる。これらの断層及び撓曲はセンスが必ずしも一致しないものの、全体として走向が概ね東北東-西南西方向で近接して雁行しているため、一連のものとし、後期更新世以降の活動を考慮する区間の西端をGC-H測線、東端をNo.38.7測線とする、最大約53kmを「大田沖断層」として評価した。

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (2)大田沖断層 大田沖断層の代表測線(音波探査記録)

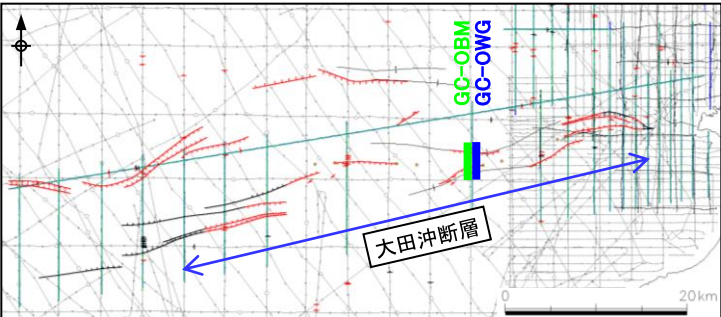
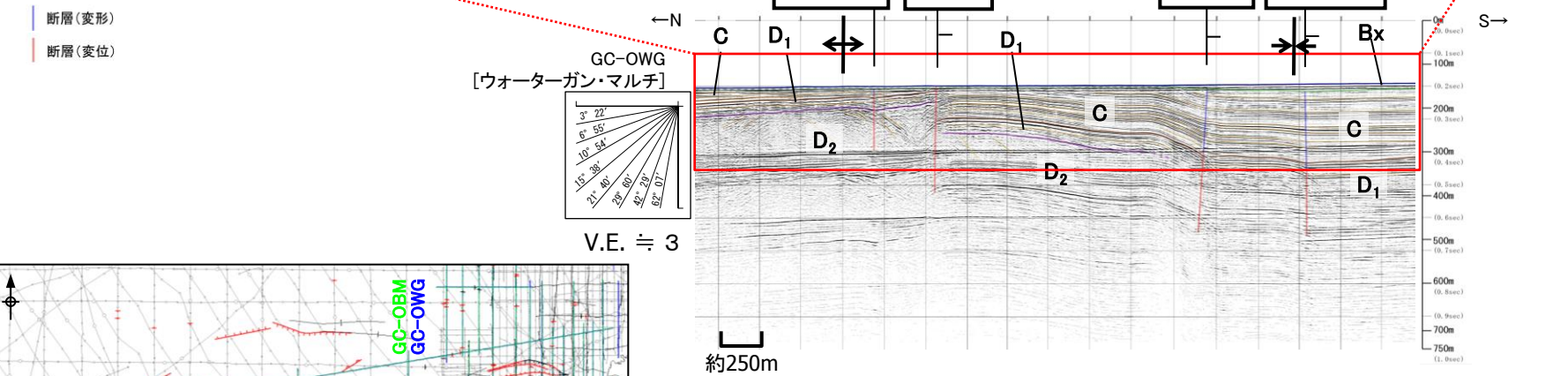




### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (2)大田沖断層 大田沖断層の代表測線(音波探査解析図)

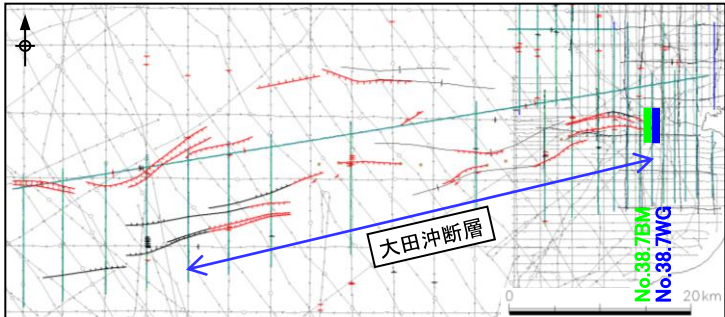
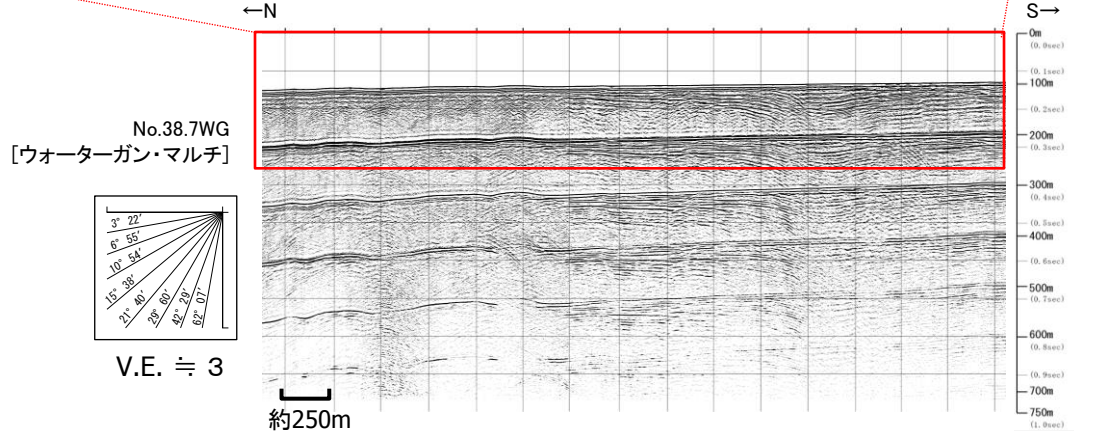
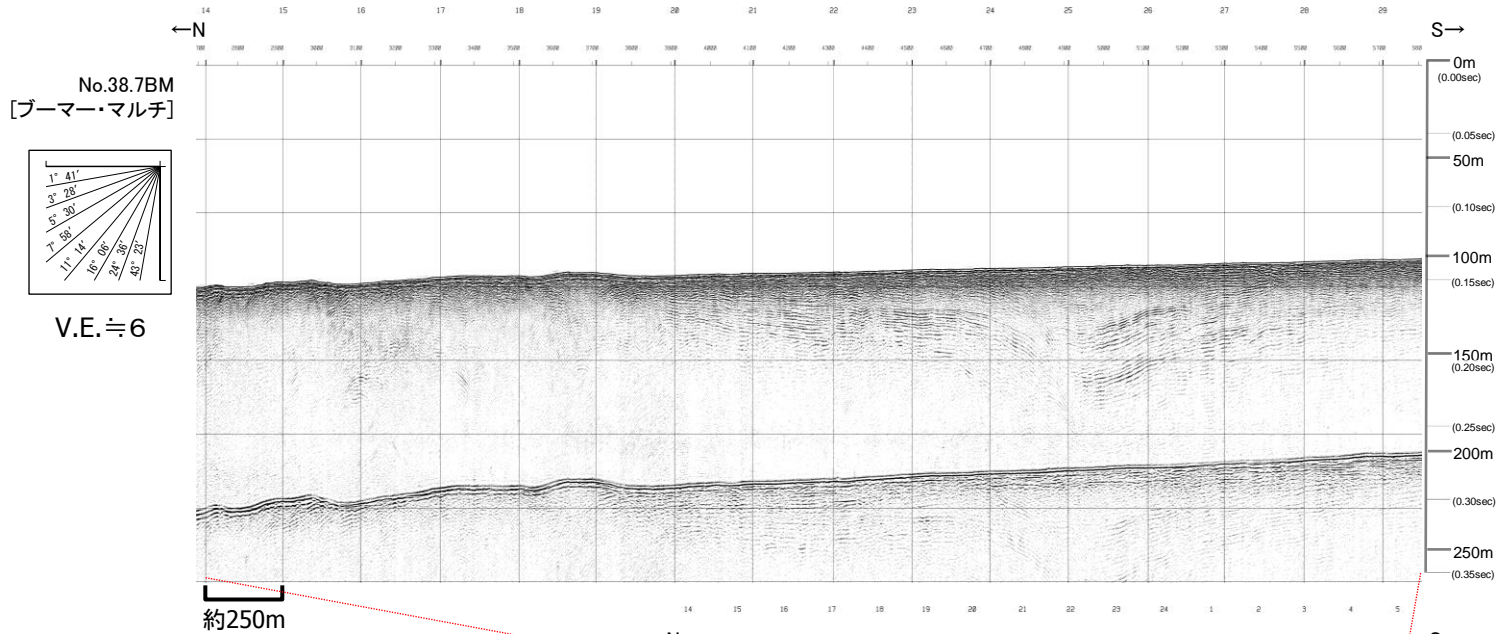


第四紀	完新世	A
	後期	B <sub>x</sub>
	中期	C
第三紀	鮮新世	D <sub>1</sub>
	中新世	D <sub>2</sub>
	火山岩・貫入岩	V



・大田沖断層の中央部には、fod-4断層及びfod-5断層が分布する。  
 ・fod-4断層は、背斜軸付近に位置し、B<sub>x</sub>層までに変位が認められるため、後期更新世以降の活動を考慮するものとした。  
 ・fod-5断層は、背斜構造南縁に位置し、C層下部までに変位、B<sub>x</sub>層までに変形が認められるため、後期更新世以降の活動を考慮するものとした。

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (2)大田沖断層 大田沖断層の東端(音波探査記録)

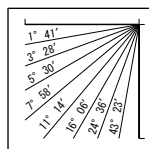


### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (2)大田沖断層 大田沖断層の東端(音波探査解析図)

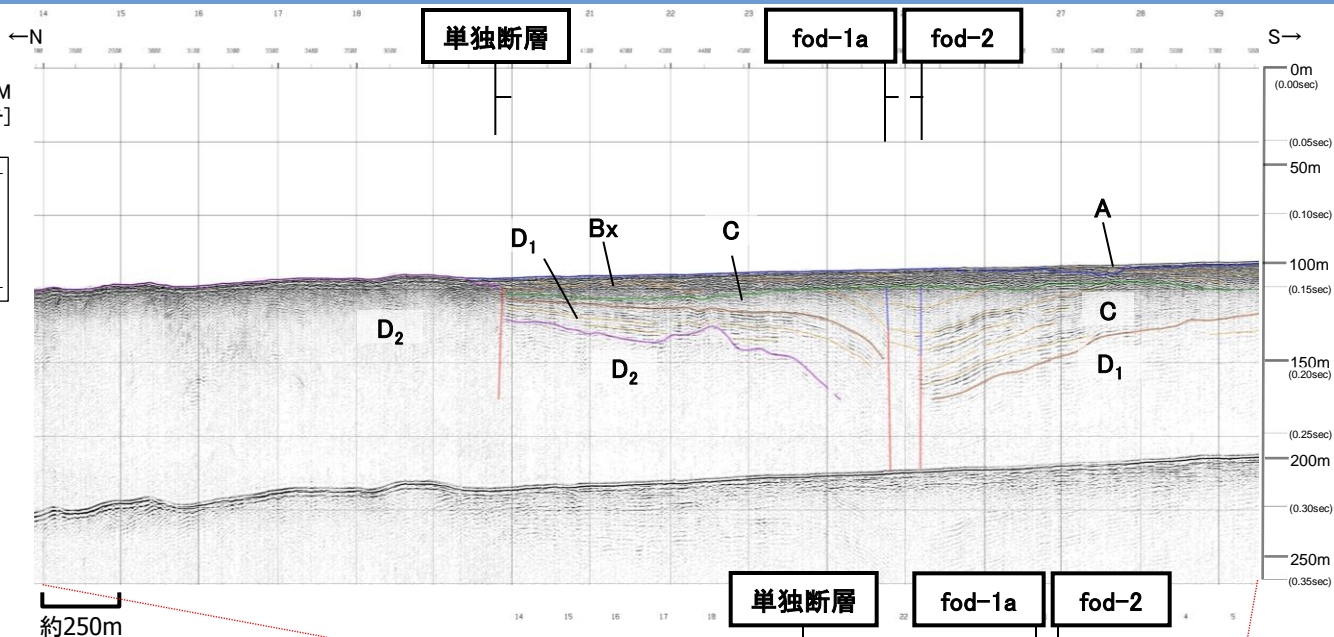
第四紀	完新世	A
	後期	B <sub>x</sub>
	中期	
更新世	前期	C
第三紀	鮮新世	D <sub>1</sub>
	中新世	
	火山岩・貫入岩	V

断層(変形)  
断層(変位)

No.38.7BM  
[ブーマー・マルチ]

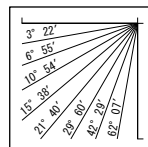


V.E. ≒ 6

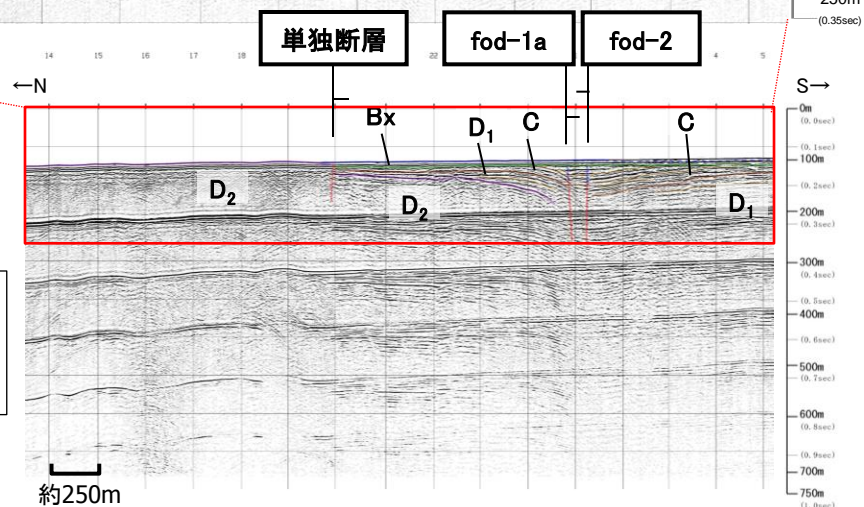


約250m

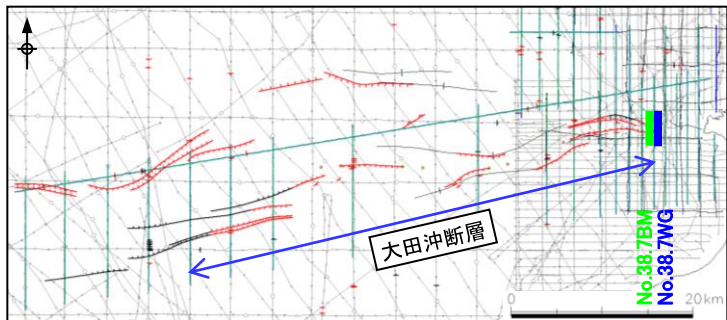
No.38.7WG  
[ウォーターガン・マルチ]



V.E. ≒ 3



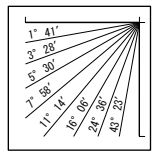
約250m



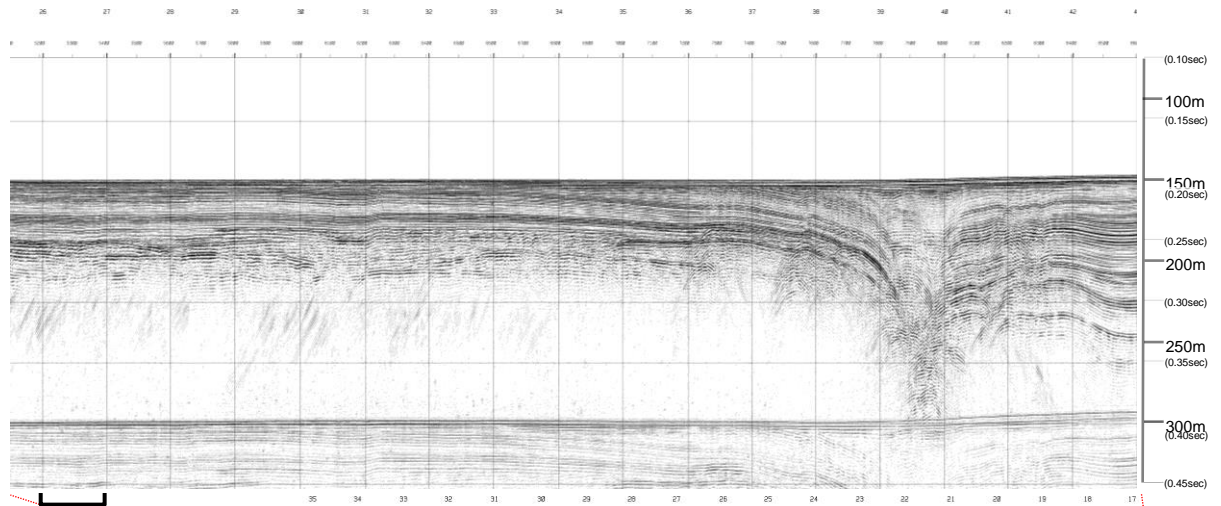
・大田沖断層の東端はfod-1a断層及びfod-2断層に相当する。  
 ・fod-1a断層は、C層下部までに変位、C層上部に変形が認められるが、Bx層に断層活動を示唆する変位や変形は認められない。  
 ・fod-2断層は、C層下部までに変位、C層上部に変形が認められるが、Bx層に断層活動を示唆する変位や変形は認められない。

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (2)大田沖断層 大田沖断層の西端(音波探査記録)

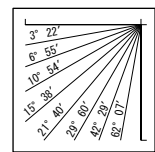
GC-HBM  
[ブーマー・マルチ] ←N



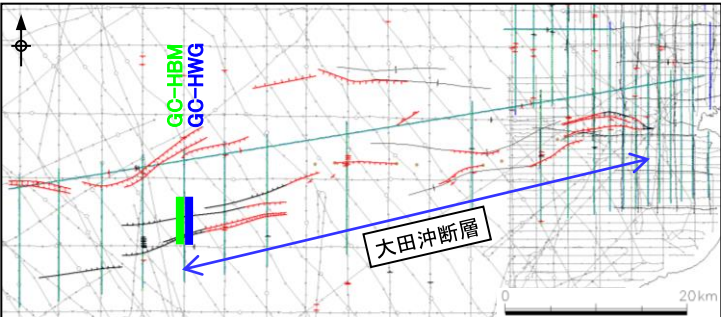
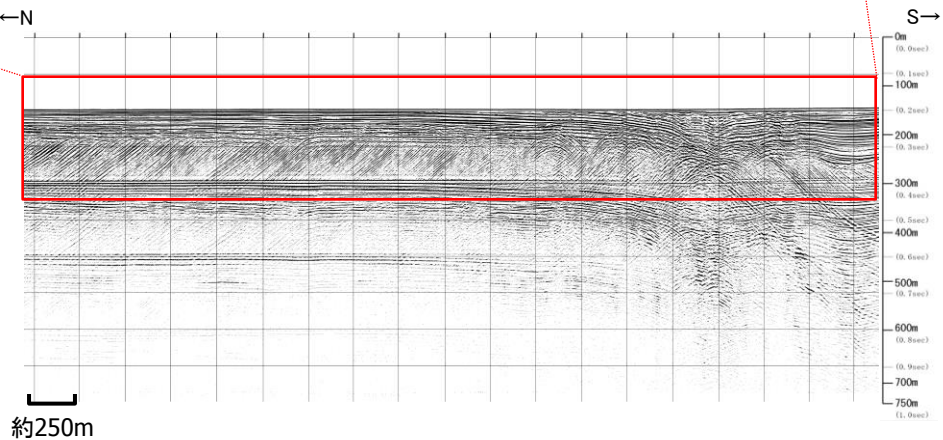
V.E. ≒ 6



GC-HWG  
[ウォーターガン・マルチ] ←N

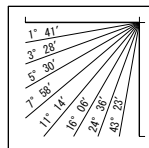


V.E. ≒ 3



### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (2)大田沖断層 大田沖断層の西端(音波探査解析図)

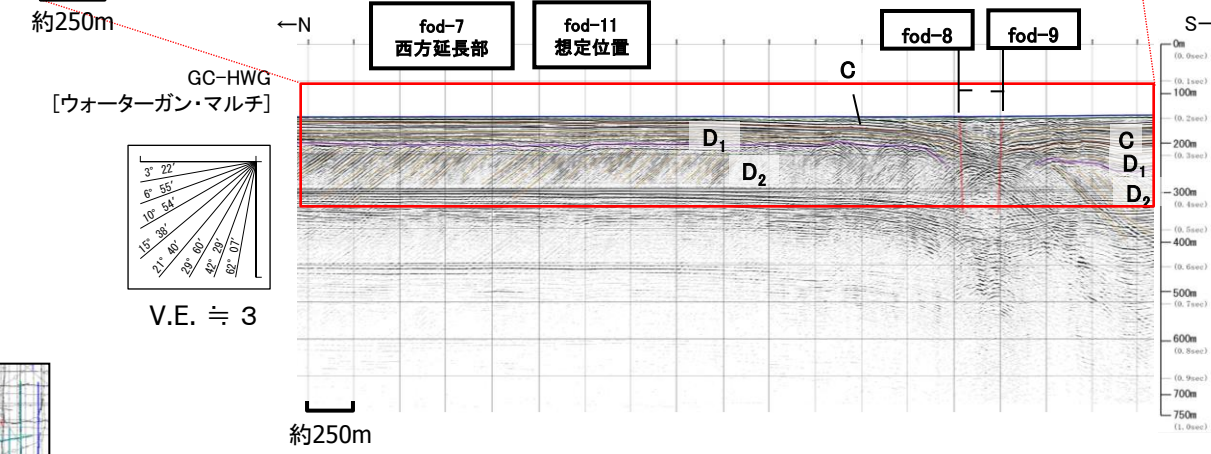
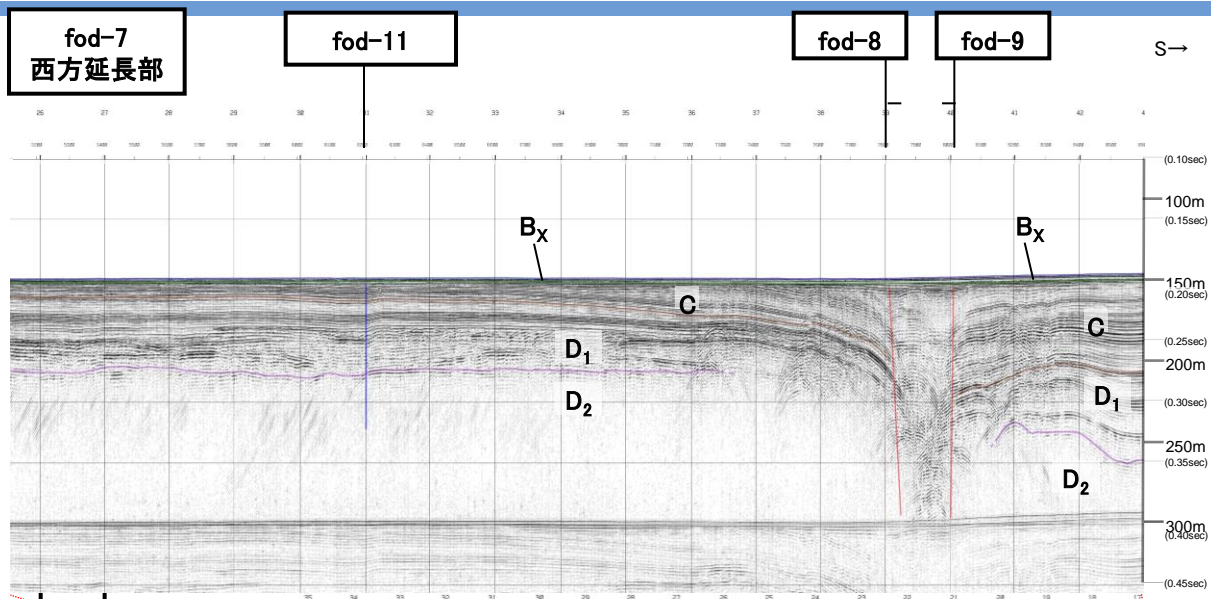
GC-HBM  
[ブーマー・マルチ]



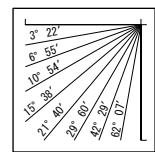
V.E. ≒ 6

第四紀	完新世	A
	更新世	B <sub>x</sub>
第三紀	鮮新世	C
	中新世	D <sub>1</sub>
		D <sub>2</sub>
火山岩・貫入岩		V

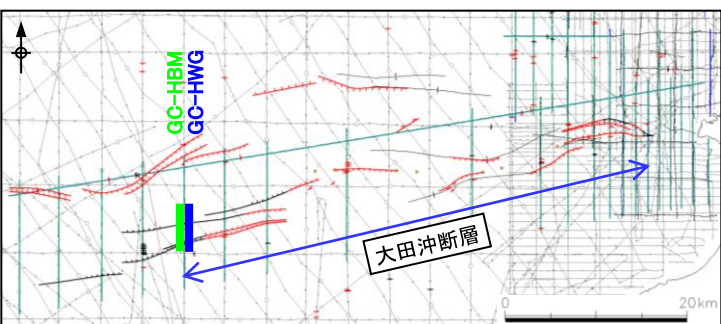
断層(変形)  
断層(変位)



GC-HWG  
[ウォーターガン・マルチ]



V.E. ≒ 3



・大田沖断層の西端はfod-8断層及びfod-9断層に相当する。  
・fod-8断層及びfod-9断層はC層までに変位が認められるが、B<sub>x</sub>層に断層活動を示唆する変位や変形は認められない。

余白

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

## 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

- (1) F-Ⅲ断層, F-Ⅳ断層及びF-V断層
- (2) F<sub>K</sub>-1断層
- (3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲
- (4) F-I断層
- (5) F-II断層
- (6) F-VI断層
- (7) K-5撓曲
- (8) F-①断層及びF-②断層

## 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

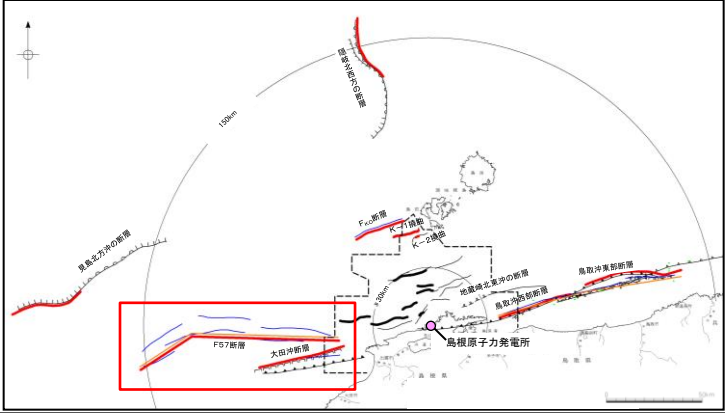
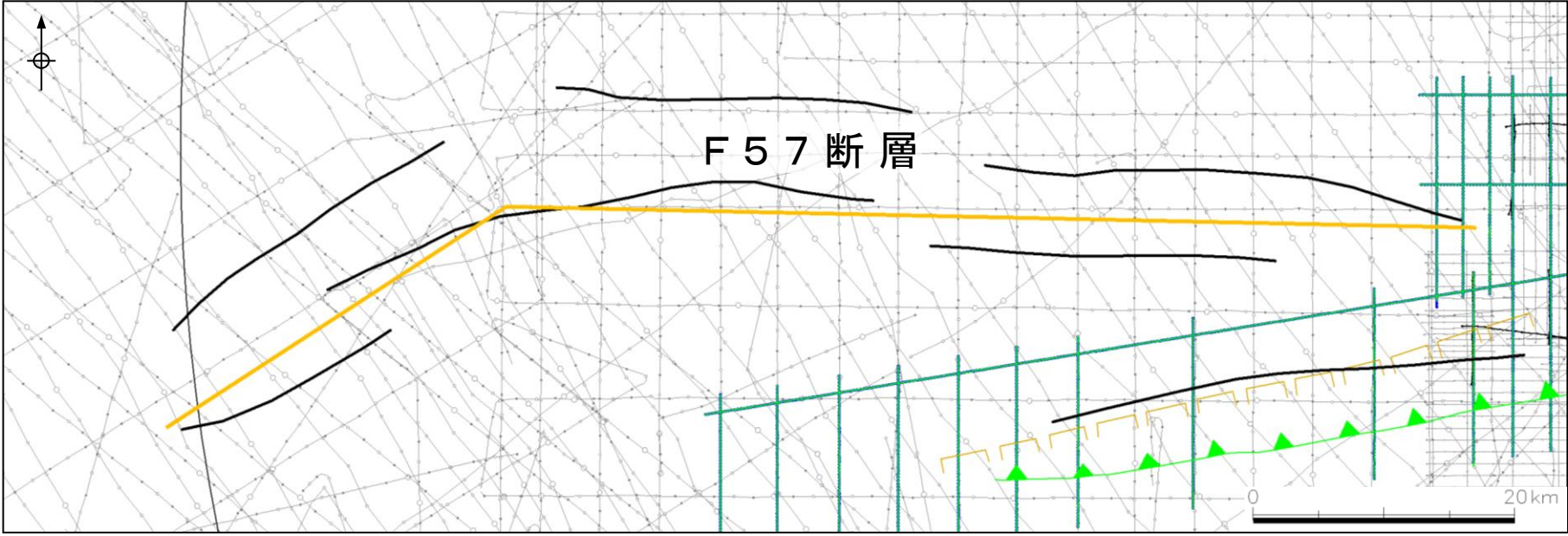
- (1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層
- (2) 大田沖断層
- (3) F57断層
- (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層
- (5) 隠岐北西方の断層
- (6) 見島付近の断層
- (7) 見島北方沖の断層
- (8) 地蔵崎北東沖の断層

## 4. 敷地前面海域の地質層序

## 5. 敷地周辺海域の地質層序

- (1) 鳥取沖
- (2) 大田沖
- (3) その他海域

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (3)F57断層 F57断層周辺における調査の概要

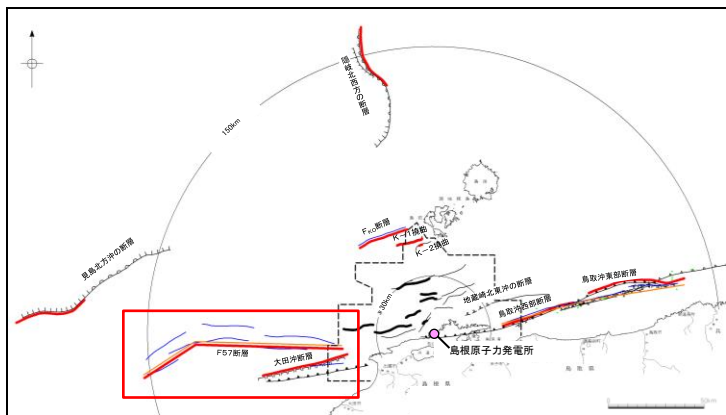
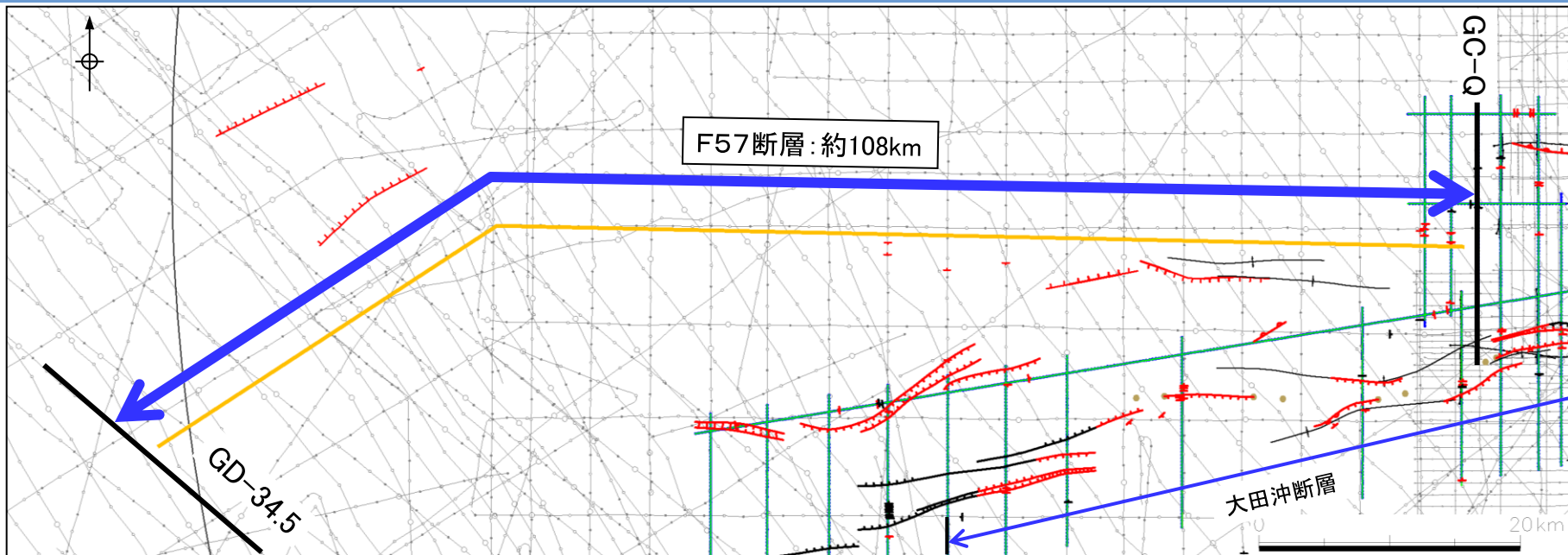


- 凡 例
- ▲▲▲ 地質調査所「日本地質構造図, 日本地質アトラス (第2版)」1/300万による新第三紀の逆断層 (三角形は断層面の傾斜方向を示す)
  - — — 地質調査所「広域海底地質図」1/100万による断層, 伏在断層及び推定断層
  - 国土交通省・内閣府・文部科学省 (2014) 「日本海における大規模地震に関する調査検討会」による活断層
  - — — 最大規模の津波想定のための断層のグルーピング
  - — — 中国電力瞬音波探査測線 (クォーター・ガンマチャンネル)
  - — — 中国電力瞬音波探査測線 (ブーマー・マルチチャンネル)
  - 他機関の音波探査記録

- ・国土交通省・内閣府・文部科学省(2014)によると, 最大規模の津波想定のための津波断層モデルを設定することを念頭に, 同時に破壊すると考えられる断層帯をグルーピングしたとされる「F57断層(断層長さ:約102km)」が示されている。
- ・F57断層は, 国土交通省・内閣府・文部科学省(2014)の評価に基づき震源を考慮する活断層として取り扱うが, 断層端部評価に当たっては, 地質調査所(現産業技術総合研究所)の音波探査記録及び当社音波探査記録により検討した。



# F57断層の評価結果



- 主な断層のうち後期更新世以降の活動が認められないもの
- 主な断層のうち後期更新世以降の活動が否定できないもの
- 中国電力株式会社音波探査測線 (クォーター・ガン・マルチチャンネル)
- 中国電力株式会社音波探査測線 (フーマー・マルチチャンネル)
- 他機関の音波探査記録

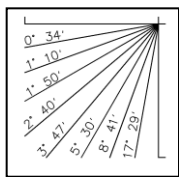
・地質調査所(現産業技術総合研究所)及び当社音波探査記録により断層端部について検討した結果、西端をGD-34.5測線、東端をGC-Q測線とする、最大規模の断層のグルーピングを考慮した最大約108kmを評価長さとした。

・なお、国土交通省・内閣府・文部科学省(2014)によると、F57断層と大田沖断層は異なる断層グループとして評価されている。

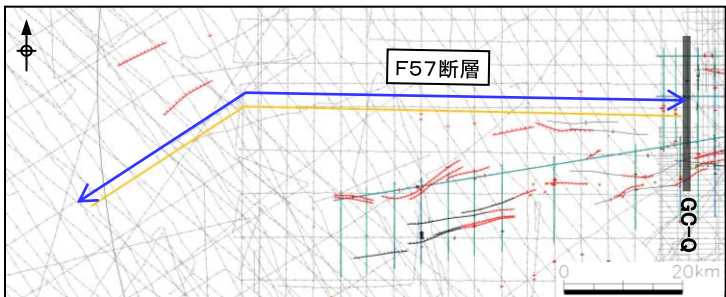
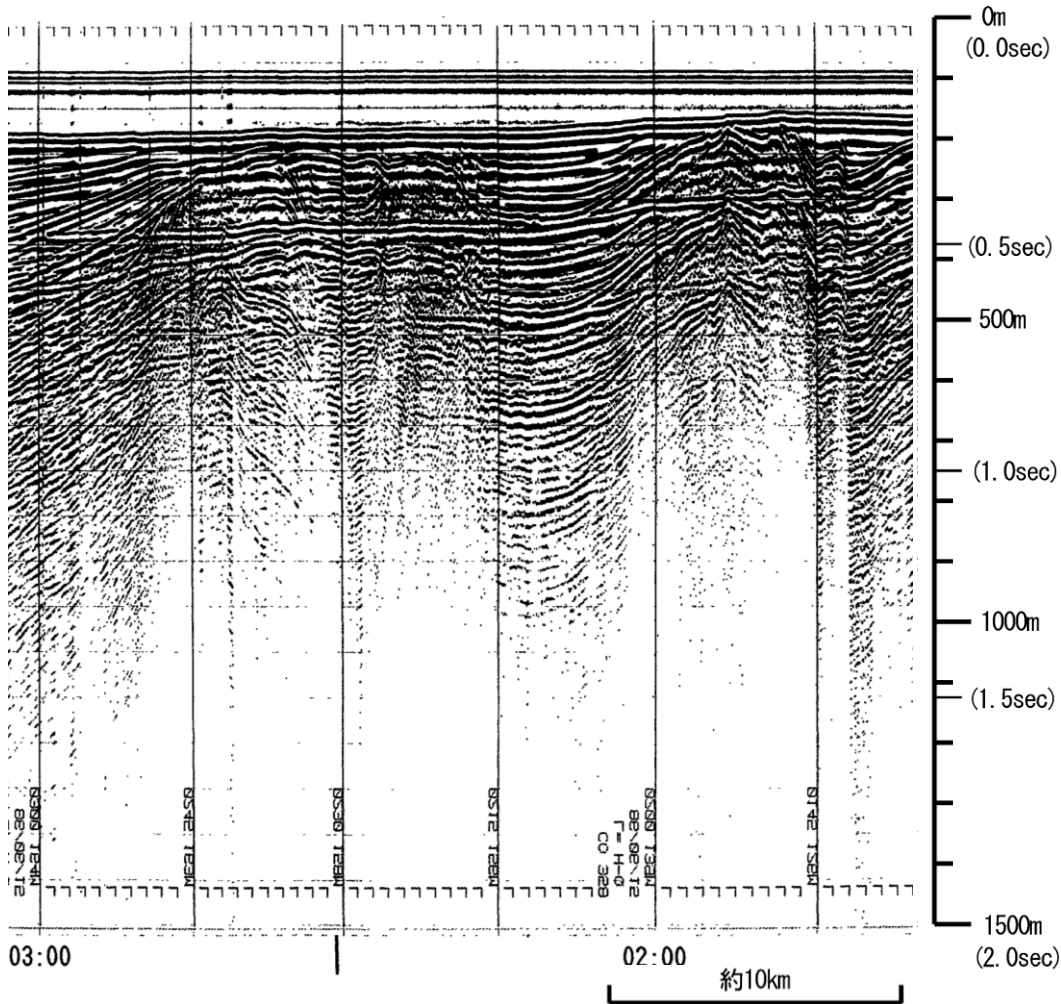
# 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (3) F57断層 F57断層の東端(音波探査記録)

GC-Q  
[産業技術総合研究所  
S→(エアガン・シングル)]

←N



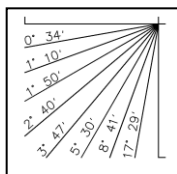
V.E. ≒ 18



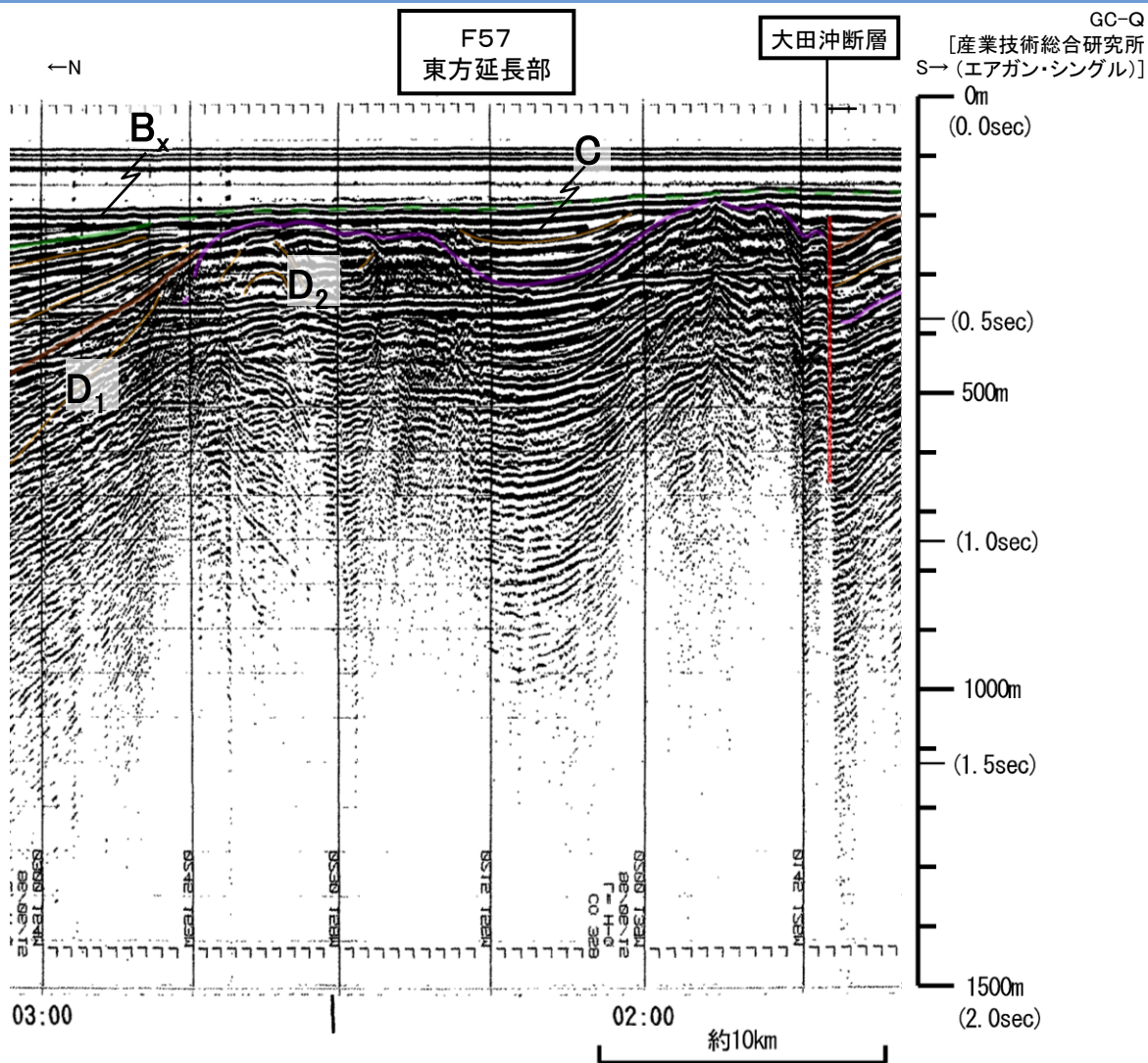
### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (3) F57断層 F57断層の東端(音波探査解析図)

第四紀	完新世	A	
	更新世	後期	B <sub>x</sub>
		中期	
新第三紀	鮮新世	C	
	中新世	D <sub>1</sub>	
		D <sub>2</sub>	
火山岩・貫入岩		V	

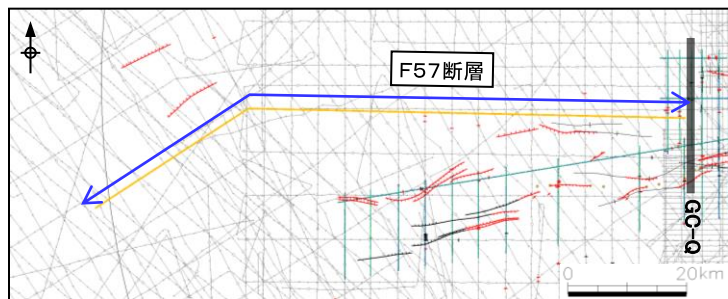
断層(変形)  
断層(変位)



V.E. ≒ 18



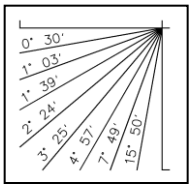
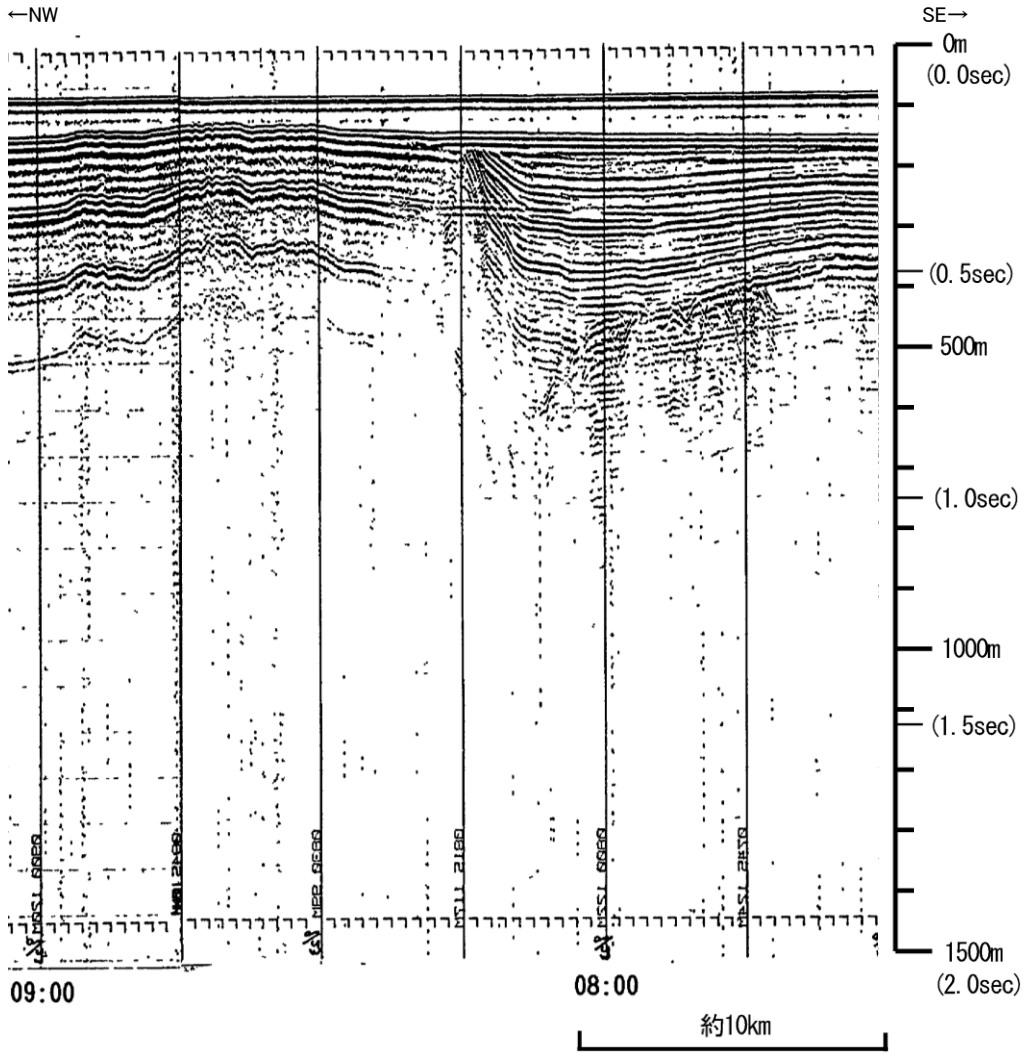
・F57断層東方延長部において、断層活動を示唆する変位や変形は認められない。



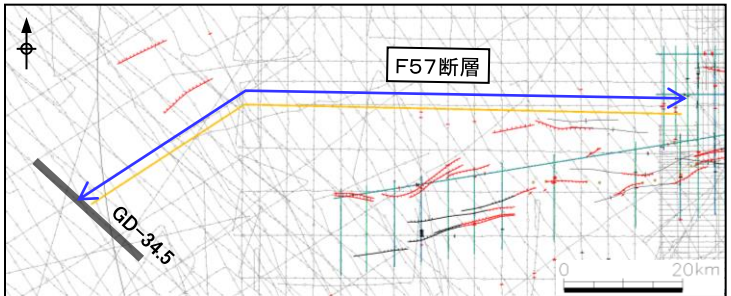
3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (3) F57断層  
 F57断層の西端(音波探査記録)

GD-34.5

[産業技術総合研究所(エアガン・シングル)]



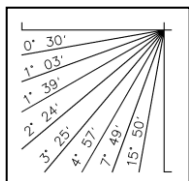
V.E. ≒ 20



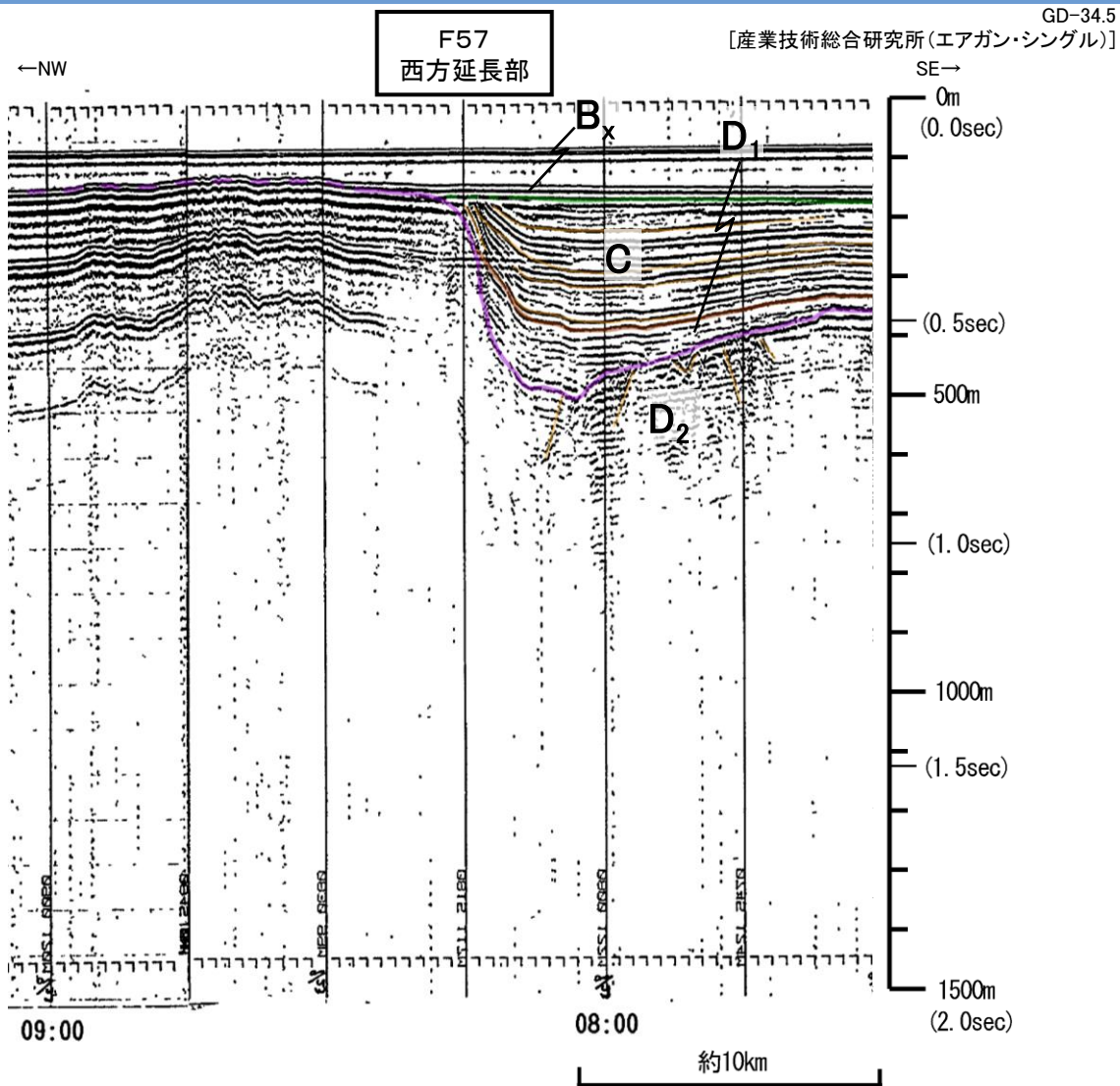
### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (3) F57断層 F57断層の西端(音波探査解析図)

第四紀	完新世	A
	後期	B <sub>x</sub>
	中期	
更新世	前期	C
新第三紀	鮮新世	D <sub>1</sub>
	中新世	
	火山岩・貫入岩	

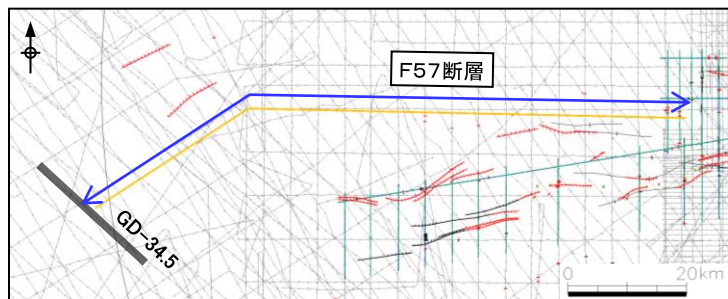
断層(変形)  
断層(変位)



V.E. ≒ 20



GD-34.5  
[産業技術総合研究所(エアガン・シングル)]



・F57断層西方延長部において、断層活動を示唆する変位や変形は認められない。

余白

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

## 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

- (1) F-Ⅲ断層, F-Ⅳ断層及びF-V断層
- (2) F<sub>K</sub>-1断層
- (3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲
- (4) F-I断層
- (5) F-II断層
- (6) F-VI断層
- (7) K-5撓曲
- (8) F-①断層及びF-②断層

## 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

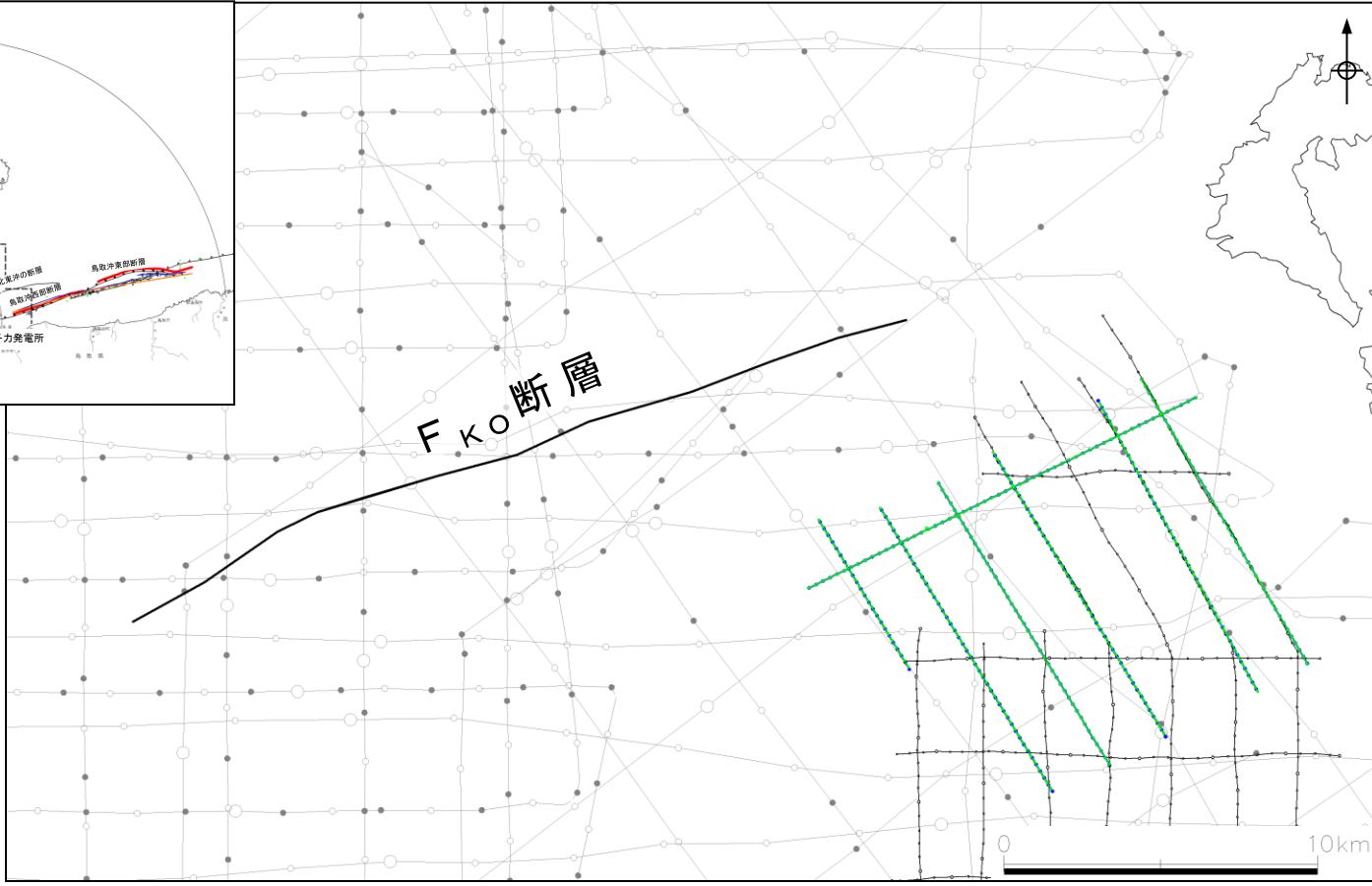
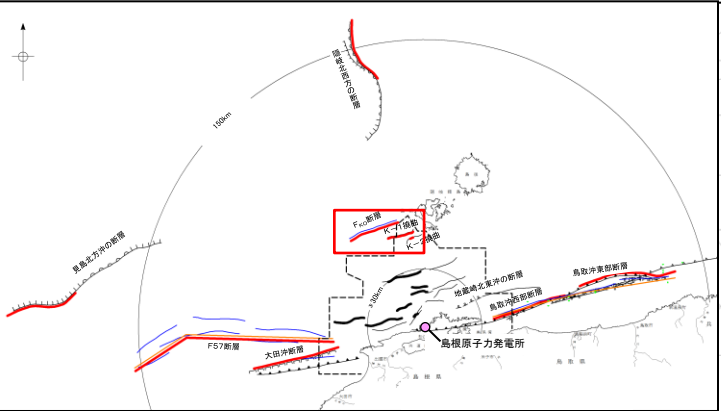
- (1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層
- (2) 大田沖断層
- (3) F57断層
- (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層
- (5) 隠岐北西方の断層
- (6) 見島付近の断層
- (7) 見島北方沖の断層
- (8) 地蔵崎北東沖の断層

## 4. 敷地前面海域の地質層序

## 5. 敷地周辺海域の地質層序

- (1) 鳥取沖
- (2) 大田沖
- (3) その他海域

### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1 撓曲, K-2 撓曲及び F<sub>KO</sub> 断層 K-1 撓曲, K-2 撓曲及び F<sub>KO</sub> 断層周辺における調査の概要



#### 凡 例

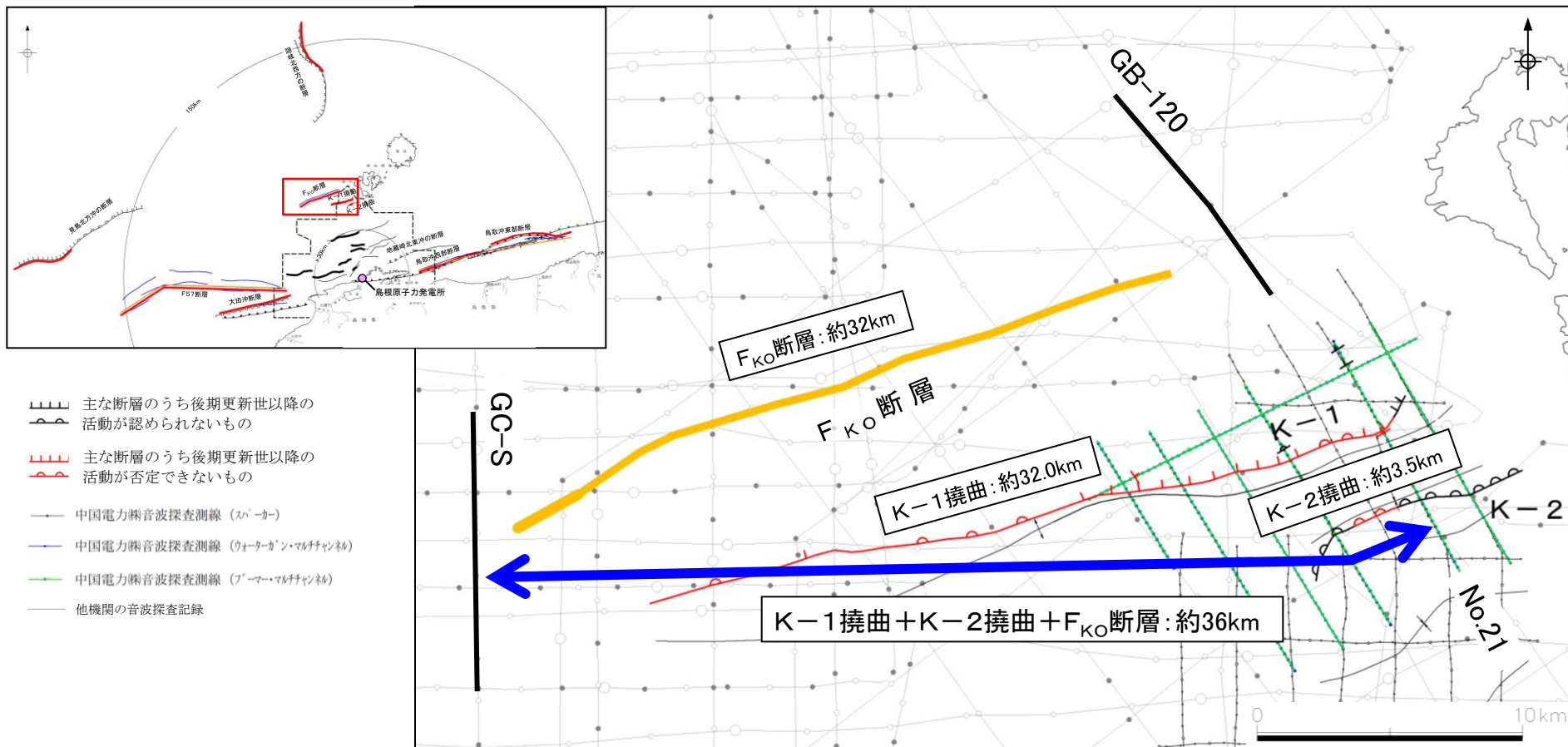
- 国土交通省・内閣府・文部科学省 (2014) 「日本海における大規模地震に関する調査検討会」による活断層
- 中国電力瞬音波探査測線 (スパーカー)
- 中国電力瞬音波探査測線 (ウォーターゲート・マルチチャンネル)
- 中国電力瞬音波探査測線 (プーマ・マルチチャンネル)
- 他機関の音波探査記録

・国土交通省・内閣府・文部科学省(2014)で、隠岐諸島の南西沖に約27kmの断層(断層番号なし、以下F<sub>KO</sub>断層とする)が示された。

・F<sub>KO</sub>断層は、国土交通省・内閣府・文部科学省(2014)の評価に基づき震源として考慮する活断層として取り扱うが、断層端部評価に当たっては、地質調査所(現産業技術総合研究所)の音波探査記録及び当社音波探査記録により検討した。



### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1 撓曲, K-2 撓曲及び $F_{KO}$ 断層 K-1 撓曲, K-2 撓曲及び $F_{KO}$ 断層の評価結果



- 主要な断層のうち後期更新世以降の活動が認められないもの
- 主要な断層のうち後期更新世以降の活動が否定できないもの
- 中国電力誘音波探査測線 (スーパー)
- 中国電力誘音波探査測線 (ウォーターガン・マルチチャンネル)
- 中国電力誘音波探査測線 (ブーマー・マルチチャンネル)
- 他機関の音波探査記録

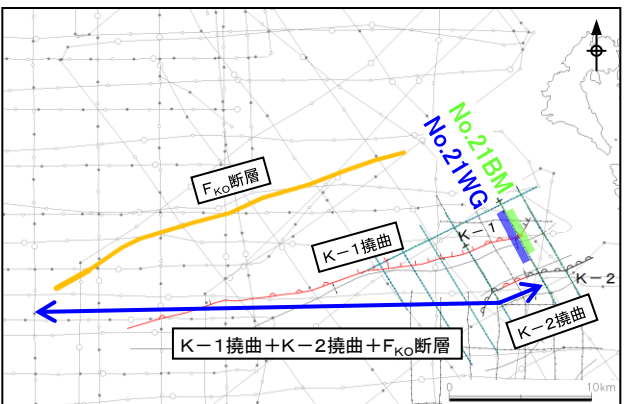
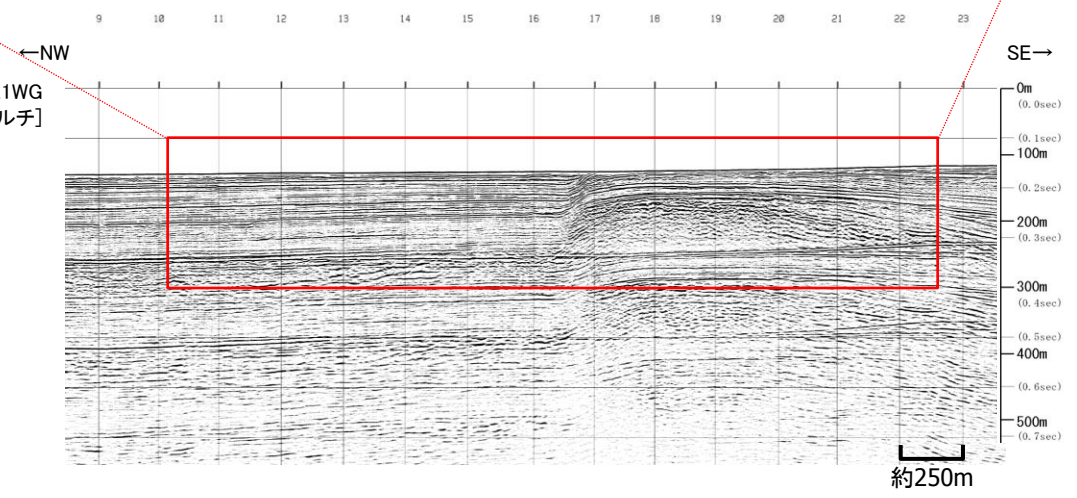
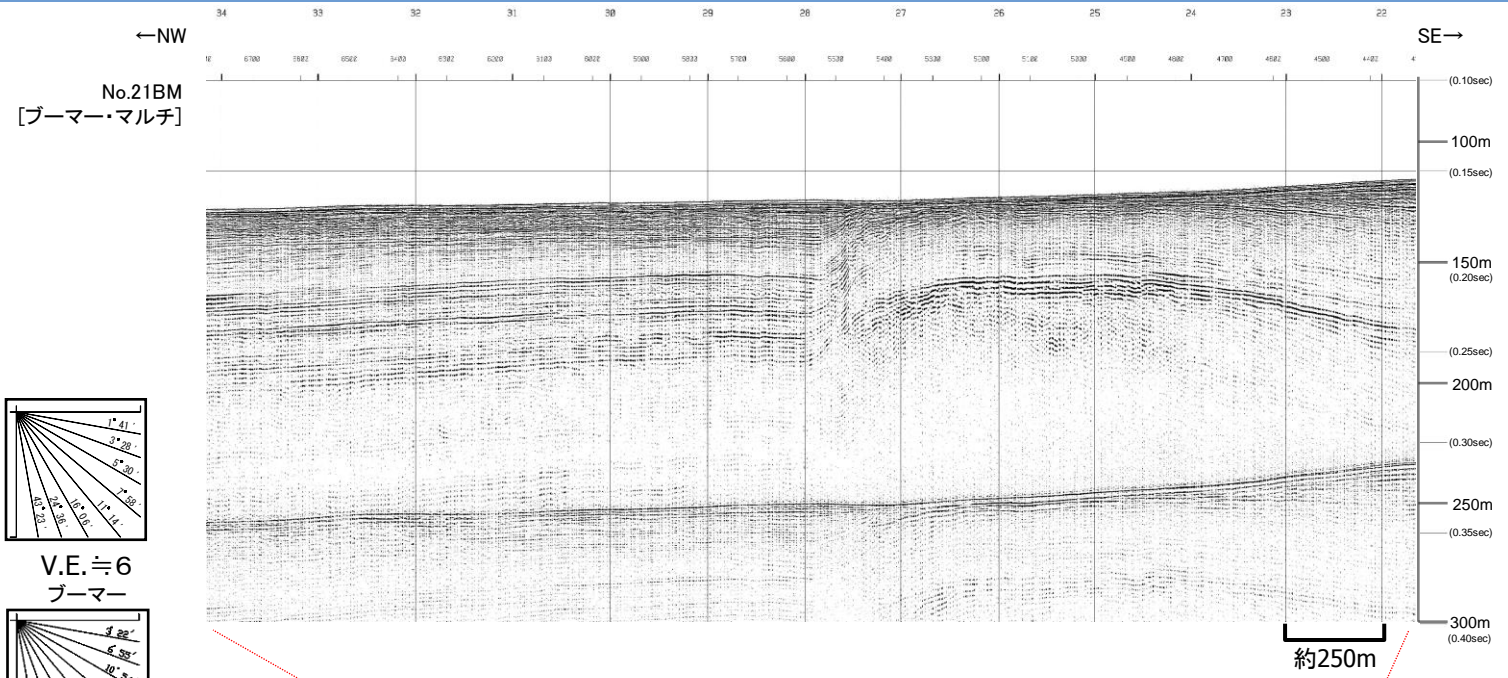
・K-1 撓曲及びK-2 撓曲は、敷地前面海域北部に位置する2条の複背斜構造の北縁を形成する、東北東-西南西方向の走向、北落ちの断層であり、地質構造上の類似性が認められ、撓曲間の距離が近いことから、連動するものとして評価した。

・ $F_{KO}$ 断層は、断層主部では国土交通省・内閣府・文部科学省(2014)の評価を踏襲し、端部評価ではGB-120測線からGC-S測線までを評価長さとする。

・K-1 撓曲及びK-2 撓曲は北落ちの撓曲であることから南傾斜の断層面が想定され、一方、 $F_{KO}$ 断層は音波探査記録から断層面はほぼ90°の傾斜であるため、両断層は地下深部で収斂しないと考えられることから、連動の可能性は低いと考えられるが、当社調査範囲外であり、K-1 撓曲に隣接して国土交通省・内閣府・文部科学省(2014)に $F_{KO}$ 断層が記載されていることを踏まえ、K-1 撓曲, K-2 撓曲及び $F_{KO}$ 断層の連動を考慮した場合の最大約36kmを評価長さとする。

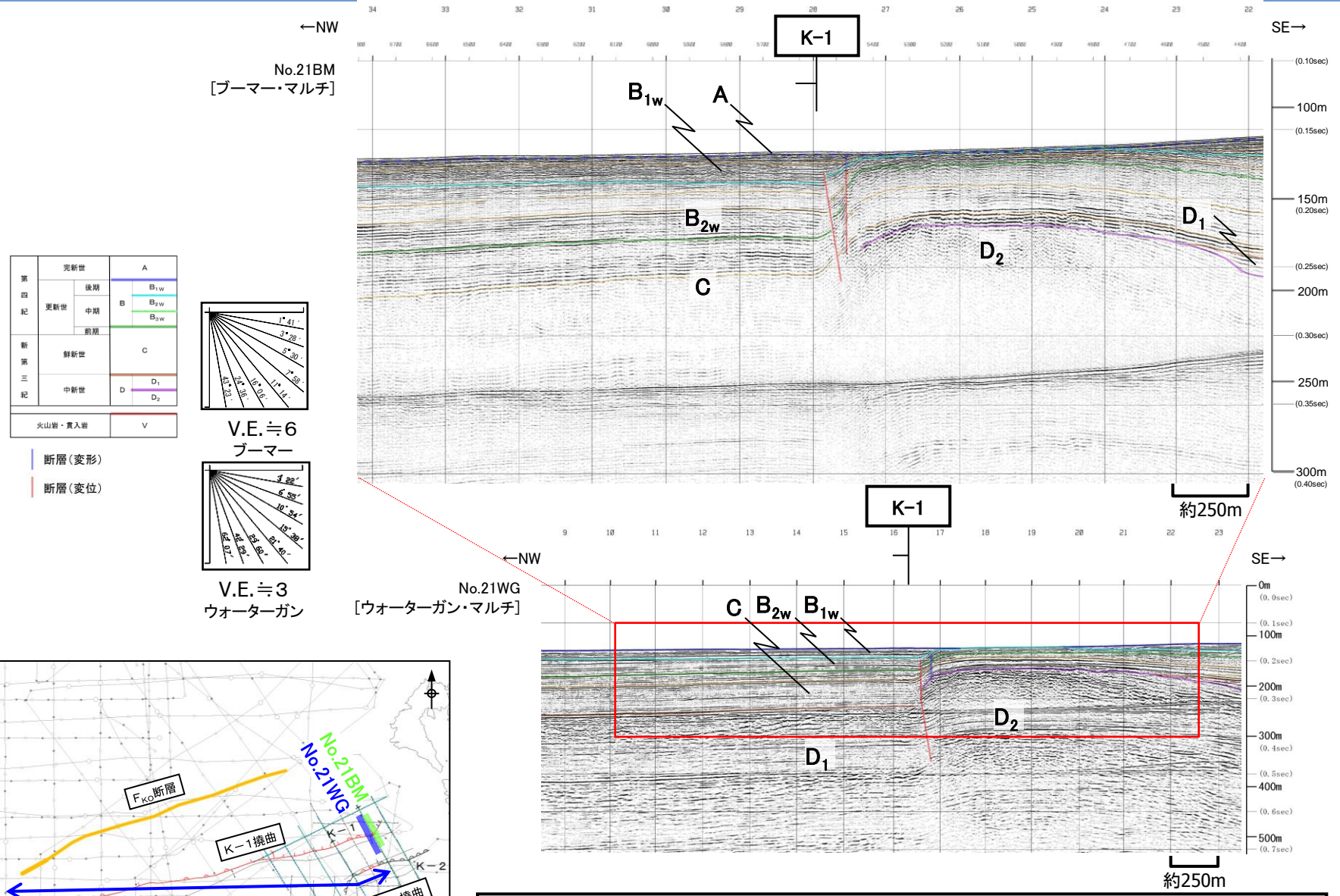
### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層

#### K-1撓曲の代表測線(音波探査記録)



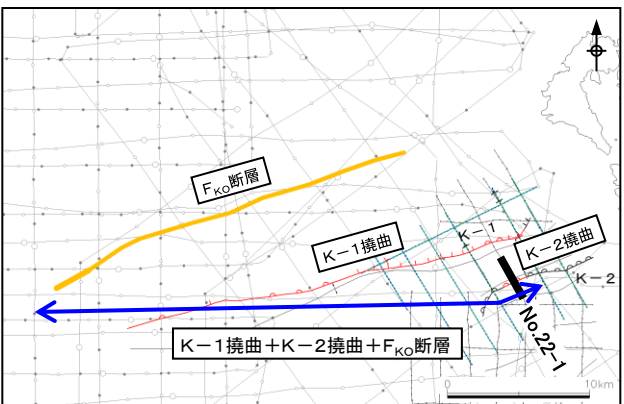
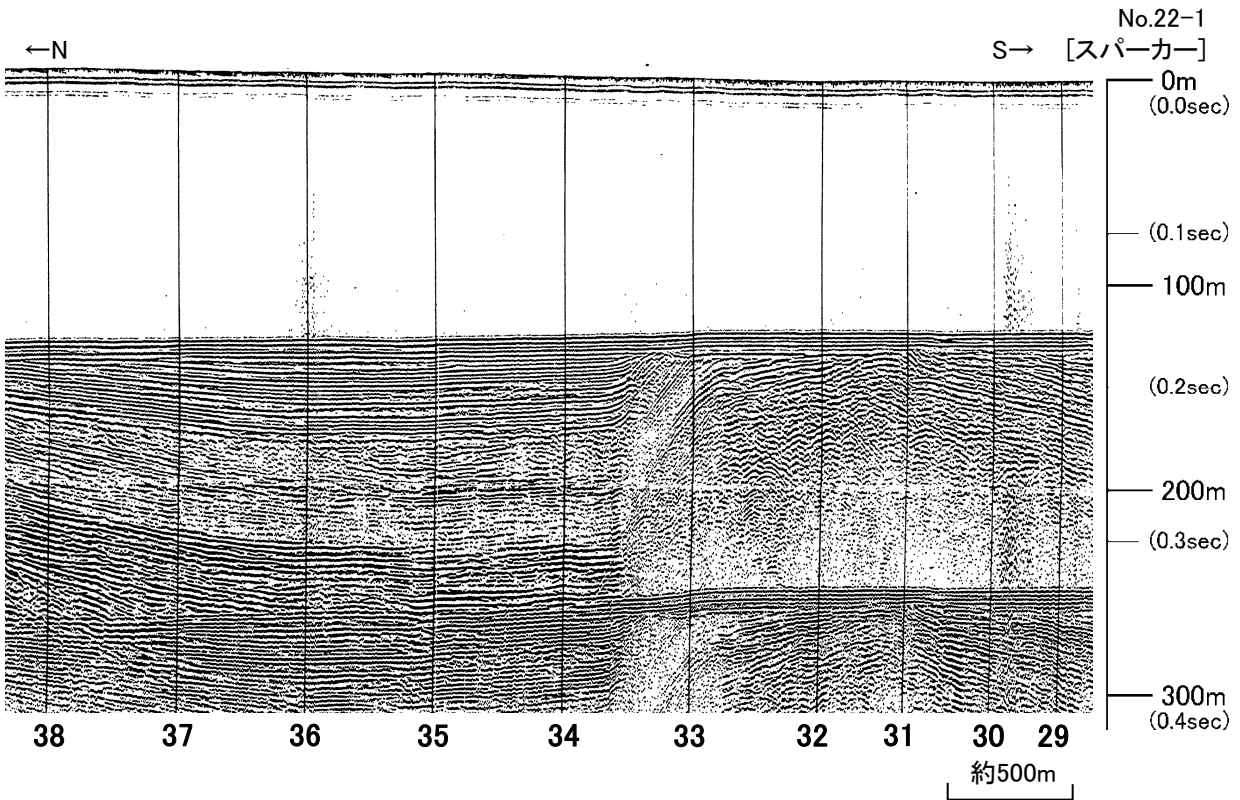
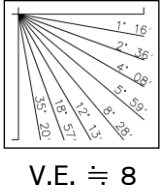
3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1 撓曲, K-2 撓曲及び F<sub>KO</sub> 断層

K-1 撓曲の代表測線(音波探査解析図)



・K-1撓曲は、背斜構造の北翼に沿って認められる撓曲であり、B<sub>1w</sub>層まで変位が認められるため、後期更新世以降の活動を考慮するものとした。

3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層  
K-2撓曲の代表測線(音波探査記録)

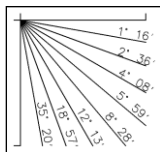


### 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1 撓曲, K-2 撓曲及びF<sub>KO</sub>断層 K-2 撓曲の代表測線(音波探査解析図)

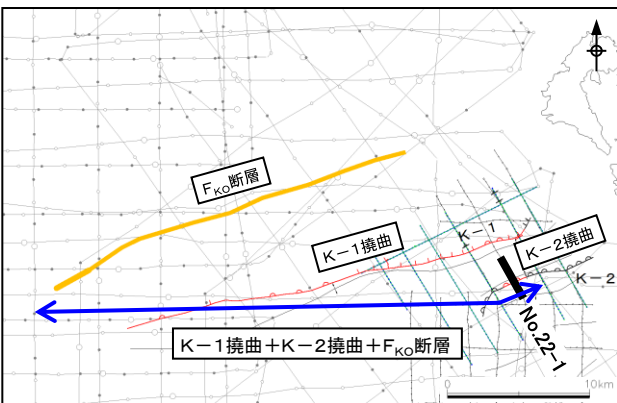
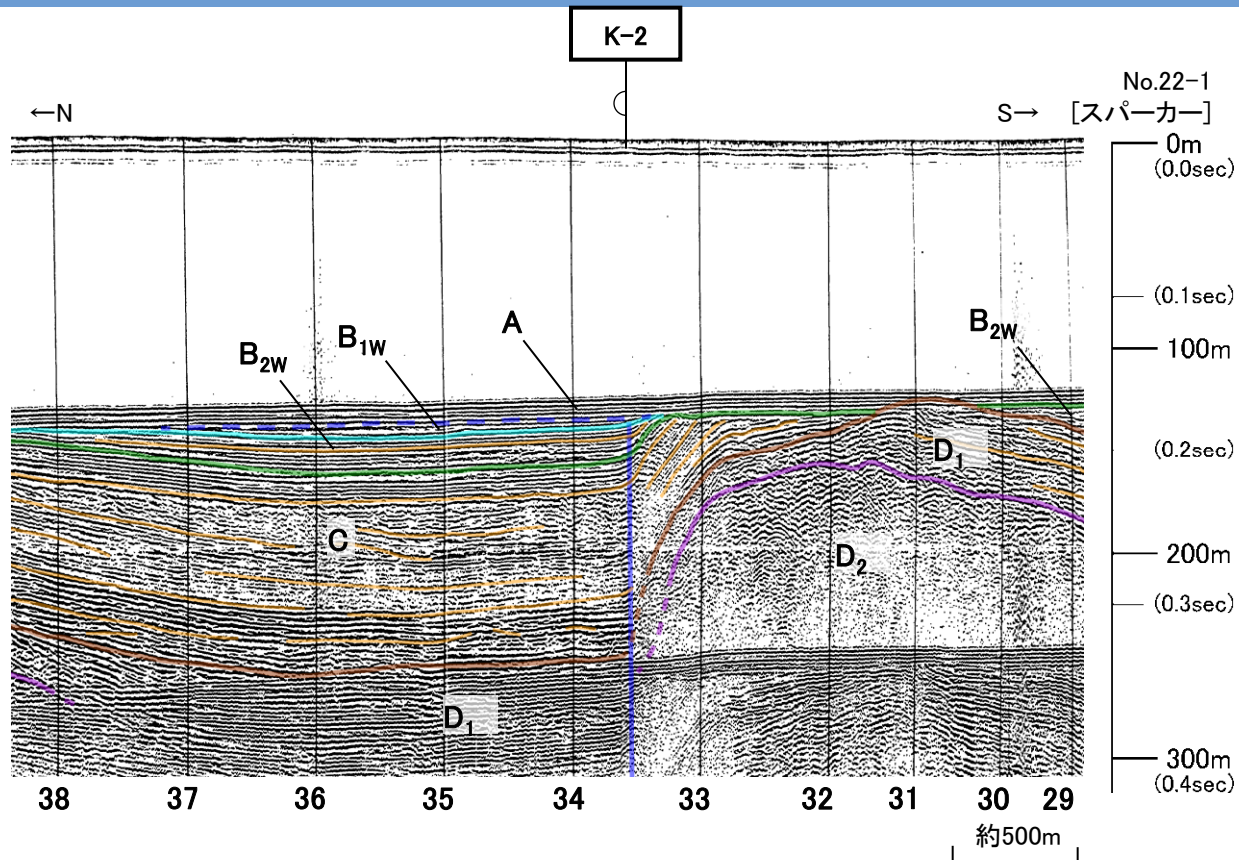
第四紀	完新世	A
	後期	B <sub>1W</sub>
	中期	B <sub>2W</sub> B <sub>3W</sub>
第三紀	鮮新世	C
	中新世	D <sub>1</sub> D <sub>2</sub>
火山岩・貫入岩		V

断層(変形)

断層(変位)



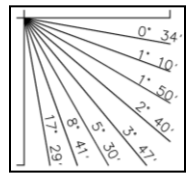
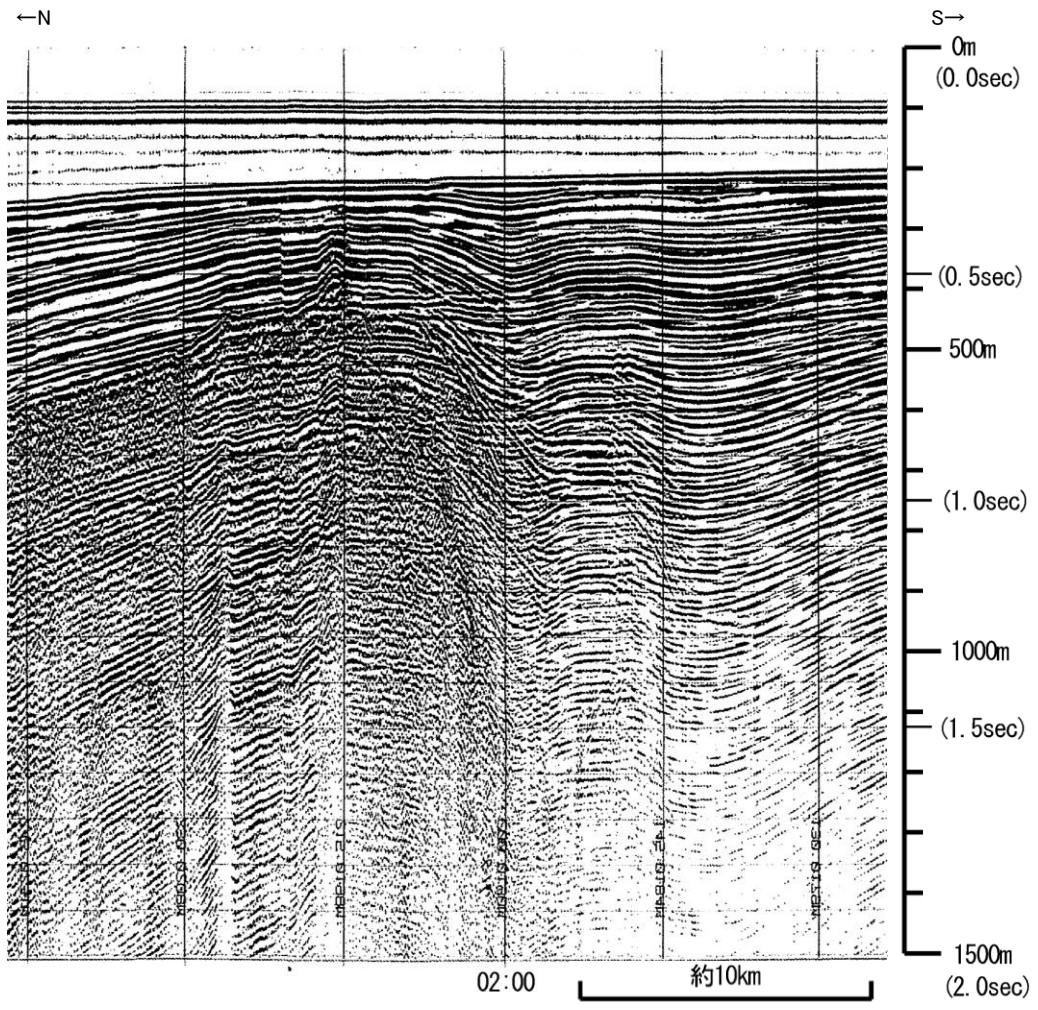
V.E. ≒ 8



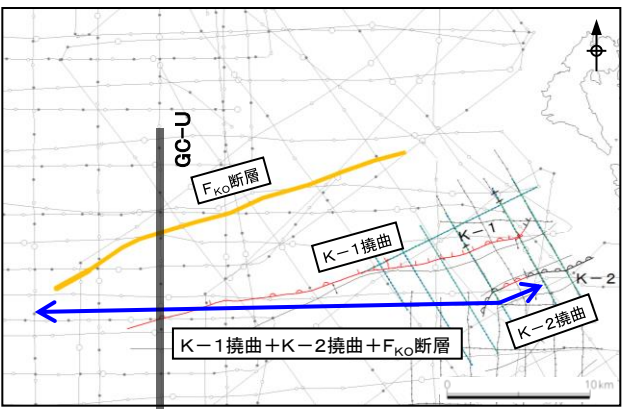
・K-2 撓曲は背斜構造の北翼に沿って認められる撓曲であり, B<sub>2W</sub>層までに変形が認められ, B<sub>1W</sub>層は層理が不明瞭であるため, 後期更新世以降の活動を考慮するものとした。

3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層  
F<sub>KO</sub>断層の代表測線(音波探査記録)

GC-U  
[産業技術総合研究所(エアガン・シングル)]



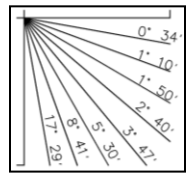
V.E. ≒ 18



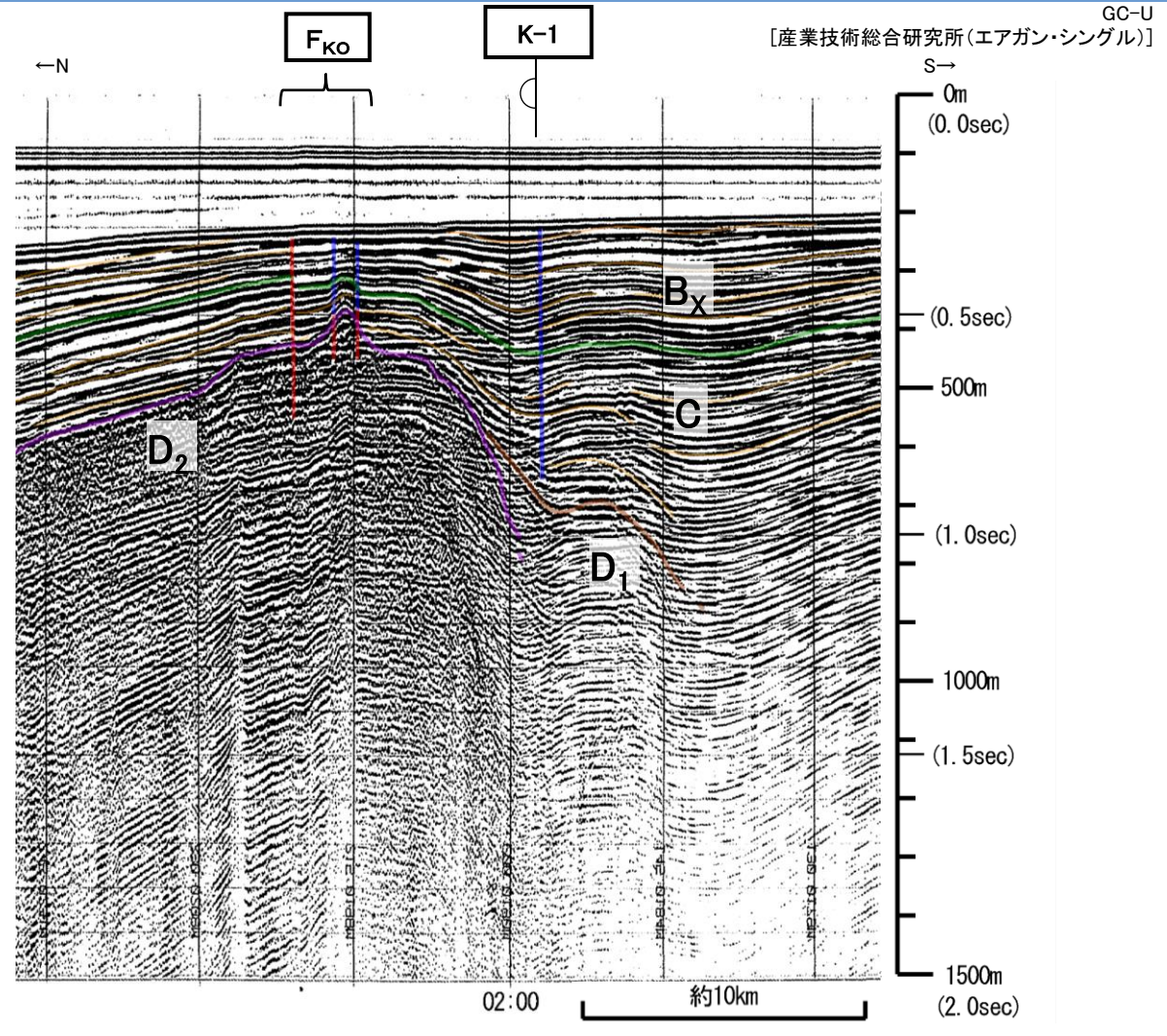
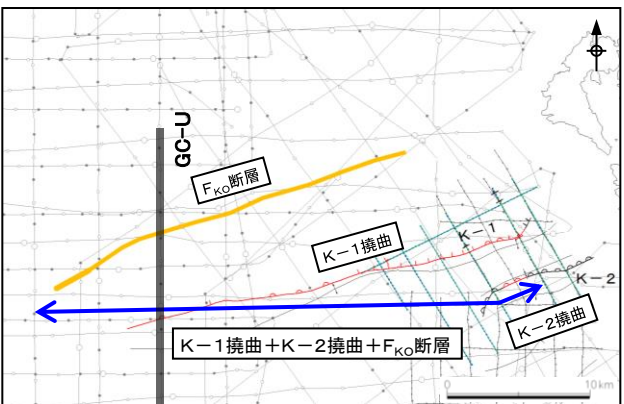
3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層  
F<sub>KO</sub>断層の代表測線(音波探査解析図)

第四紀	完新世	A
	後期	B <sub>x</sub>
	中期	
更新世	前期	C
新第三紀	鮮新世	D <sub>1</sub>
	中新世	
	火山岩・貫入岩	V

断層(変形)  
断層(変位)

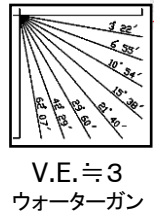
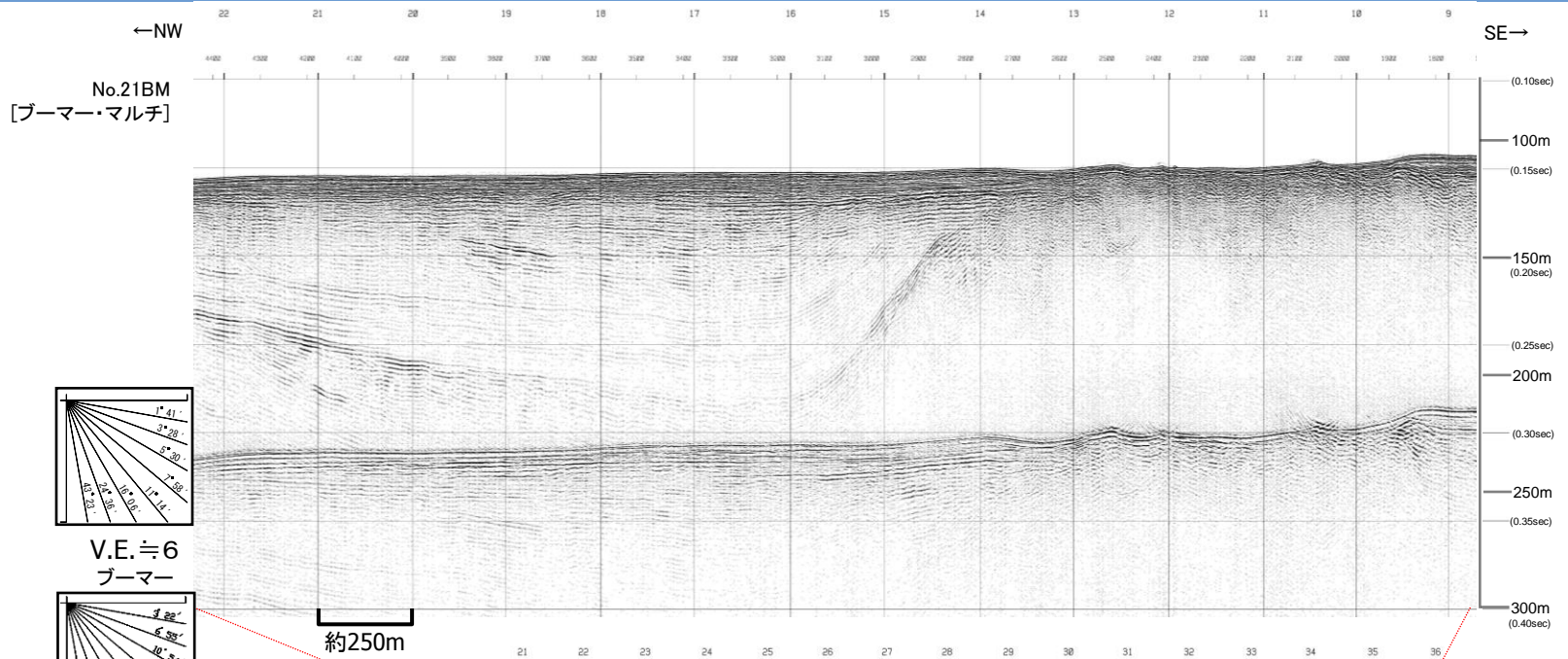


V.E. ≒ 18

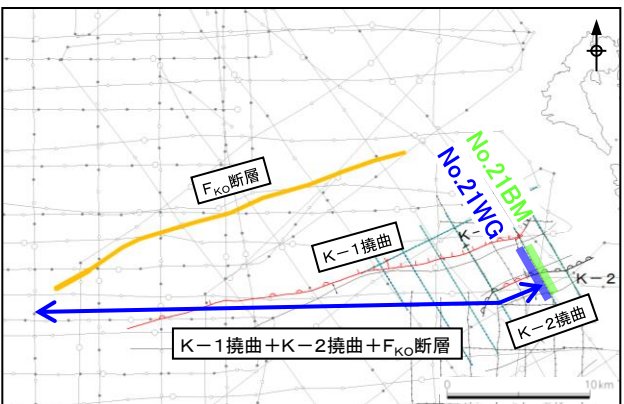
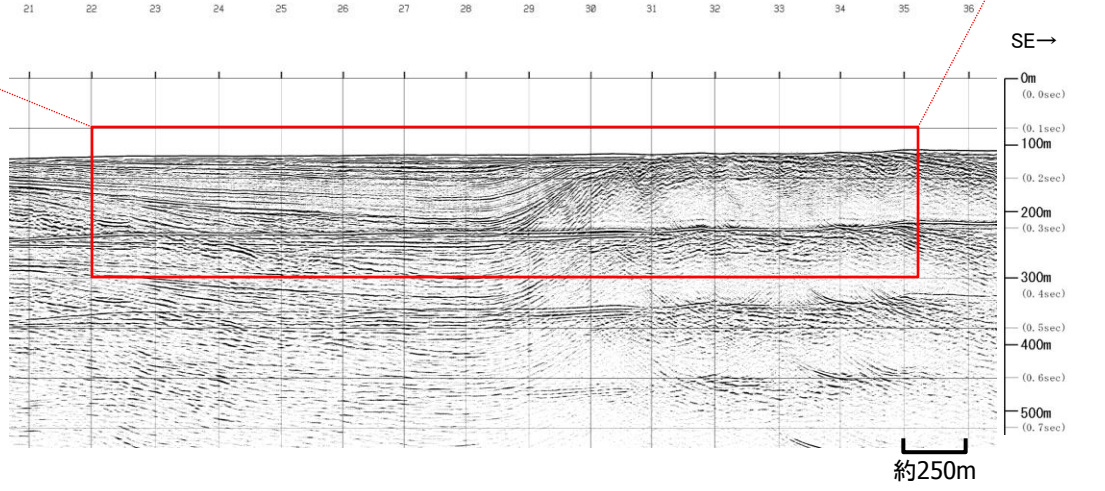


・F<sub>KO</sub>断層は、D<sub>2</sub>層の高まりの頂部に位置し、D<sub>2</sub>層上面以上に明瞭な変位や変形が認められ、正のフラワーストラクチャーを示す。

3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層  
 K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層の東端(音波探査記録)

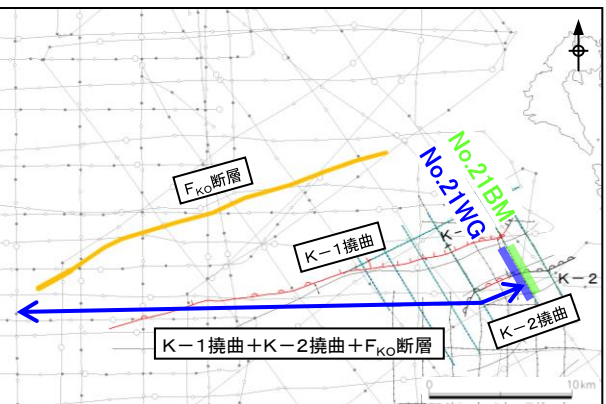
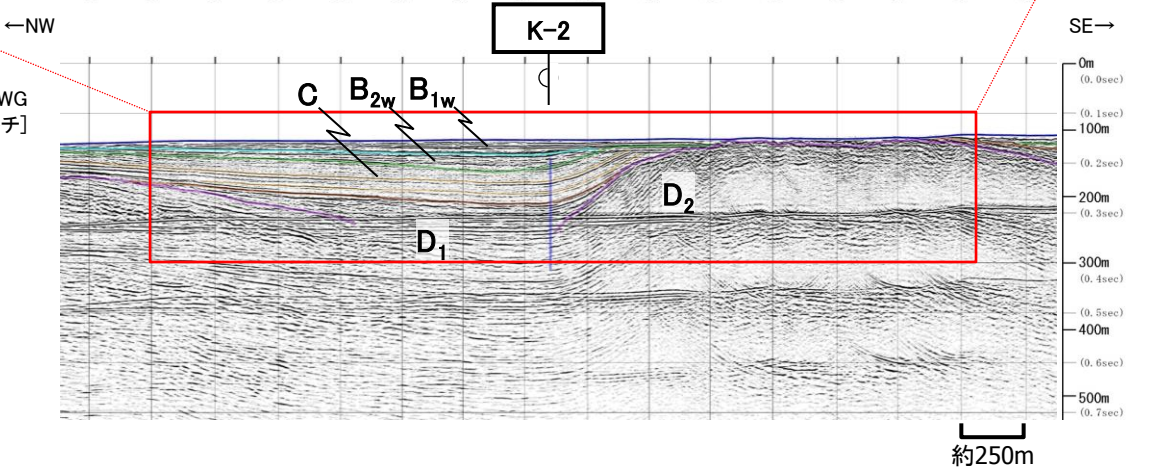
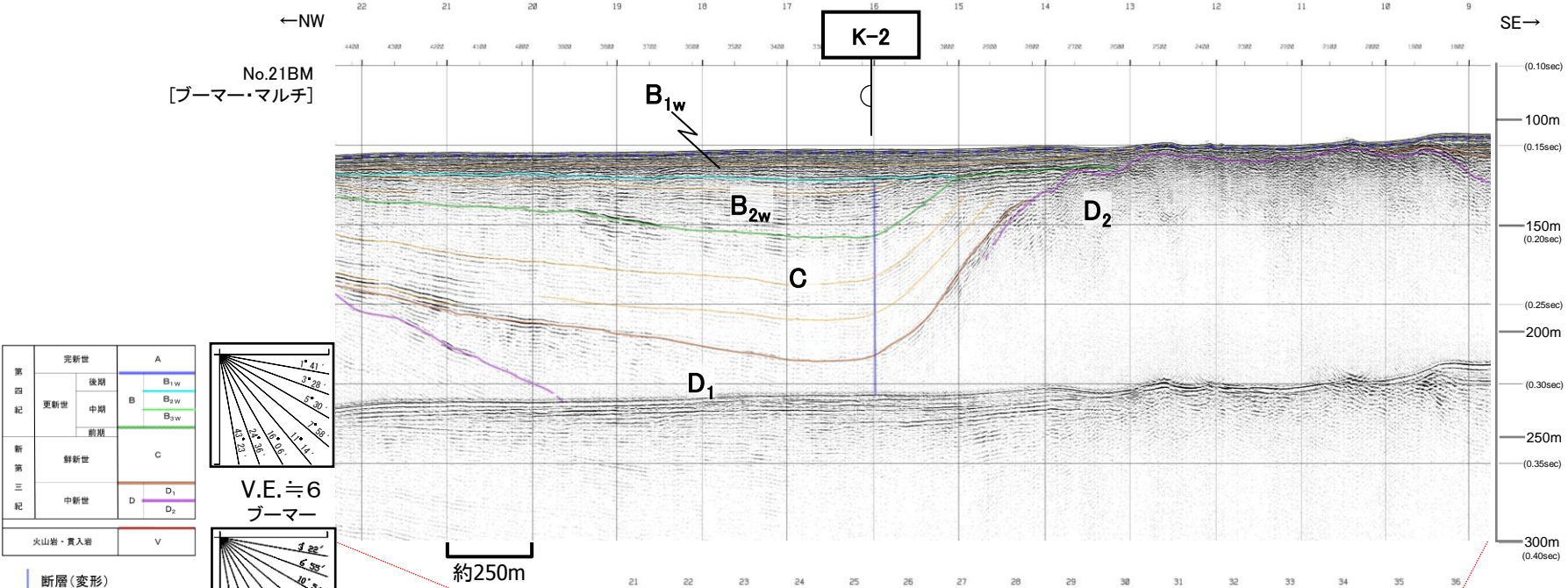


No.21WG  
[ウォーターガン・マルチ]





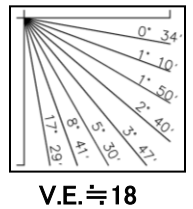
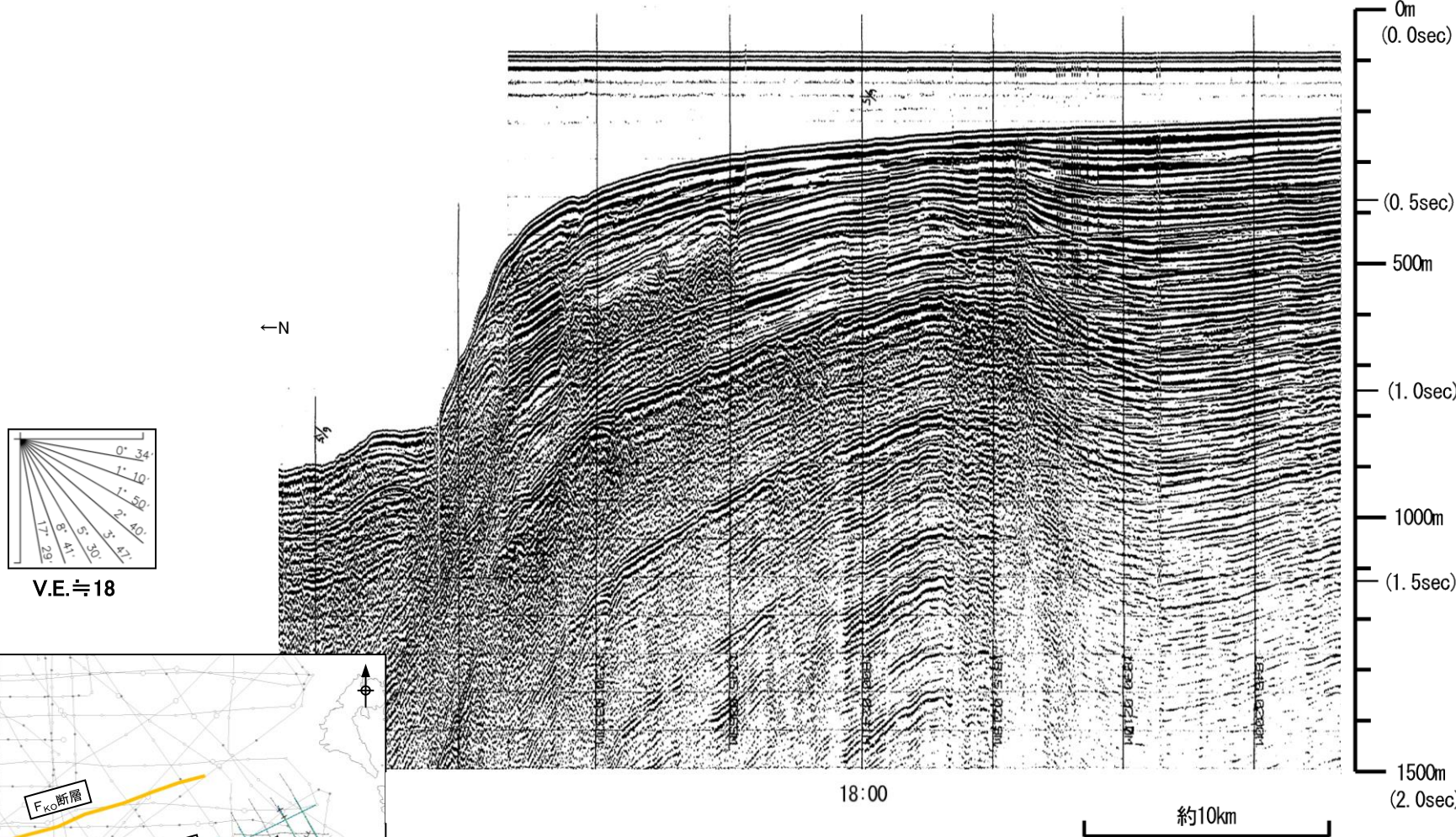
3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層  
 K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層の東端(音波探査解析図)



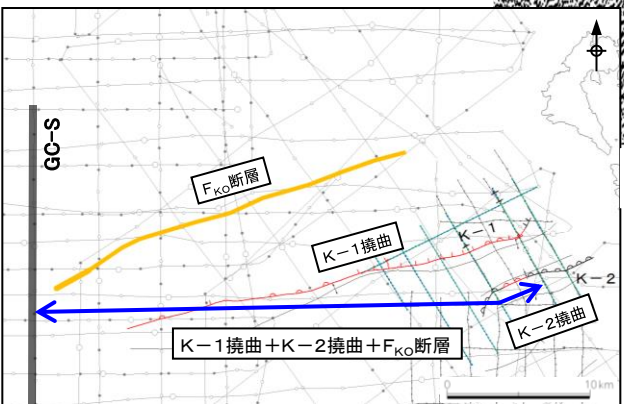
・K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層の東端部にあたるK-2撓曲は, B<sub>2w</sub>層まで変形が認められるが, B<sub>1w</sub>層以上に断層活動を示唆する変位や変形は認められない。

3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層  
K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層の西端(音波探査記録)

GC-S  
[産業技術総合研究所(エアガン・シングル)]



V.E. ≒ 18



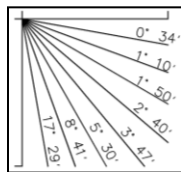
18:00

約10km

3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (4) K-1撓曲, K-2撓曲及び $F_{KO}$ 断層  
K-1撓曲, K-2撓曲及び $F_{KO}$ 断層の西端(音波探査解析図)

第四紀	完新世	A
	更新世	B <sub>x</sub>
	前期	C
新第三紀	鮮新世	D <sub>1</sub>
	中新世	D <sub>2</sub>
火山岩・貫入岩		V

断層(変形)  
断層(変位)

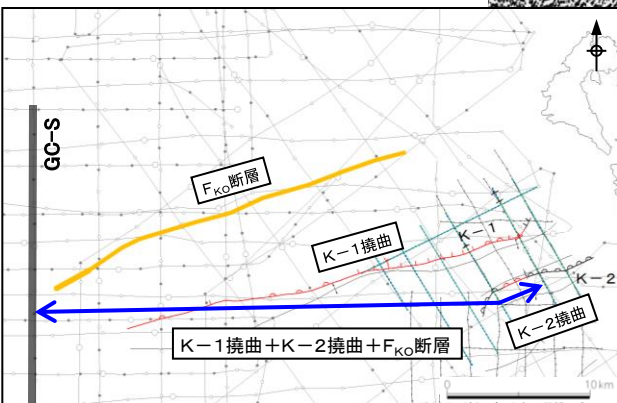
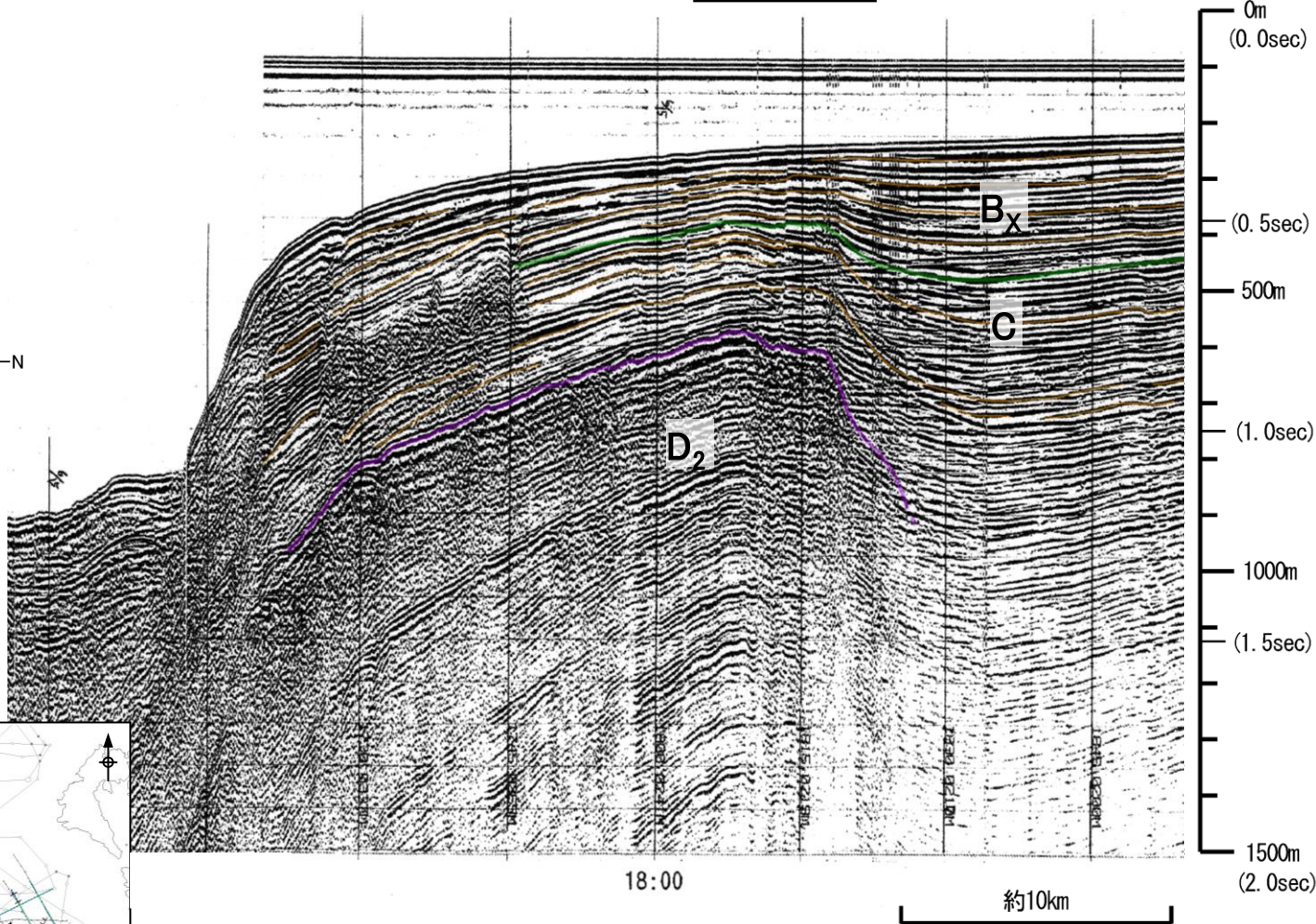


V.E. ≒ 18

←N

$F_{KO}$   
西方延長部

GC-S  
[産業技術総合研究所(エアガン・シングル)]  
S→



・K-1撓曲, K-2撓曲及び $F_{KO}$ 断層の西端部にあたる $F_{KO}$ 断層西方延長部において,  $D_2$ 層上面以上の明瞭な変位やフラワーストラクチャーは見られず, 断層活動を示唆する変位や変形は認められない。

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

## 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

- (1) F-Ⅲ断層, F-Ⅳ断層及びF-V断層
- (2) FK-1断層
- (3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲
- (4) F-I断層
- (5) F-II断層
- (6) F-VI断層
- (7) K-5撓曲
- (8) F-①断層及びF-②断層

## 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

- (1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層
- (2) 大田沖断層
- (3) F57断層
- (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層
- (5) 隠岐北西方の断層
- (6) 見島付近の断層
- (7) 見島北方沖の断層
- (8) 地蔵崎北東沖の断層

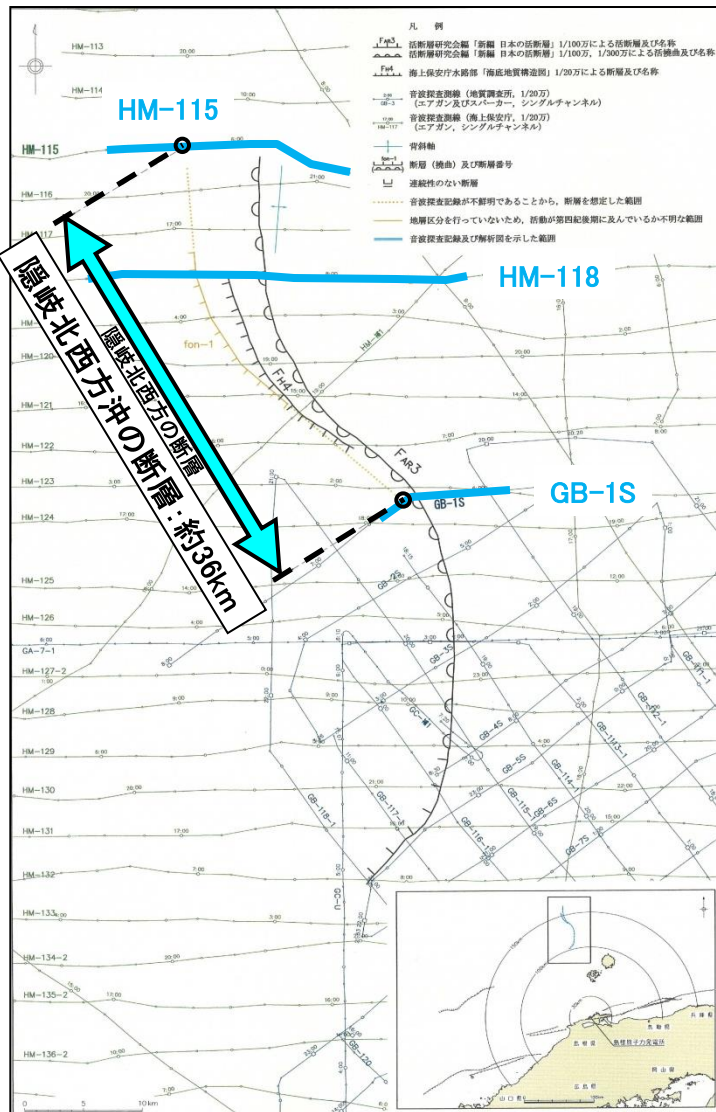
## 4. 敷地前面海域の地質層序

## 5. 敷地周辺海域の地質層序

- (1) 鳥取沖
- (2) 大田沖
- (3) その他海域

# 隠岐北西方の断層の評価

隠岐北西方の断層の位置図

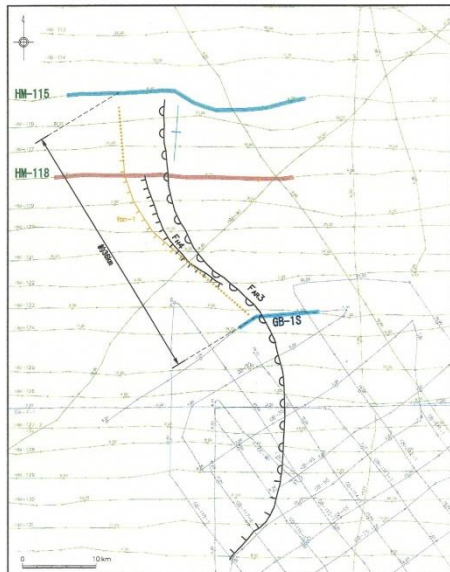


活断層研究会編(1991)<sup>(34)</sup>等で隠岐北西方の大陸斜面に示された断層(以下「隠岐北西方の断層」という。)について、海上保安庁水路部(1980)<sup>(35)</sup>等の音波探査記録に基づいて、分布性状及び活動性を検討した。

- ・隠岐北西方の断層については、海上保安庁水路部等の音波探査記録によれば、文献で示されている断層の中央部及び南部においては断層が認められない。
- ・北部においては海上保安庁水路部の音波探査記録によれば、約36km区間で一部に不明瞭な部分があり、活動が後期更新世以降に及んでいる可能性のある断層も認められるが、敷地からの距離を考慮すると、敷地に与える影響は小さいと判断される。

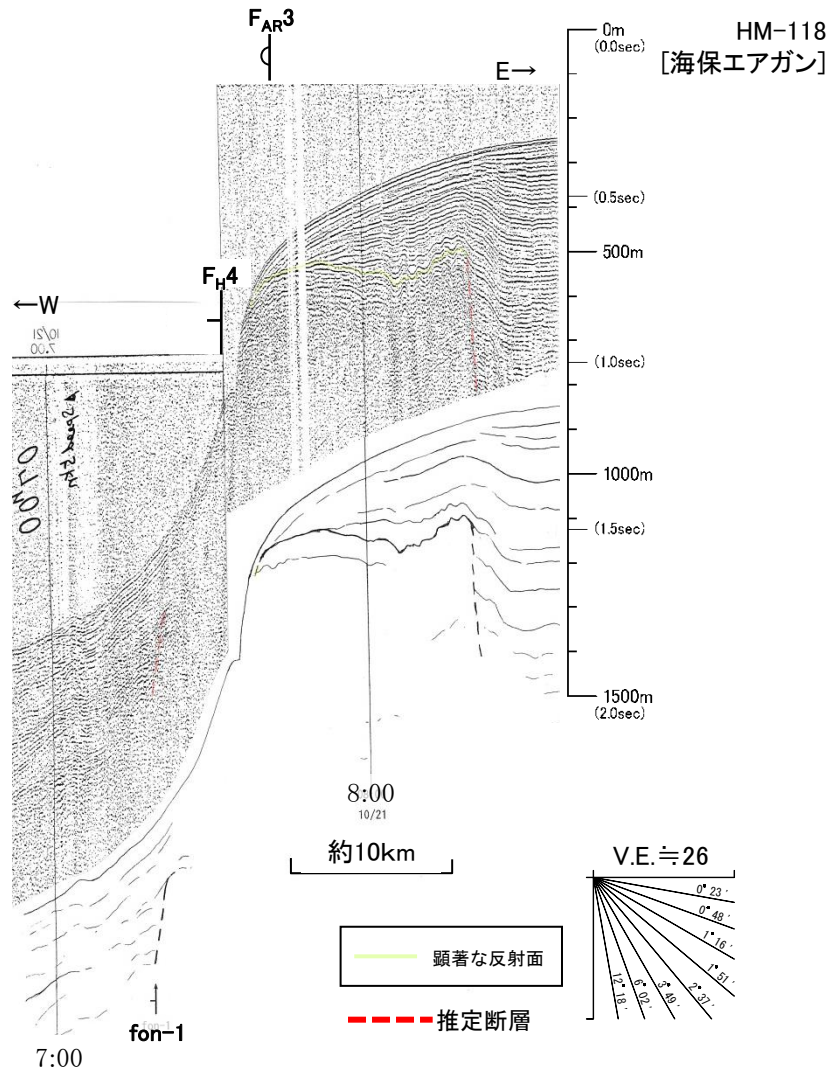
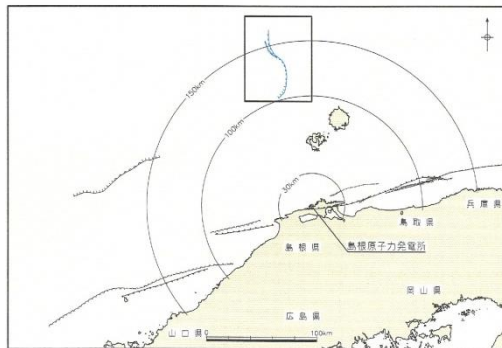
3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (5) 隠岐北西方の断層

隠岐北西方の断層の代表測線(音波探査解析図)



凡例

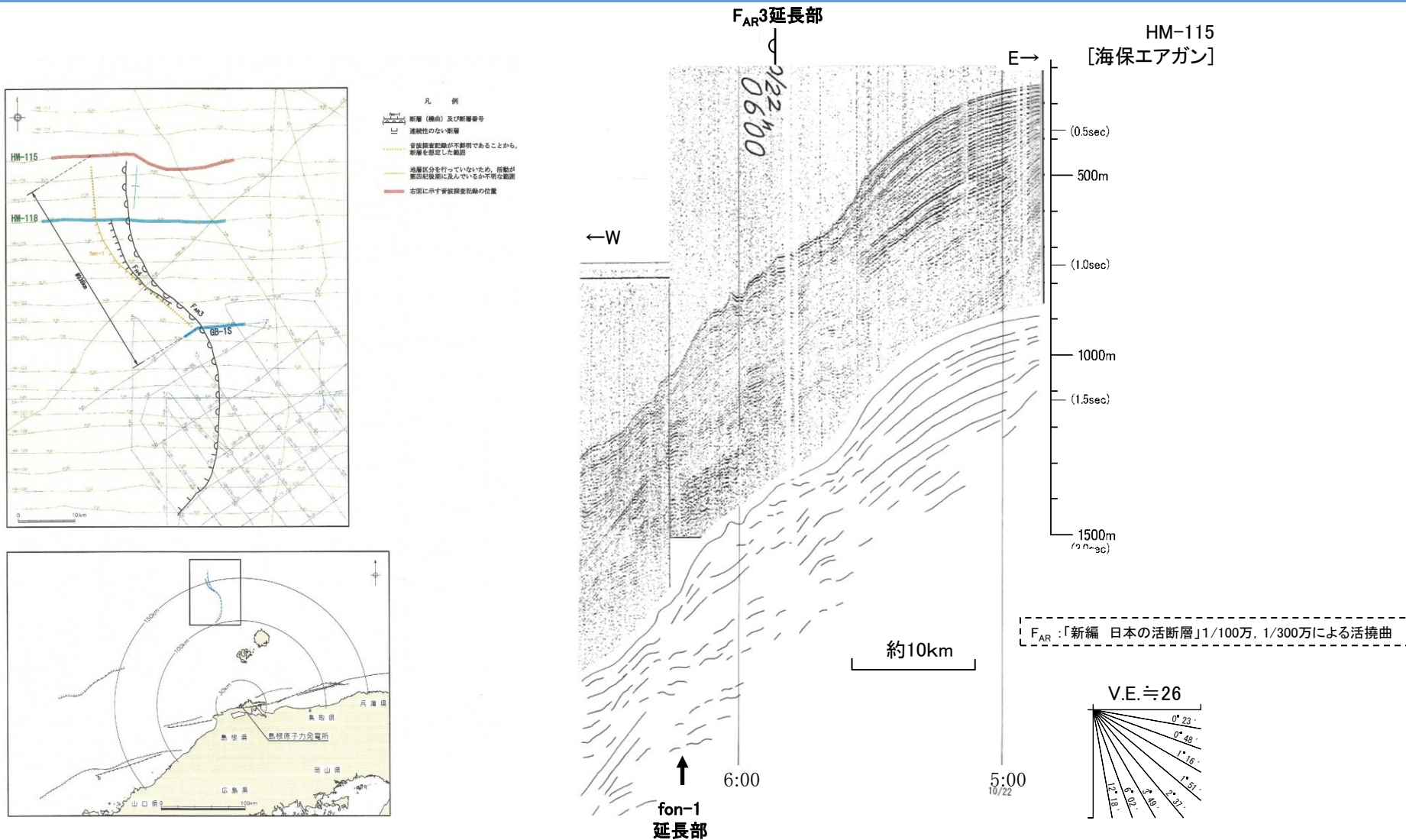
- 断層 (撓曲) 及び断層番号
- 連続性のない断層
- 音波探査断層が不明であることから、断層を想定した範囲
- 断層区分を行っていないため、断層が東向き後方に及んでいる可能性が範囲
- 右図に示す音波探査断層の位置



F<sub>AR</sub>: 「新編 日本の活断層」1/100万, 1/300万による活撓曲  
F<sub>H</sub>: 海上保安庁水路部「海底地質構造図」1/20万による断層

- ・文献断層(撓曲)位置周辺には、海底下深部までに変位を与えるfon-1断層が認められる。
- ・fon-1断層は、海底下浅部には変位や変形を与えていない。

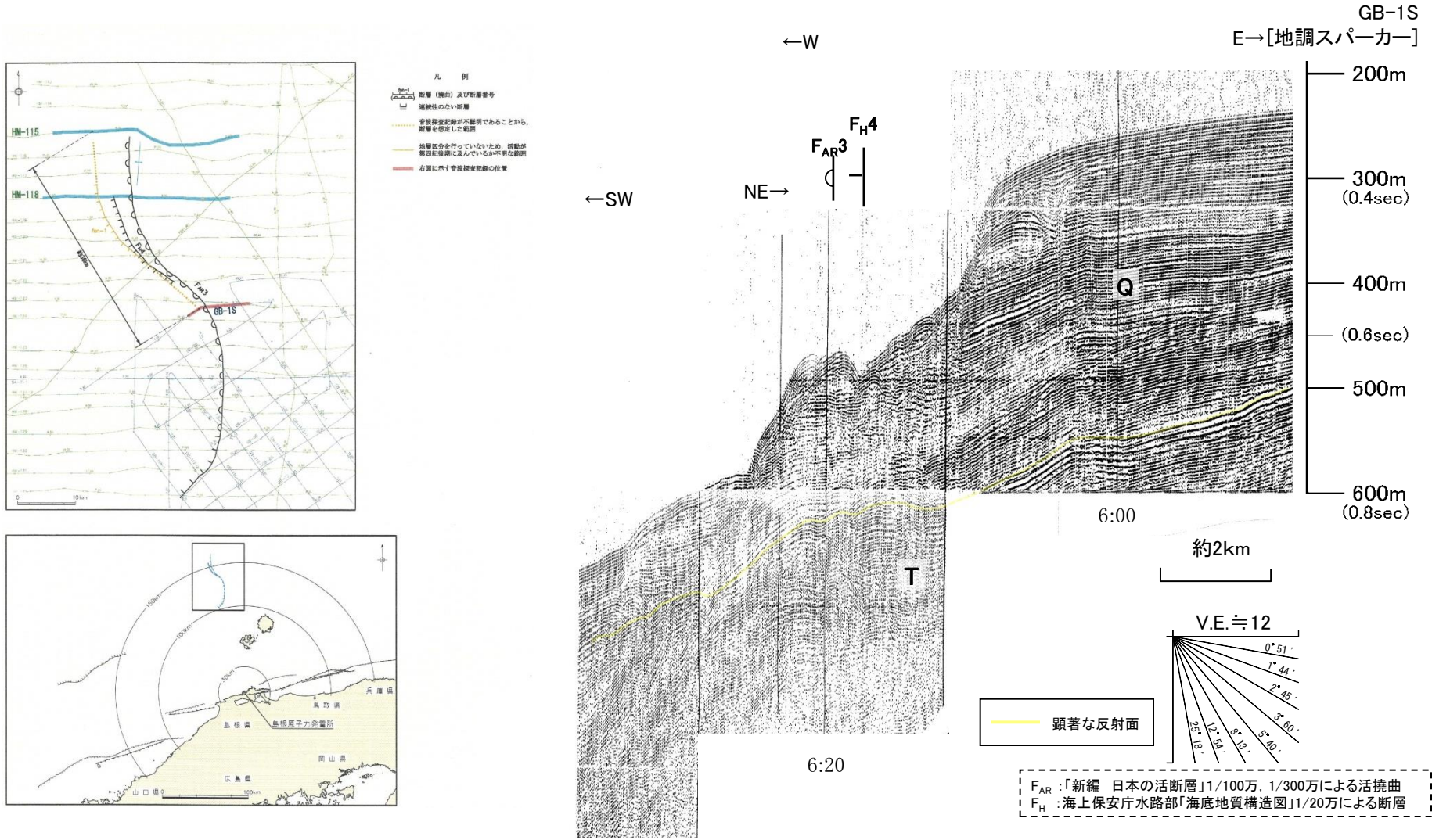
# 隠岐北西方の断層の北端(音波探査解析図)



文献断層(撓曲)延長部周辺において、海底下深部に変位や変形は認められない。

3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (5) 隠岐北西方の断層

隠岐北西方の断層の南端(音波探査解析図)



文献断層位置周辺には、T層(中新統～下部更新統)の上部に変位や変形は認められない。



## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

## 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

- (1) F-Ⅲ断層, F-Ⅳ断層及びF-V断層
- (2) FK-1断層
- (3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲
- (4) F-I断層
- (5) F-II断層
- (6) F-VI断層
- (7) K-5撓曲
- (8) F-①断層及びF-②断層

## 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

- (1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層
- (2) 大田沖断層
- (3) F57断層
- (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層
- (5) 隠岐北西方の断層
- (6) 見島付近の断層
- (7) 見島北方沖の断層
- (8) 地蔵崎北東沖の断層

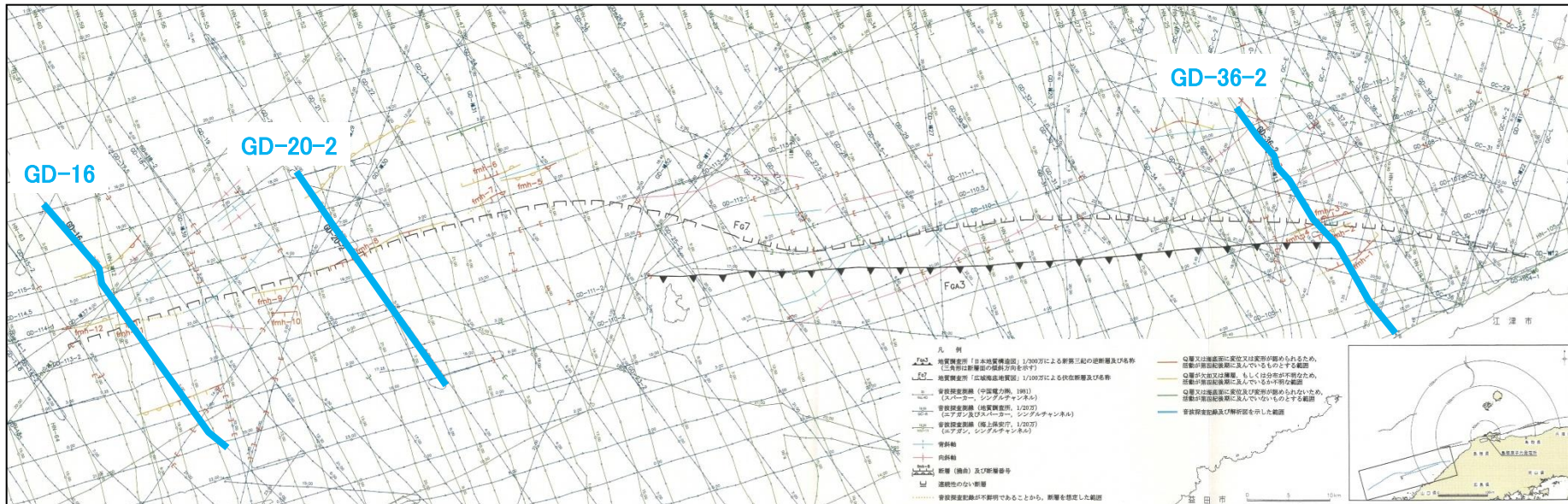
## 4. 敷地前面海域の地質層序

## 5. 敷地周辺海域の地質層序

- (1) 鳥取沖
- (2) 大田沖
- (3) その他海域

# 見島付近の断層の評価

見島付近の断層の位置図

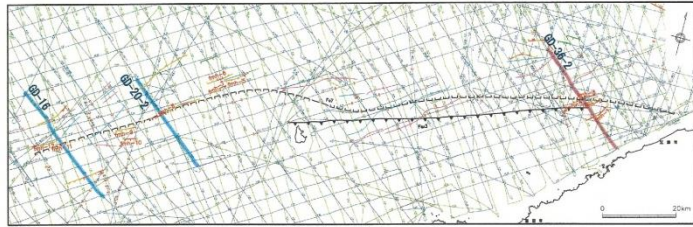


脇田ほか(1992)等で島根県西部から福岡県沿岸の大陸棚に示された断層(以下「見島付近の断層」という。)について、海上保安庁水路部等の音波探査記録に基づいて、分布性状及び活動性を検討した。

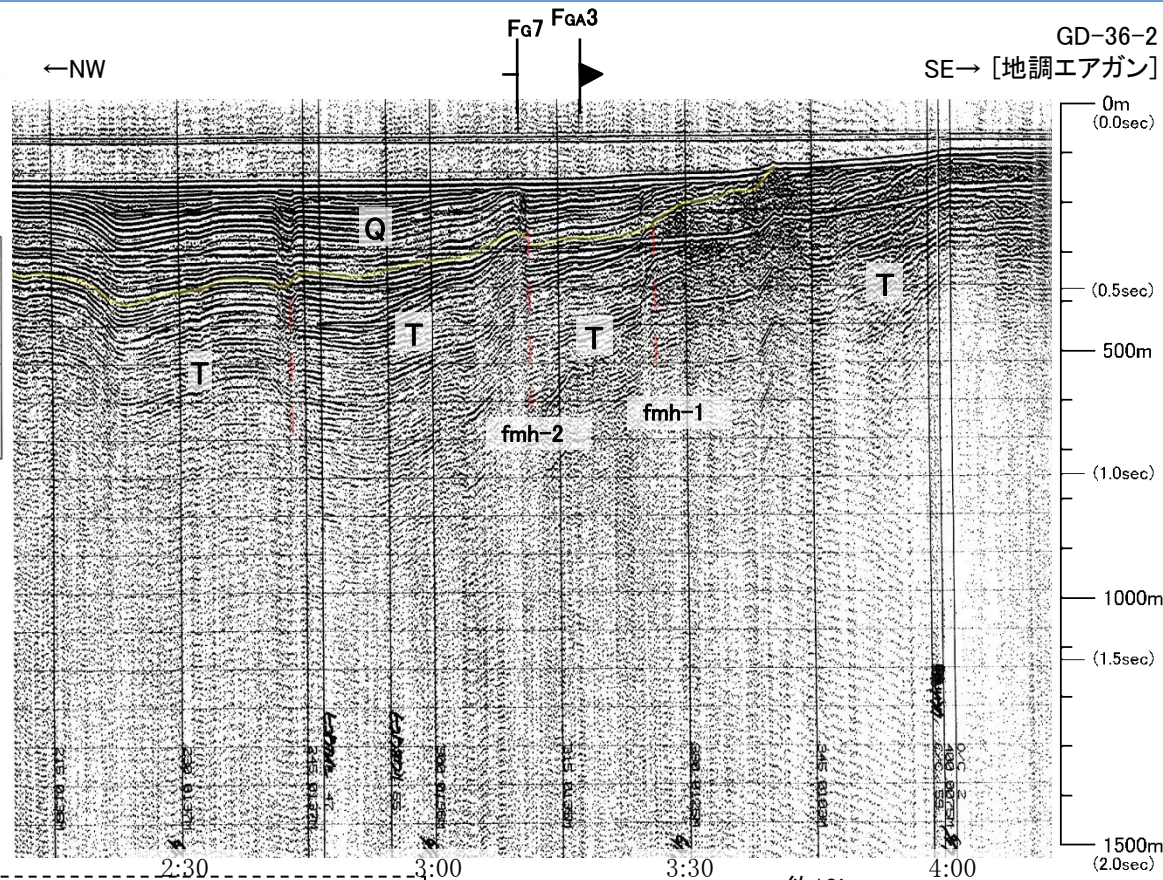
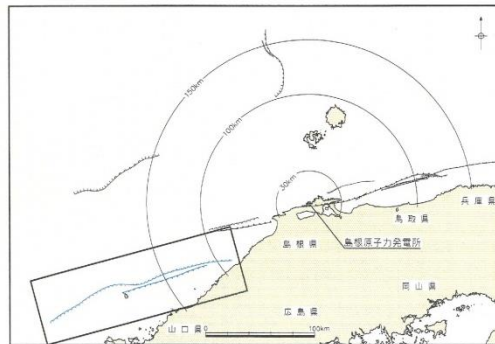
- ・見島付近の断層については、文献で示されている断層の中央部においては、海上保安庁水路部等の音波探査記録によれば、中部更新統以上には連続性のある断層は認められない。
- ・東部及び西部においては中部更新統以上に影響を与える数条の断層が認められるが、いずれも長さが短く、敷地からの距離を考慮すると、敷地に与える影響は小さいと判断される。

3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (6)見島付近の断層

見島付近の断層の代表測線-1(音波探査解析図)



- 凡例
- 断層 (推定) 及び断層番号
  - 連続性のない断層
  - 音波探査記録が不明であることから、断層を推定した範囲
  - 右図に示す音波探査記録線的位置
  - Q層又は断層面に変位又は変形が認められるため、断層が第四紀更新統に属しているものとする範囲
  - Q層が欠如又は薄層、もしくは分布が不明なため、断層が第四紀更新統に属しているか不明な範囲
  - Q層又は断層面に変位及び変形が認められないため、断層が第四紀更新統に属していないものとする範囲

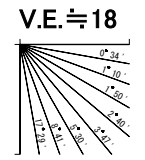


F<sub>GA</sub>: 地質調査所「日本地質構造図」1/300万による新第三紀の逆断層  
F<sub>G</sub>: 地質調査所「広域海底地質図」1/100万による伏在断層及び推定断層

- Q層 中期更新世～完新世
- T層 中新世～前期更新世

--- 推定断層

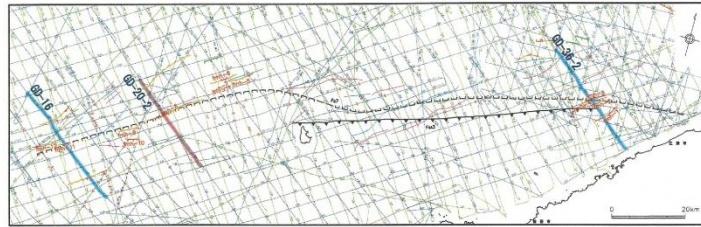
- Q層
- T層



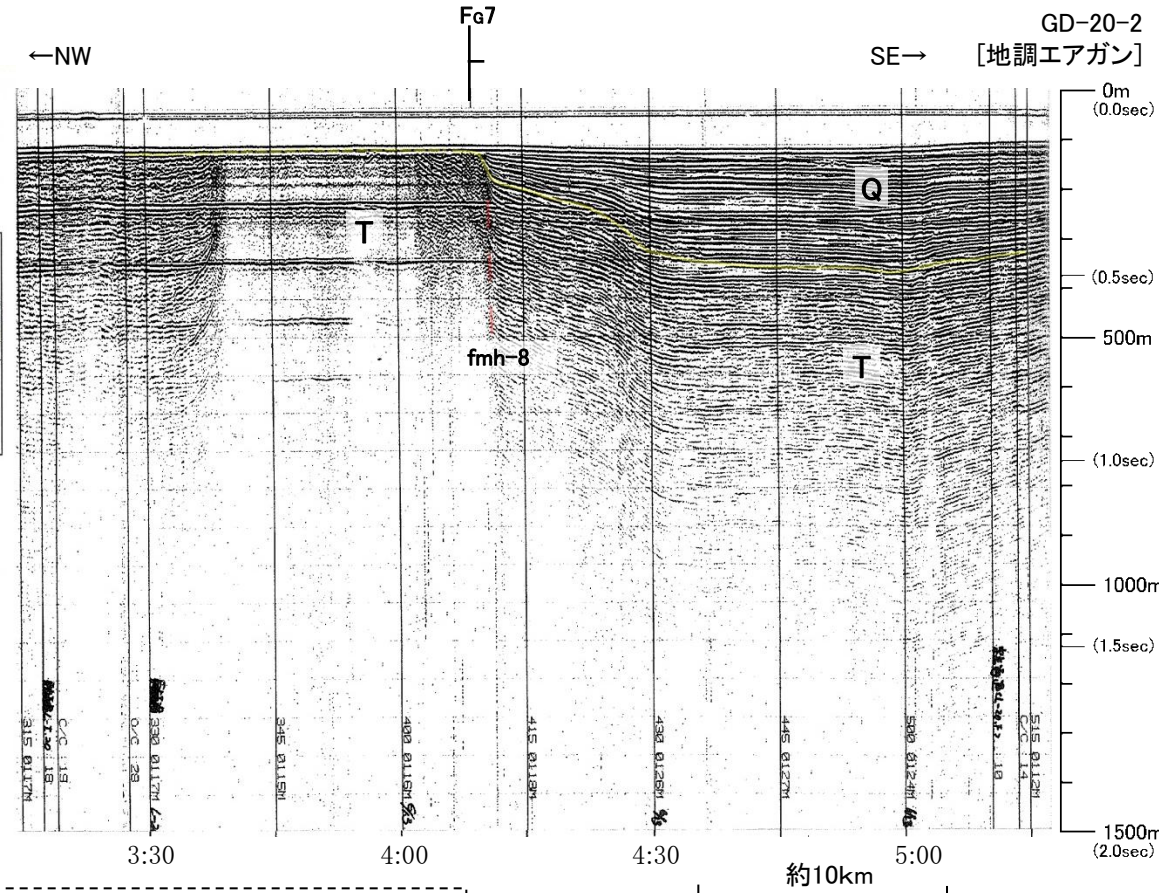
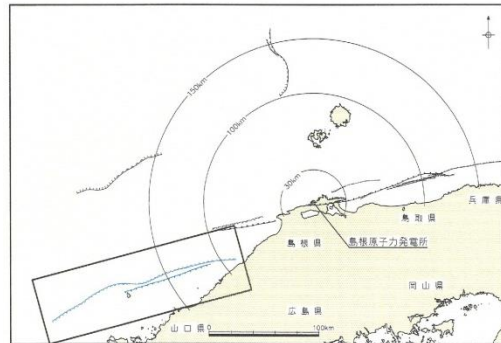
文献断層位置周辺には、T層(中新統～下部更新統)までに変位を、Q層(中部更新統～完新統)までに変形を与えるfmh-2断層と、T層までに変位を、Q層の下部までに変形を与え、Q層の上部には変位や変形を与えていないfmh-1断層が認められる。

3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (6)見島付近の断層

見島付近の断層の代表測線-2(音波探査解析図)

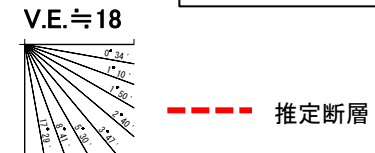


- 凡例
- 断層 (構造) 及び断層番号
  - 連続性のない断層
  - 音波探査記録が不明なことから、断層を想定した範囲
  - 右図に示す音波探査記録の位置
  - Q層又は海底面に変位又は変形が認められるため、断層が断層線に及んでいないものとする範囲
  - Q層が欠如又は薄層、もしくは分布が不明なため、断層が断層線に及んでいないか不明な範囲
  - Q層又は海底面に変位及び変形が認められないため、断層が断層線に及んでいないものとする範囲



F<sub>G</sub>: 地質調査所「広域海底地質図」1/100万による伏在断層及び推定断層

- |   |              |    |
|---|--------------|----|
| Q | Q層 中期更新世～完新世 | Q層 |
| T | T層 中新世～前期更新世 | T層 |

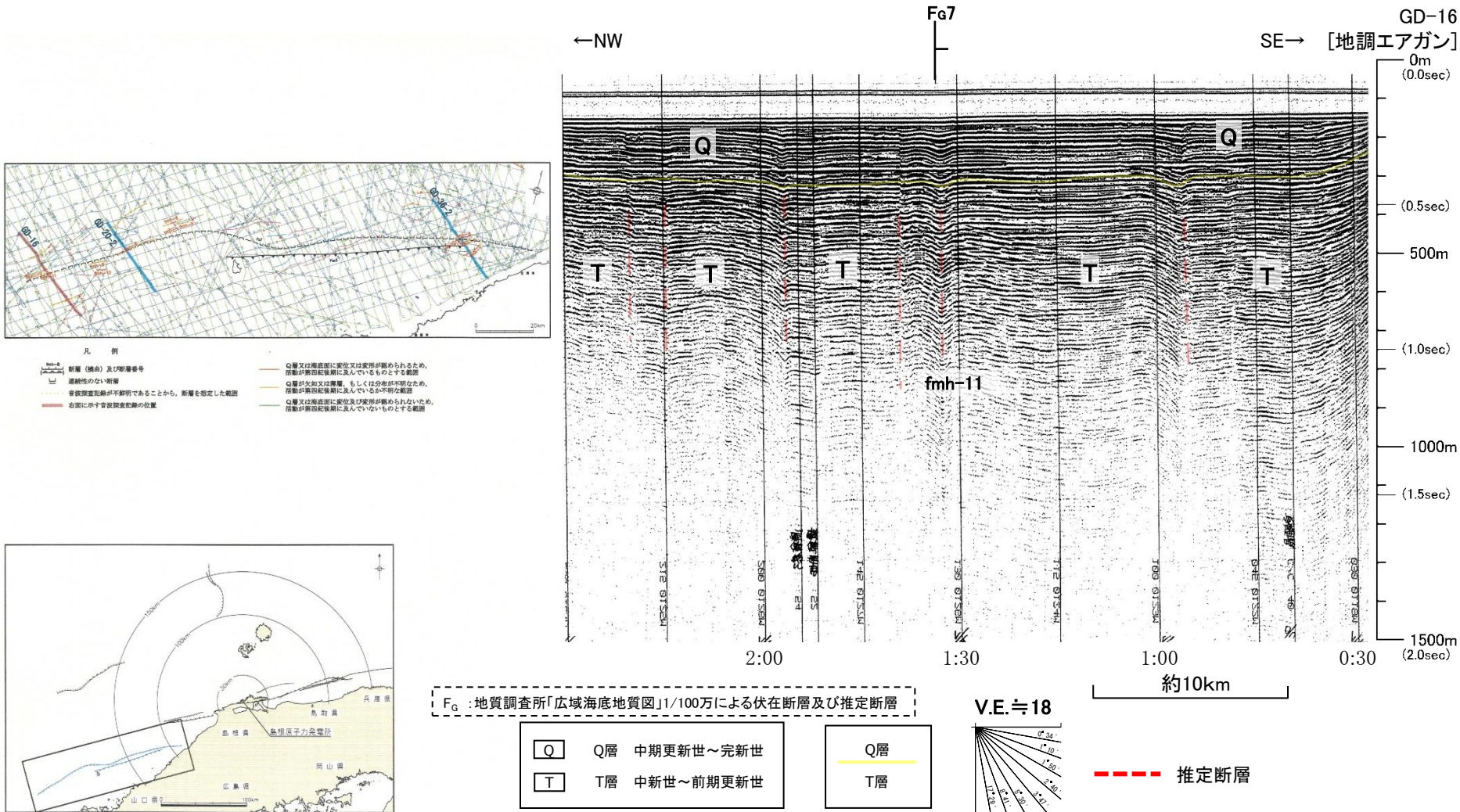


・文献断層位置周辺には、T層(中新統～下部更新統)までに変位を、Q層(中部更新統～完新統)の下部までに変形を与えるfmh-8断層が認められる。

・fmh-8断層は、Q層の上部には変位や変形を与えていない。

3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (6)見島付近の断層

見島付近の断層の代表測線-3(音波探査解析図)



・文献断層位置周辺には、T層(中新統～下部更新統)までに変位を、Q層(中部更新統～完新統)の下部までに変形を与えるfmh-11断層が認められる。

・fmh-11断層は、Q層の上部には変位や変形を与えていない。

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

## 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

- (1) F-Ⅲ断層, F-Ⅳ断層及びF-V断層
- (2) FK-1断層
- (3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲
- (4) F-I断層
- (5) F-II断層
- (6) F-VI断層
- (7) K-5撓曲
- (8) F-①断層及びF-②断層

## 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

- (1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層
- (2) 大田沖断層
- (3) F57断層
- (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層
- (5) 隠岐北西方の断層
- (6) 見島付近の断層
- (7) 見島北方沖の断層
- (8) 地蔵崎北東沖の断層

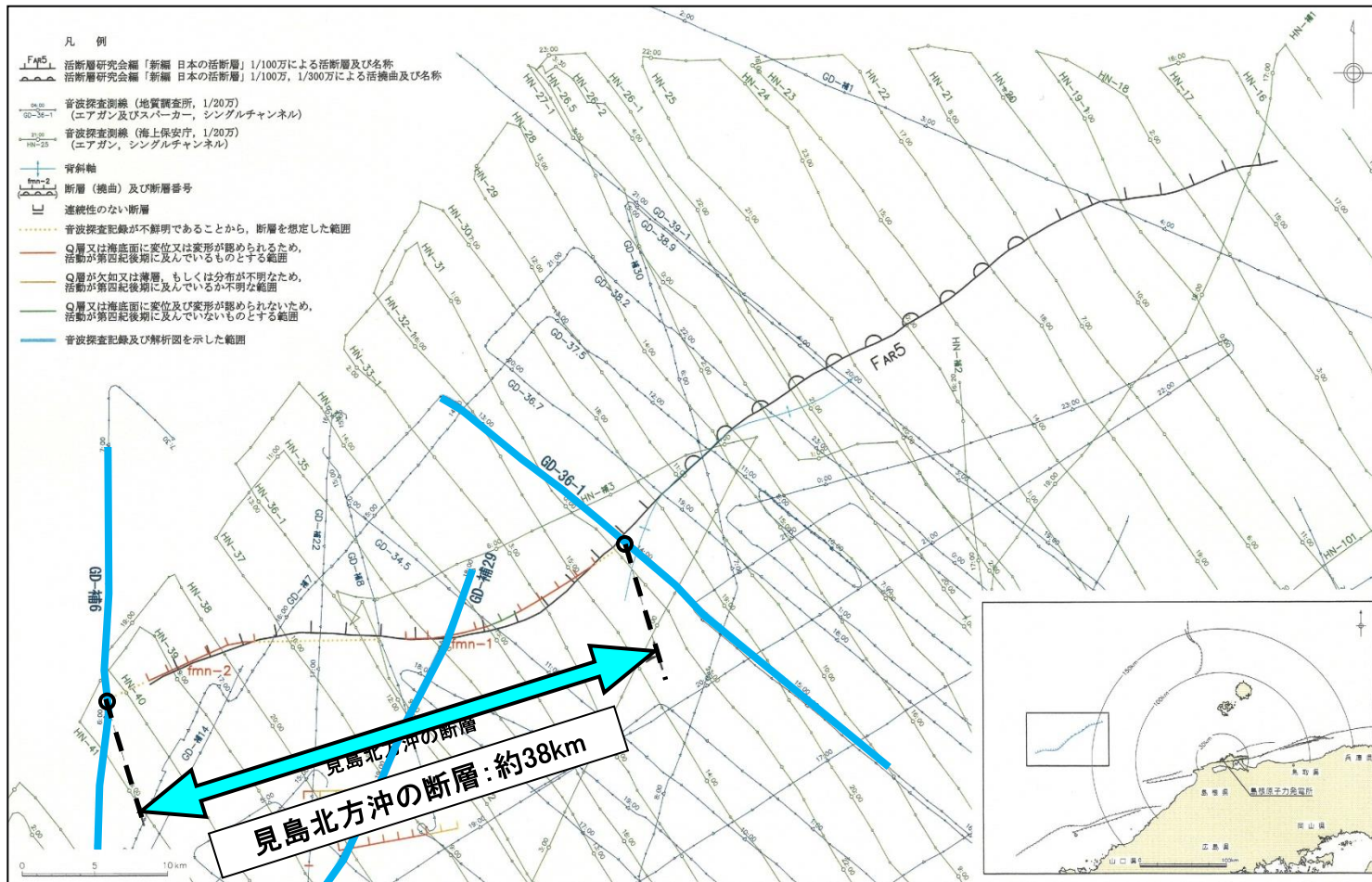
## 4. 敷地前面海域の地質層序

## 5. 敷地周辺海域の地質層序

- (1) 鳥取沖
- (2) 大田沖
- (3) その他海域

# 見島北方沖の断層の評価

見島北方沖の断層の位置図

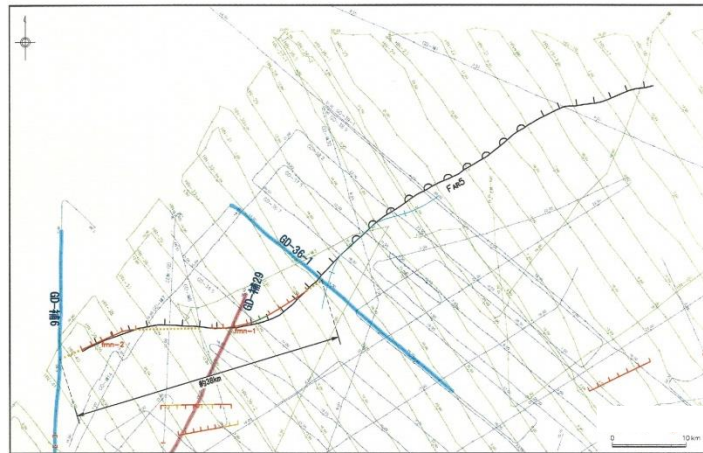


活断層研究会編 (1991)で見島北方沖の大陸斜面に示された断層(以下「見島北方沖の断層」という。)について, 海上保安庁水路部等の音波探査記録に基づいて, 分布性状及び活動性を検討した。

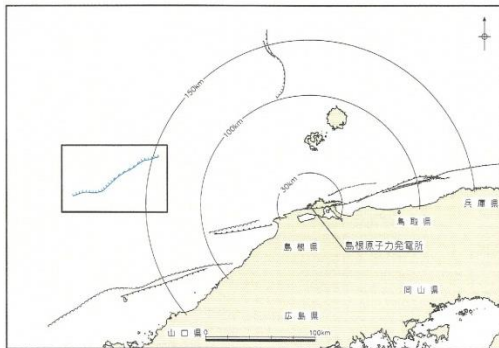
- ・見島北方沖の断層については, 海上保安庁水路部等の音波探査記録によれば, 文献で示されている断層の東部においては, 中部更新統以上に連続性のある断層は認められない。
- ・西部においては, 海上保安庁水路部等の音波探査記録によれば, 約38km区間で一部に不明瞭な部分もあるが, 中部更新統以上に影響を与えている断層が認められる。この約38km区間について, 活動が後期更新世以降に及んでいる可能性があるが, 敷地からの距離を考慮すると, 敷地に与える影響は小さいと判断される。

3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (7) 見島北方沖の断層

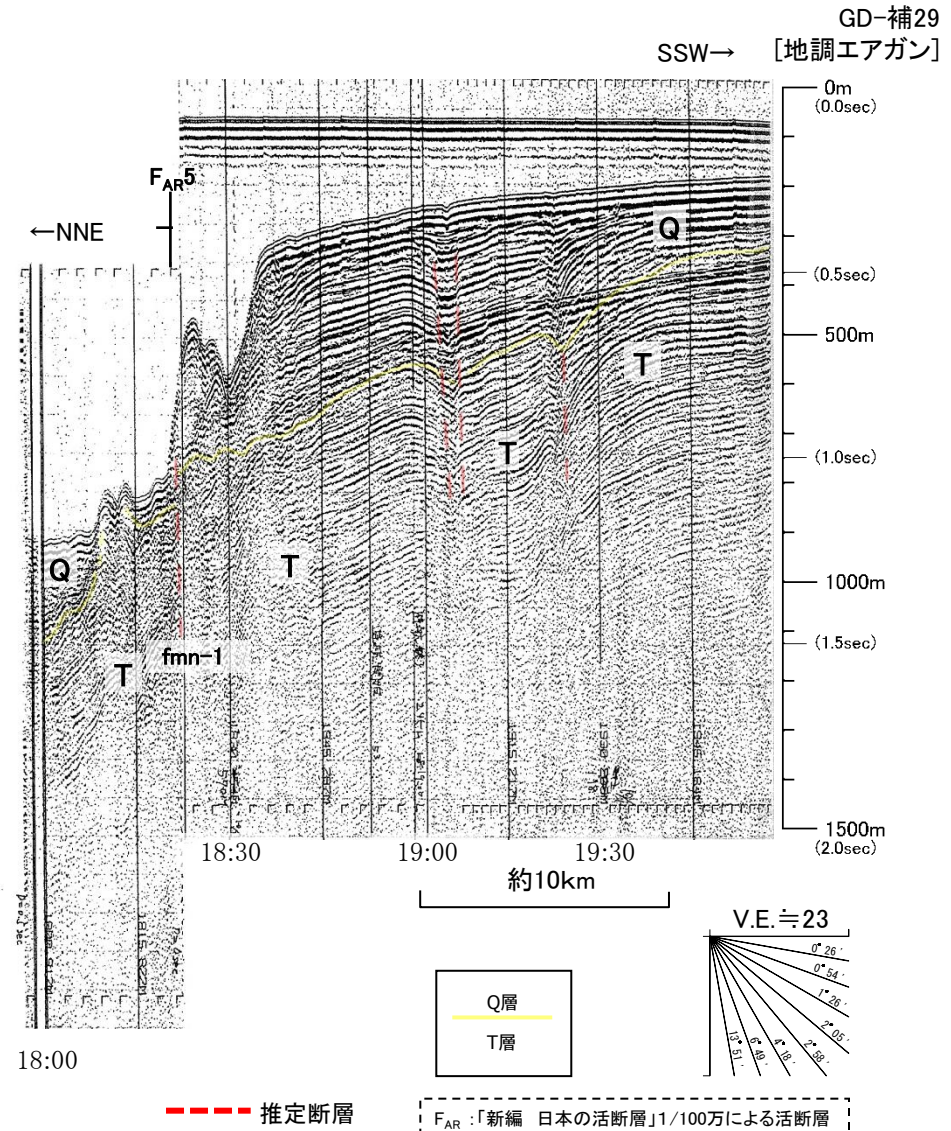
見島北方沖の断層の代表測線(音波探査解析図)



- 凡例
- 断層(構造)及び断層番号
  - 運動性のない断層
  - 穿割調査時期が不明であることから、断層を想定した断層
  - 右図に示す穿割調査断層の位置
  - Q層又は梅屋田に変位又は変形が認められるため、断層が新第三紀後期に及んでいるものとする断層
  - Q層が欠如又は薄層、もしくは分層が不明なため、断層が新第三紀後期に及んでいるものとする断層
  - Q層又は梅屋田に変位及び変形が認められないため、断層が新第三紀後期に及んでいないものとする断層



- Q層 中期更新世～完新世
- T層 中新世～前期更新世



----- 推定断層

F<sub>AR</sub>:「新編 日本の活断層」1/100万による活断層

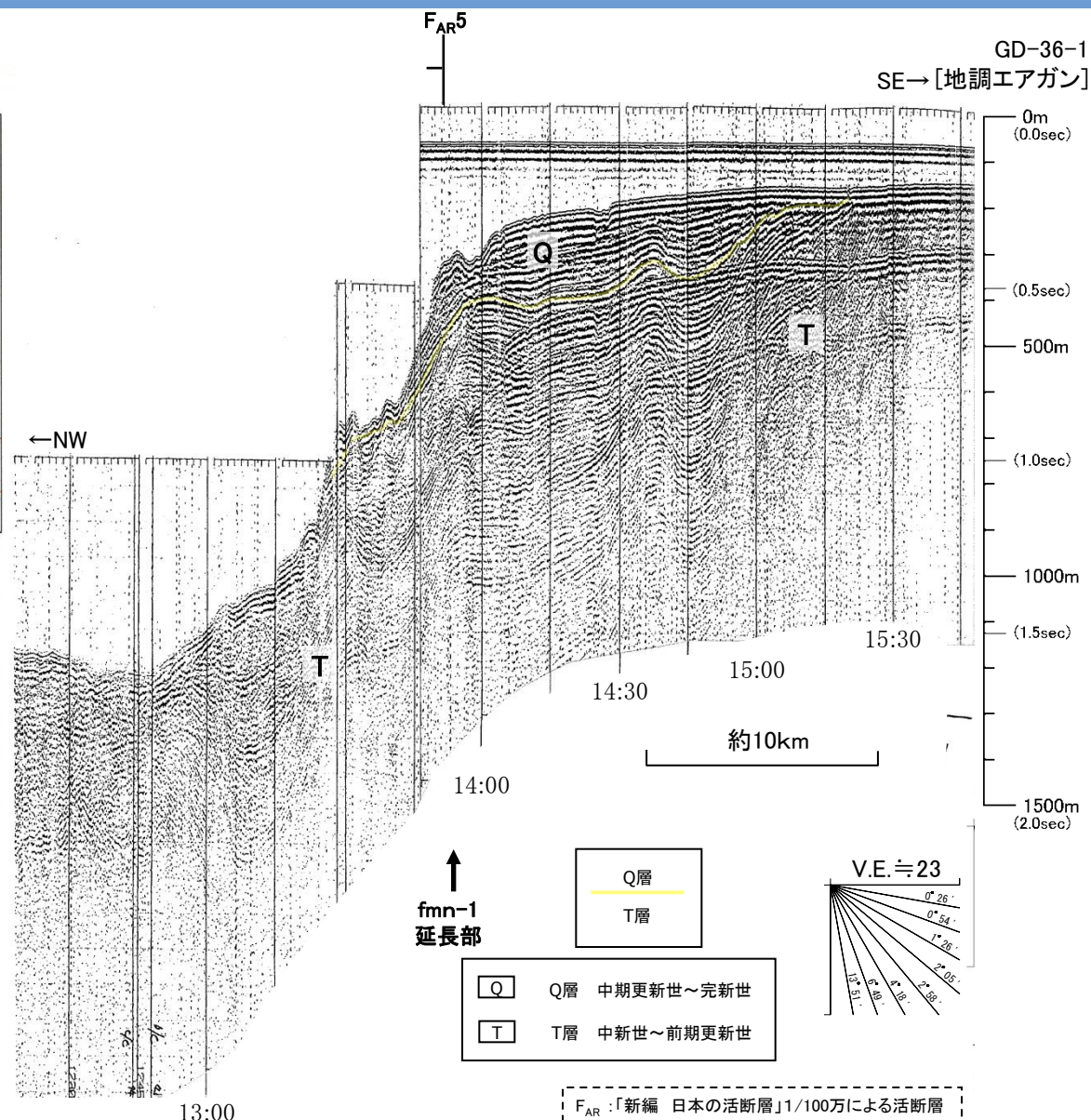
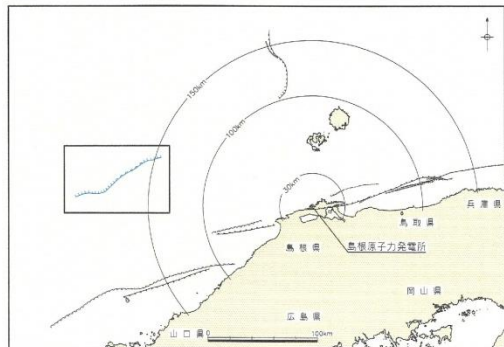
文献断層位置周辺には、Q層(中部更新統～完新統)までに変位を与えるfmn-1断層が認められる。



# 見島北方沖の断層の東端(音波探査解析図)

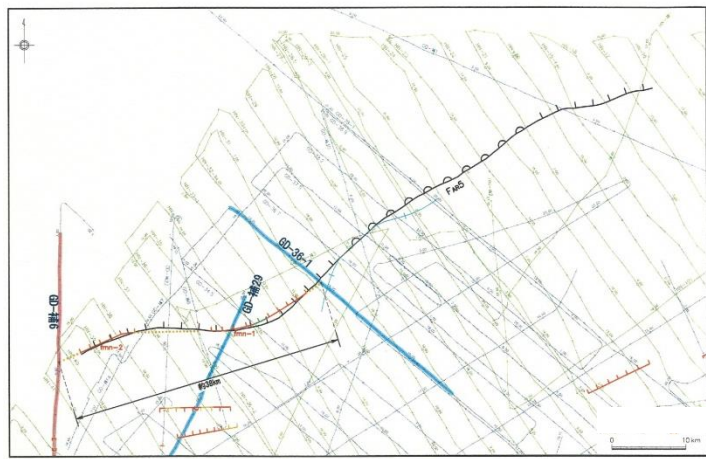


- 凡例
- 断層(構造)及び断層番号
  - 連続性のない断層
  - 穿査探査記録の不詳明であることから、断層を想定した範囲
  - 右側に示す穿査探査記録の位置
  - Q層又は薄層に変位又は変形が認められるため、断層が構造図に記入しているものとする範囲
  - Q層が未知又は薄層、もしくは方位が不明なため、断層が構造図に記入していないものとする範囲
  - Q層又は薄層に方位及び変位が不明なため、断層が構造図に記入していないものとする範囲

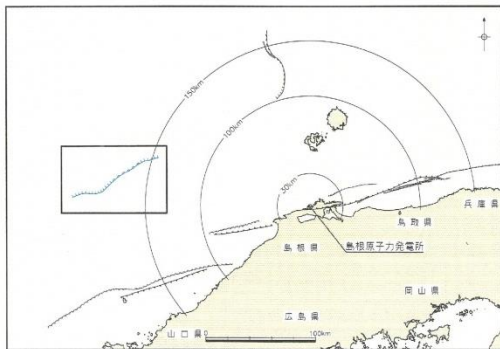


文献断層位置及びfmn-1断層延長部周辺には、T層(中新統~下部更新統)に変位や変形は認められない。

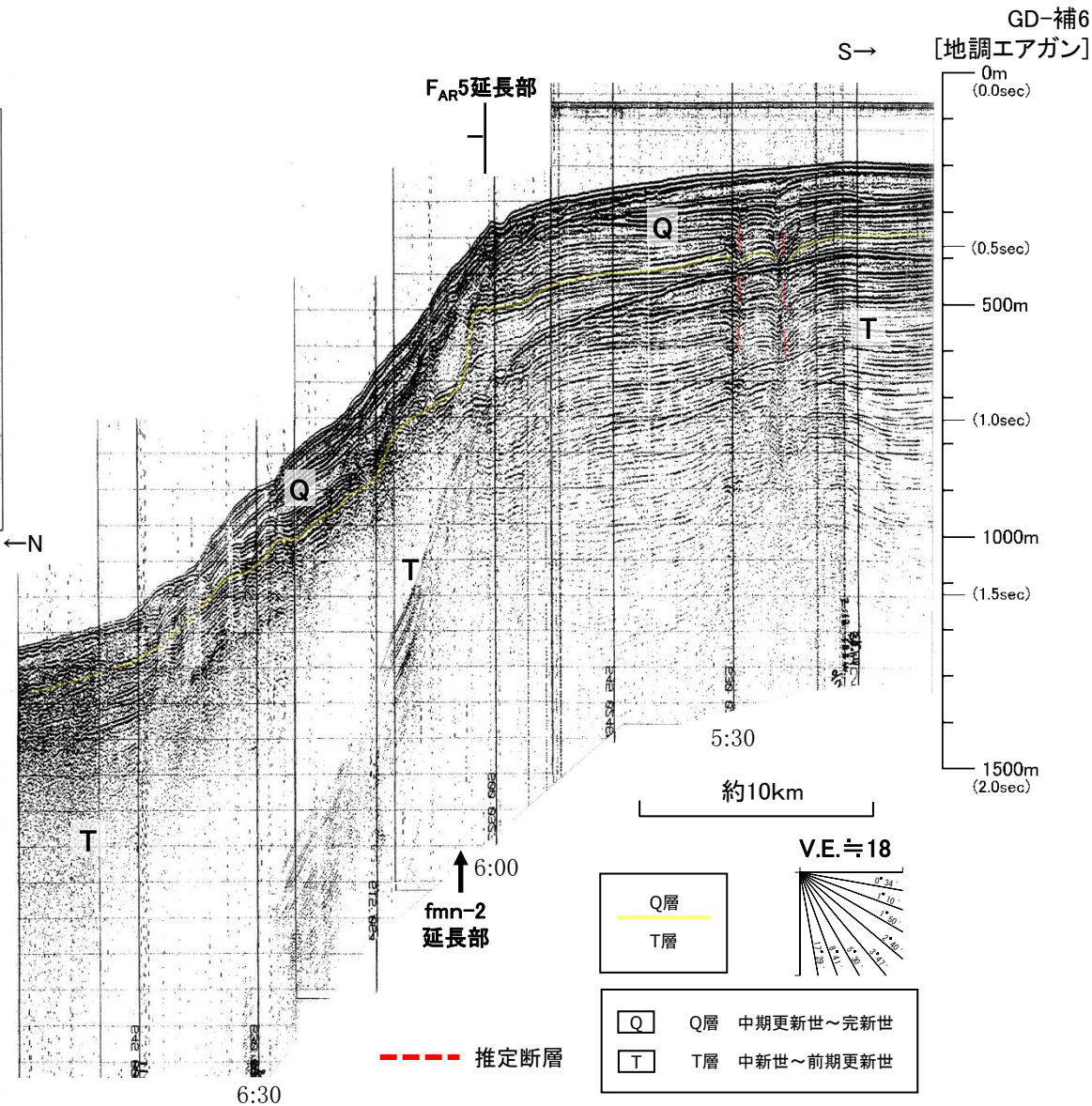
# 見島北方沖の断層の西端(音波探査解析図)



- 凡例
- 断層(線画)及び断層番号
  - 連続性のない断層
  - 音波探査記録が不明であることから、断層を想定した範囲
  - 右図に示す音波探査記録の位置
  - Q層又は堆積層に変位又は変形が認められるため、断層が音波探査記録に及んでいないものとする範囲
  - Q層が未知又は不明、もしくは分布が不明なため、断層が音波探査記録に及んでいないものとする範囲
  - 断層又は断層帯に一定性及び配列が認められないため、断層が音波探査記録に及んでいないものとする範囲



F<sub>AR</sub>:「新編 日本の活断層」1/100万による活断層



- |    |              |
|----|--------------|
| Q層 | Q層 中期更新世~完新世 |
| T層 | T層 中新世~前期更新世 |

--- 推定断層

文献断層延長部及びfmn-2断層延長部周辺には、T層(中新統~下部更新統)に変位や変形は認められない。

## 1. 敷地周辺海域の地質・地質構造

## 2. 敷地前面海域の断層活動性評価

- (1) F-Ⅲ断層, F-Ⅳ断層及びF-V断層
- (2) FK-1断層
- (3) K-4撓曲, K-6撓曲及びK-7撓曲
- (4) F-I断層
- (5) F-II断層
- (6) F-VI断層
- (7) K-5撓曲
- (8) F-①断層及びF-②断層

## 3. 敷地周辺海域の断層活動性評価

- (1) 鳥取沖西部断層及び鳥取沖東部断層
- (2) 大田沖断層
- (3) F57断層
- (4) K-1撓曲, K-2撓曲及びF<sub>KO</sub>断層
- (5) 隠岐北西方の断層
- (6) 見島付近の断層
- (7) 見島北方沖の断層
- (8) 地蔵崎北東沖の断層

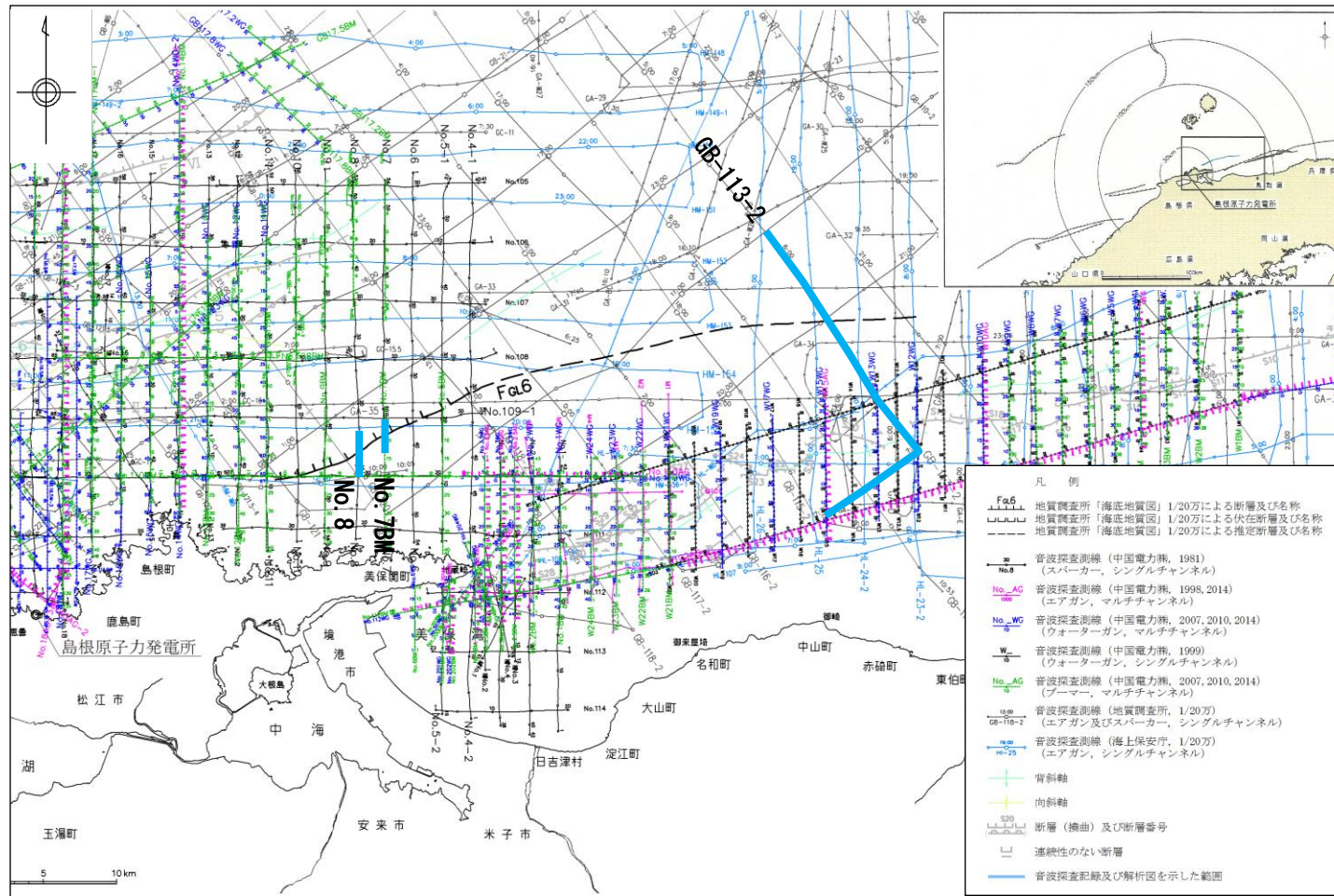
## 4. 敷地前面海域の地質層序

## 5. 敷地周辺海域の地質層序

- (1) 鳥取沖
- (2) 大田沖
- (3) その他海域

# 地蔵崎北東沖の断層の評価

地蔵崎北東方沖の断層の位置図

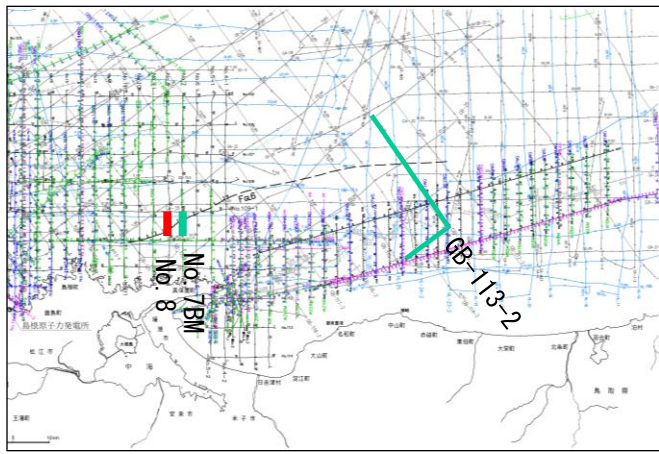


玉木ほか(1982)<sup>(36)</sup>で鳥取県東部から島根半島東部沿岸の大陸棚に示された断層(以下「地蔵崎北東沖の断層」という。)について、当社及び海上保安庁水路部等の音波探査記録に基づいて、分布性状及び活動性を検討した。

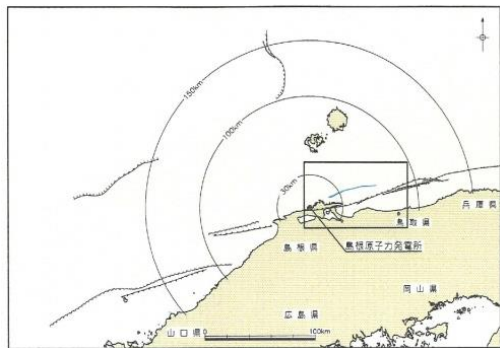
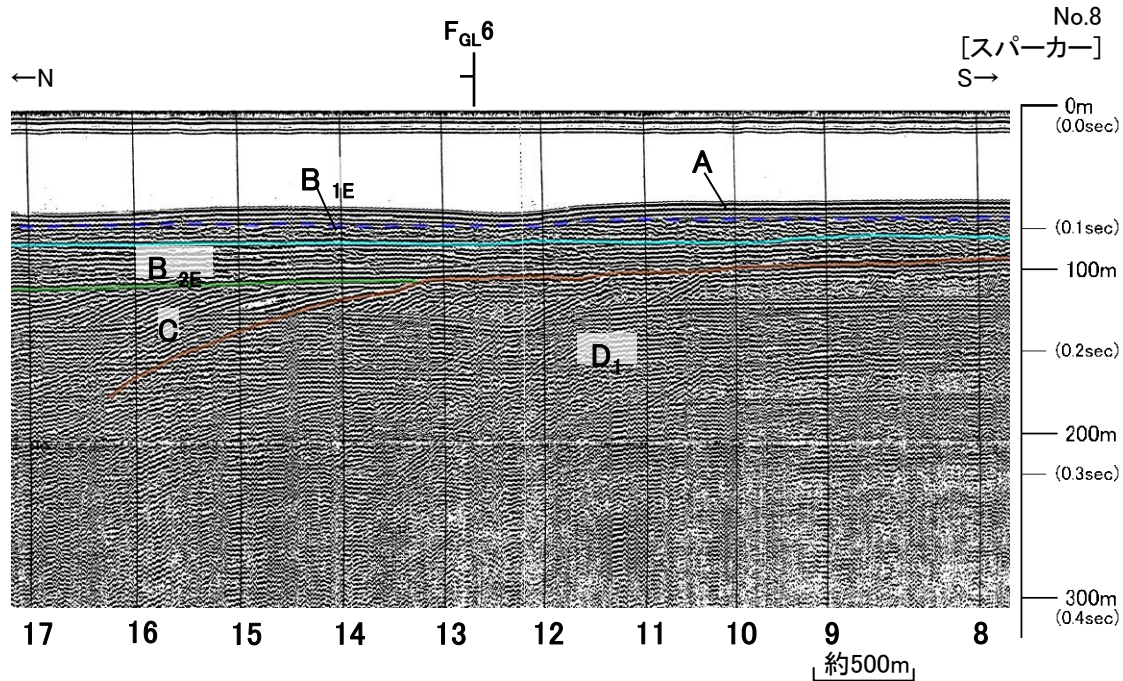
- ・地蔵崎北東沖の断層については、当社、海上保安庁水路部等の音波探査記録によれば、文献に示されている断層位置において、中部更新統以上に変位や変形は認められない。
- ・地蔵崎北東沖の断層については、少なくとも後期更新世以降の活動は認められない。

3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (8) 地蔵崎北東沖の断層

地蔵崎北東沖の断層の代表測線-1: 西部(音波探査解析図)

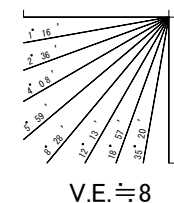


断層 (擁曲) 及び断層番号  
連続性のない断層  
右側に示す方位調査船の位置



F<sub>GL</sub>: 地質調査所「海底地質図」1/20万による断層、伏在断層及び推定断層

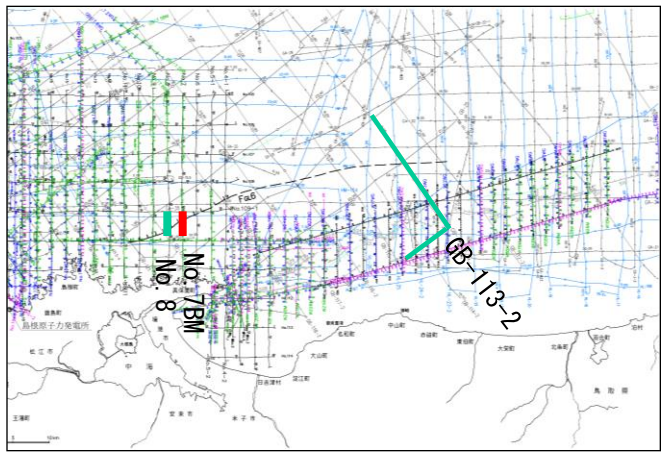
第四紀	更新世	後期	A
	更新世	中期	B <sub>1E</sub>
		前期	B <sub>2E</sub>
第三紀	新第三紀	鮮新世	C
	中新世	D	D <sub>1</sub> D <sub>2</sub>
火山岩・貫入岩			V



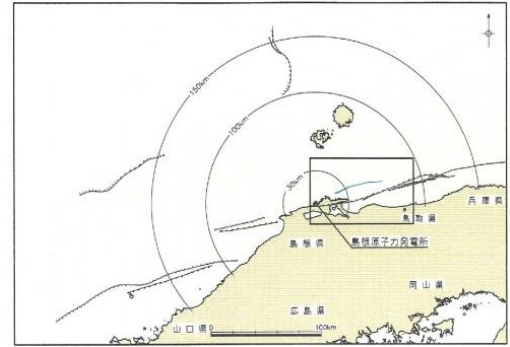
文献断層位置周辺には、D<sub>1</sub>層(中新統)に変位や変形は認められない。

3. 敷地周辺海域の断層活動性評価 (8) 地蔵崎北東沖の断層

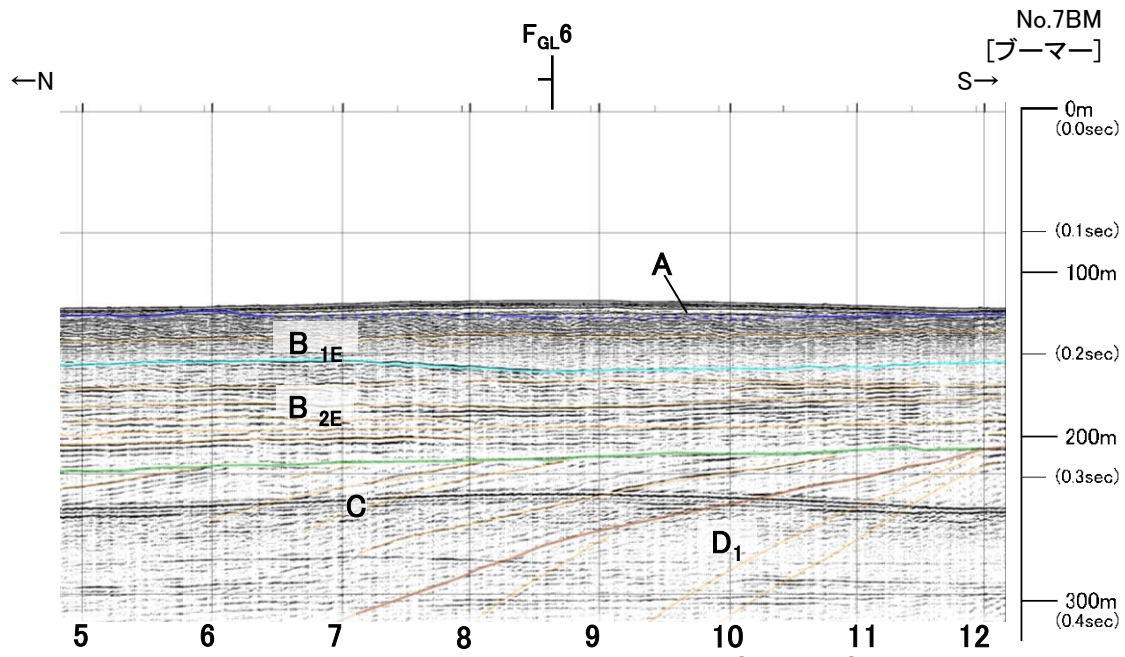
地蔵崎北東沖の断層の代表測線-2: 西部(音波探査解析図)



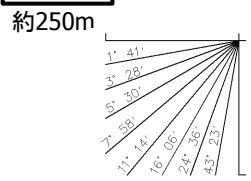
断層 (撓曲) 及び断層番号  
 連続性のない断層  
 右側に示す音波探査記録の位置



F<sub>GL</sub>: 地質調査所「海底地質図」1/20万による断層、伏在断層及び推定断層



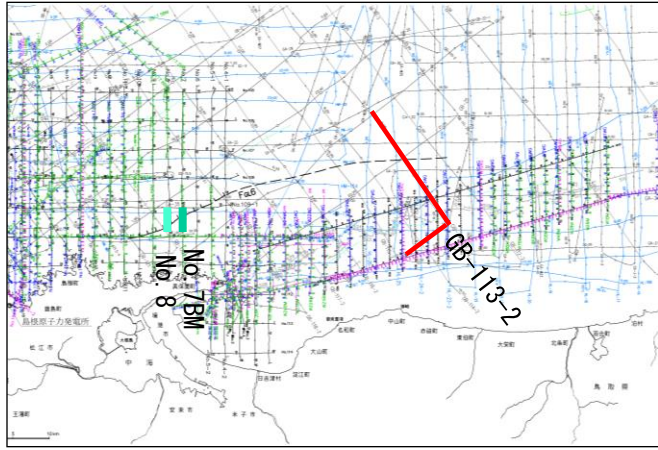
第四紀	全新世	A
	後期	B <sub>1E</sub>
	中期	B <sub>2E</sub>
更新世	前期	C
	中新世	D <sub>1</sub> D <sub>2</sub>
第三紀	火山岩・貫入岩	V



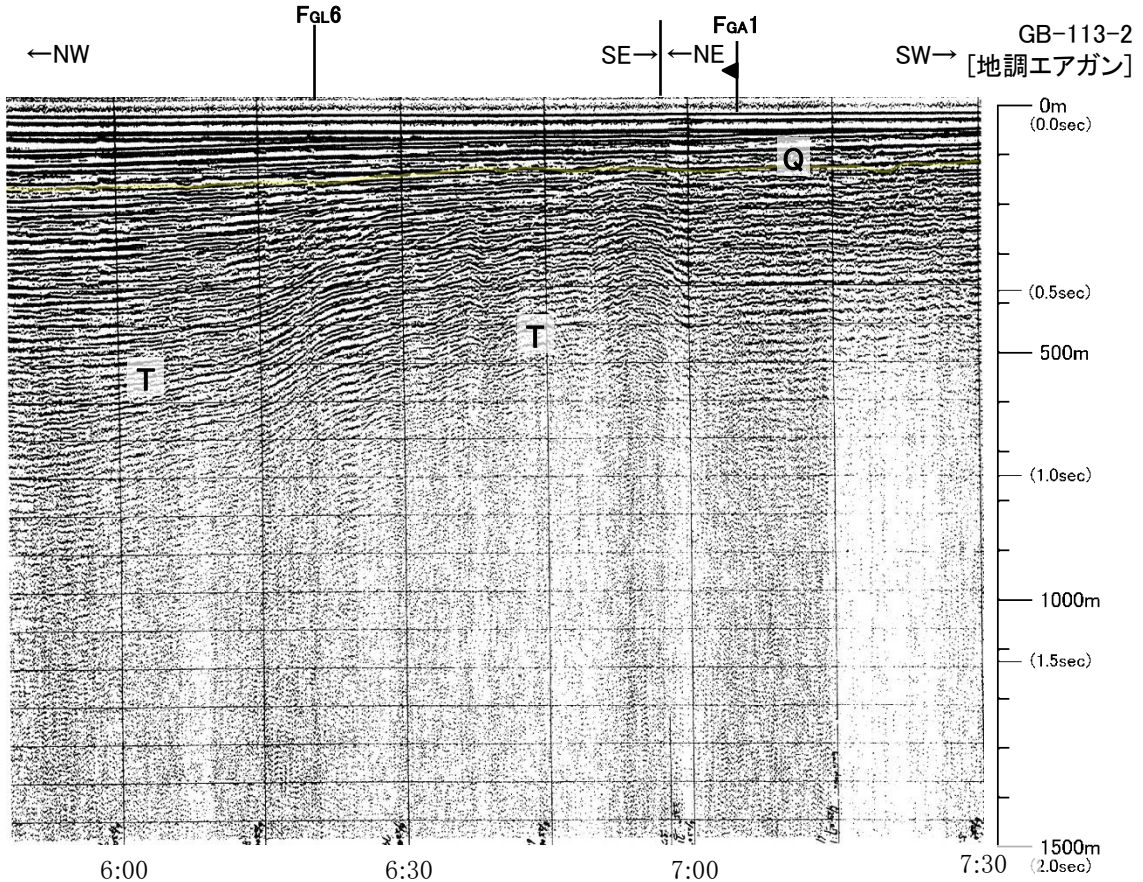
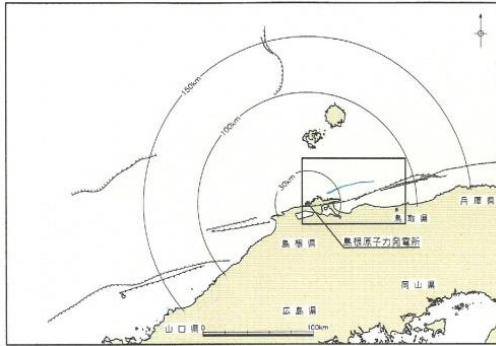
V.E. ≒ 6

文献断層位置周辺には、D<sub>1</sub>層(中新統)に変位や変形は認められない。

地蔵崎北東沖の断層の代表測線-3: 東部(音波探査解析図)



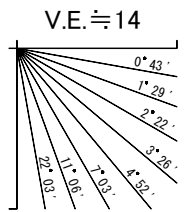
断層 (曲線) 及び断層番号  
連続性のない断層  
右側に示す方位調査記号の位置



F<sub>GA</sub>: 地質調査所「日本地質構造図」1/300万による新第三紀の逆断層  
F<sub>GL</sub>: 地質調査所「海底地質図」1/20万による断層、伏在断層及び推定断層

Q 層 中期更新世～完新世  
T 層 中新世～前期更新世

Q 層  
T 層



文献断層位置周辺には、T層(中新統～下部更新統)に変位や変形は認められない。